

日常生活における困りごとの実態調査
調査報告書

高松圏域自立支援協議会 身体障害者支援部会
令和3年6月

目次

当事者用アンケート	2
事業所用アンケート	43
地域課題について	82
今後のとりくみについて	86

当事者用アンケート

高松圏域自立支援協議会 身体障害者支援部会
令和元年5月

目次

I. 調査の目的	4
II. 調査の概要	4
III. 調査結果	
• 記入者	5
• 年齢	5
• 性別	6
• 住まい	6
• 同居状況	7
• 頼れる人	7
• 障がいの種別	8
• 手帳の種別	8~9
• 日中の過ごし方	9~10
• 福祉サービスについて	10~11
• 住宅に関すること	12
• 医療に関すること	13
• 仕事に関すること	14
• 教育に関すること	15
• 情報収集に関すること	16~19
• 外出・活動に関すること	20~24
• 相談に関すること	25~29
• 地域生活に関すること	30~32
• 将来の生活に関すること	33~34
• 差別に関すること	35~38
• 災害に関すること	39~42

I.調査の目的

高松圏域自立支援協議会では平成 30 年度より、地域における身体障がいに関する困りごとの改善や支援の促進、地域への理解促進などを目的として、身体障害者支援部会を作ることとなった。まず、地域課題の抽出・整理を目的として、身体障がい者がどのように生活し、どのような困りごとがあるのか調査する。

II.調査の概要

1.調査対象

身体障害者手帳の交付を受けた 18 歳から 64 歳までの当事者のうち、高松圏域（高松市・三木町・直島町）に所在する施設入所支援、居宅介護、自立訓練、就労移行、就労継続（A 型・B 型）、グループホーム、生活介護事業所のいずれかと契約している方

2.調査期間

平成 30 年 11 月 21 日～平成 31 年 1 月 11 日

3.調査方法

高松圏域に所在する施設入所支援、居宅介護、自立訓練、就労移行、就労継続（A 型・B 型）、グループホーム、生活介護事業所の利用者定員に合わせて各事業所に用紙を持参した。対象となる利用者の選定は事業所に任せた。期日までに郵送にて回収した。

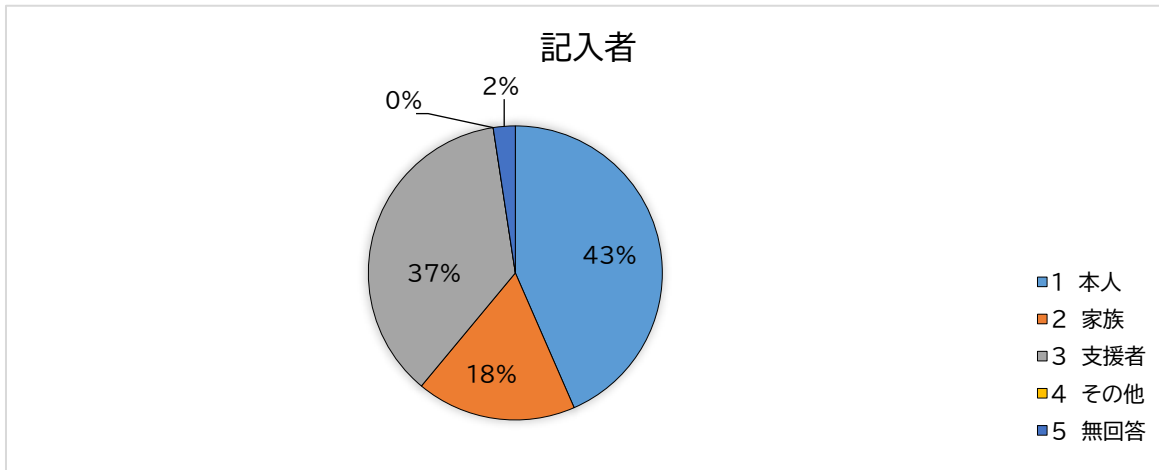
4.回収状況

調査数	回答数	回答率
383 件	290 件	76%

Ⅲ.調査結果

【記入者】

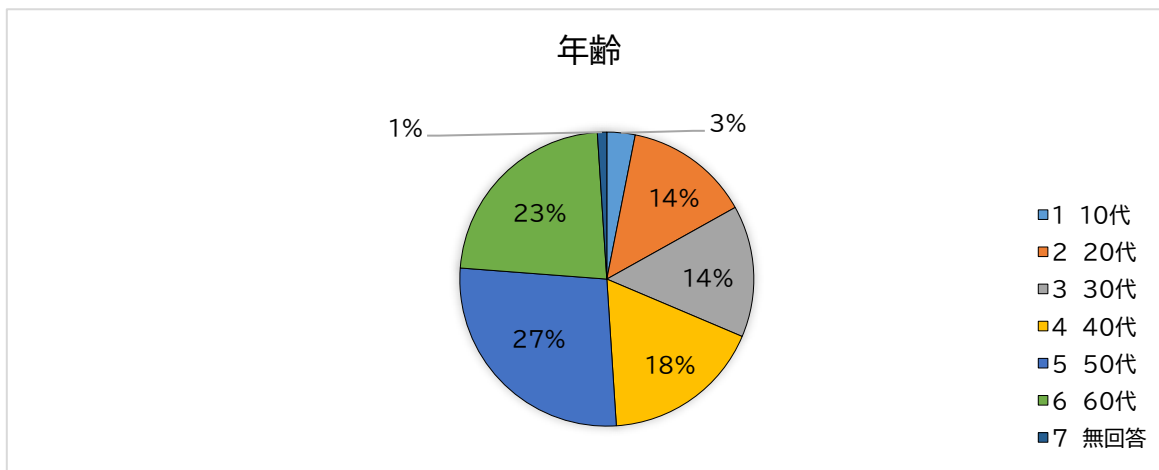
本人が43%と最も多く、支援者が37%、家族が18%となっている。



【年齢】

問1 あなたの年齢をお答えください。あてはまるもの1つに○をしてください。

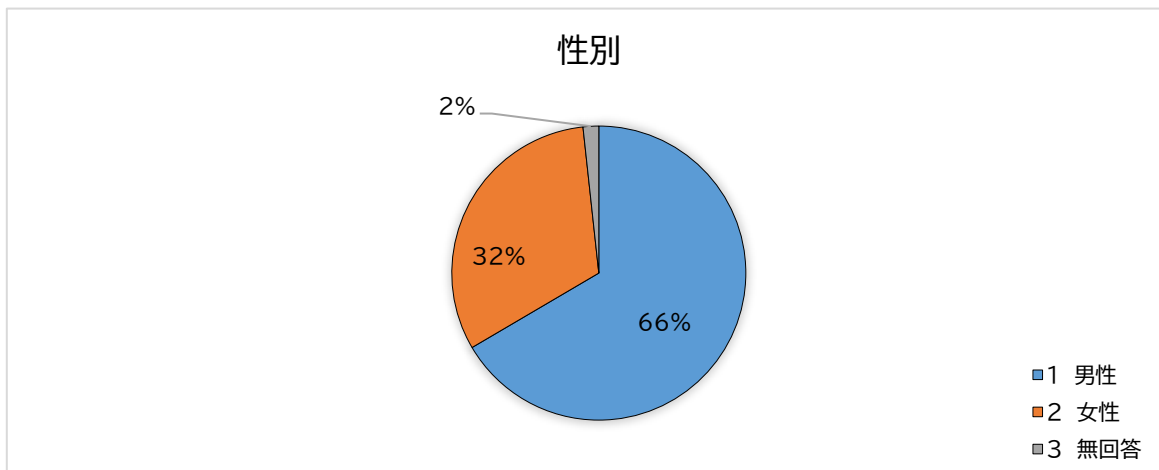
「50代」が27%と最も多く、次いで「60代」が23%となっており、合わせて全体の半数を占めている。



【性別】

問2 あなたの性別をお答え下さい。あてはまる方に○をしてください。

性別は、「男性」が66%、「女性」が32%となっている。

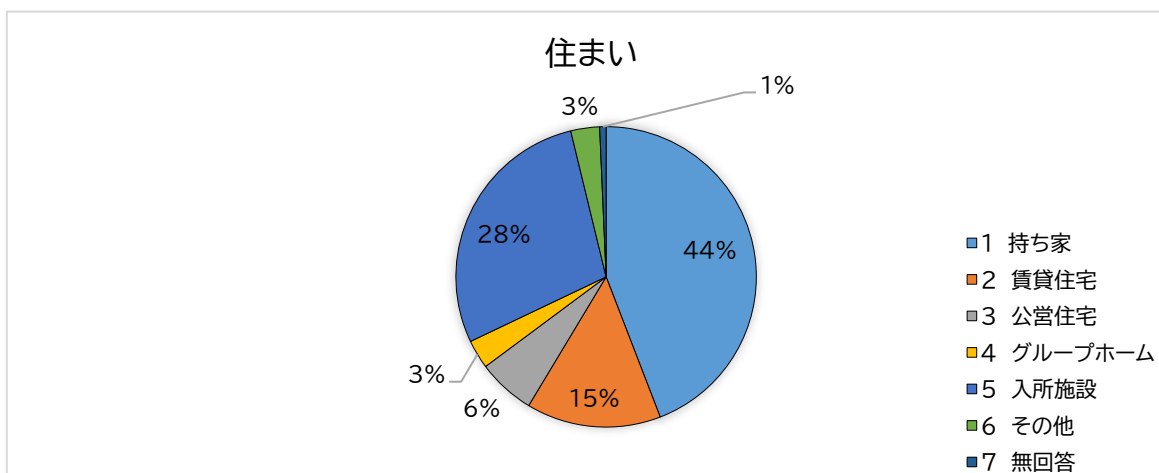


【住まい】

問3 あなたの住んでいるところをお答え下さい。あてはまるもの1つに○をしてください。

「持ち家」が44%、「入所施設」が28%、「賃貸住宅」が15%などとなっている。

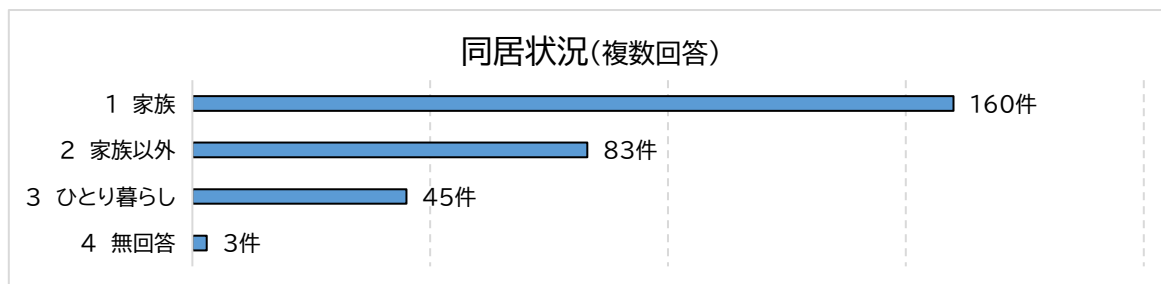
問4 [同居状況] と照らしあわせると「持ち家」で生活している人の75%が家族と生活している。



【同居状況】

問4 あなたは誰と一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

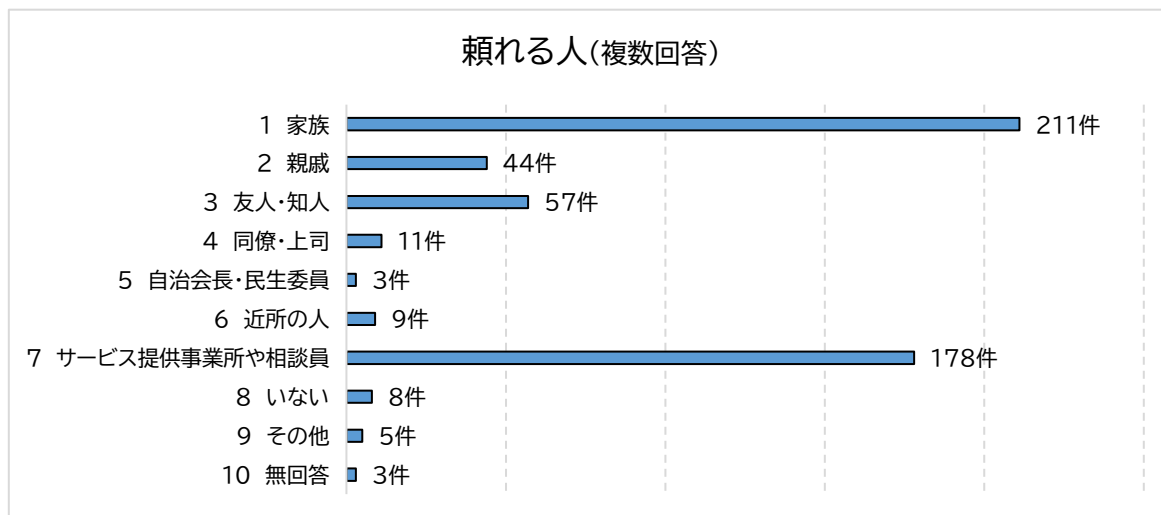
「家族」が160件、「家族以外」が83件、「ひとり暮らし」が45件となっている。
「家族以外」と回答したほとんどの人が、施設やグループホームの入所者と同居していると回答している。



【頼れる人】

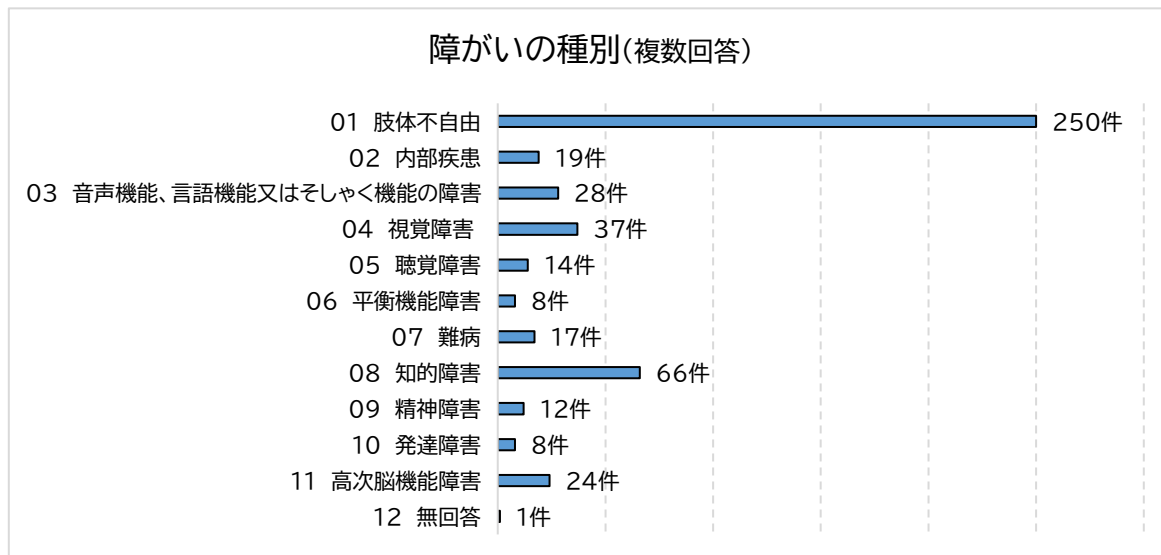
問5 あなたが、普段生活する中で困ったときに頼れる人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「家族」が211件と最も多く、次いで「サービス提供事業所や相談員」が178件、「友人・知人」が57件、「親戚」が44件などとなっている。「自治会長・民生委員」や「近所の人」は合わせて12件に留まっている。



【障がいの種別】

問6 あなたの障がいの内容をお答えください。あてはまるものすべてに○をしてください。



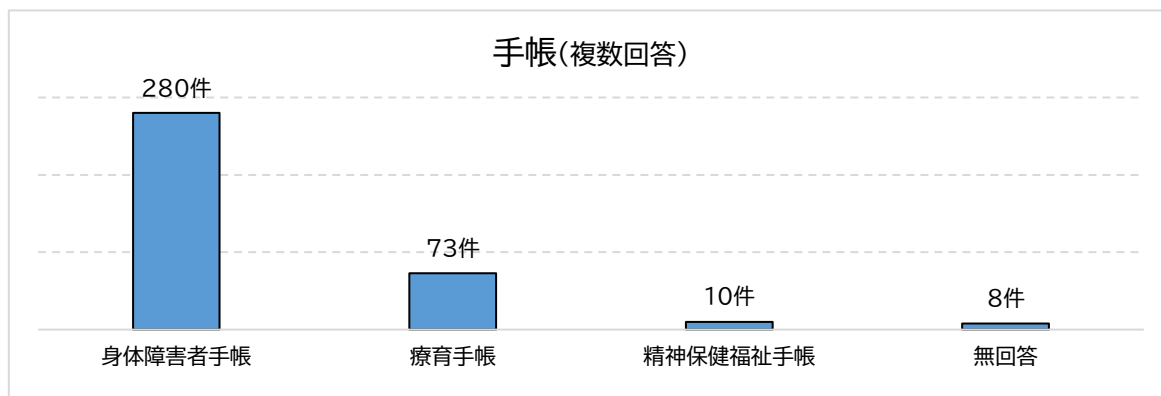
今回の調査では「肢体不自由」が250名と最も多く、次いで「視覚障害」が37名となっている。身体障がいとの重複障がいでは「知的障害」が66名、「高次脳機能障害」が24名となっている。

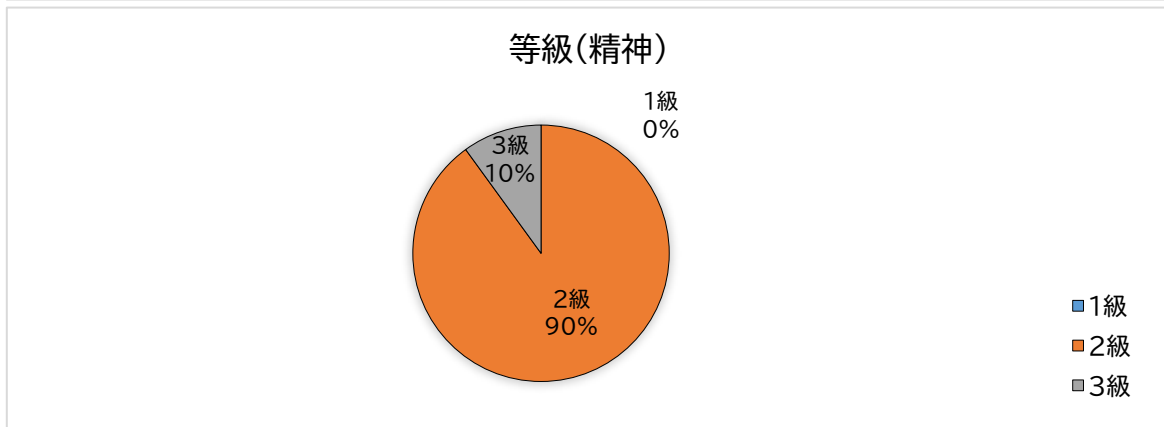
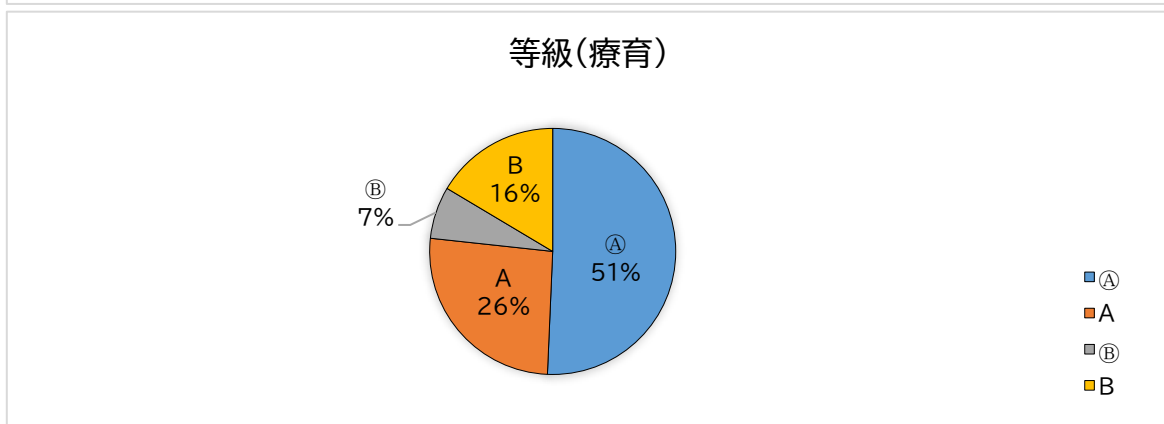
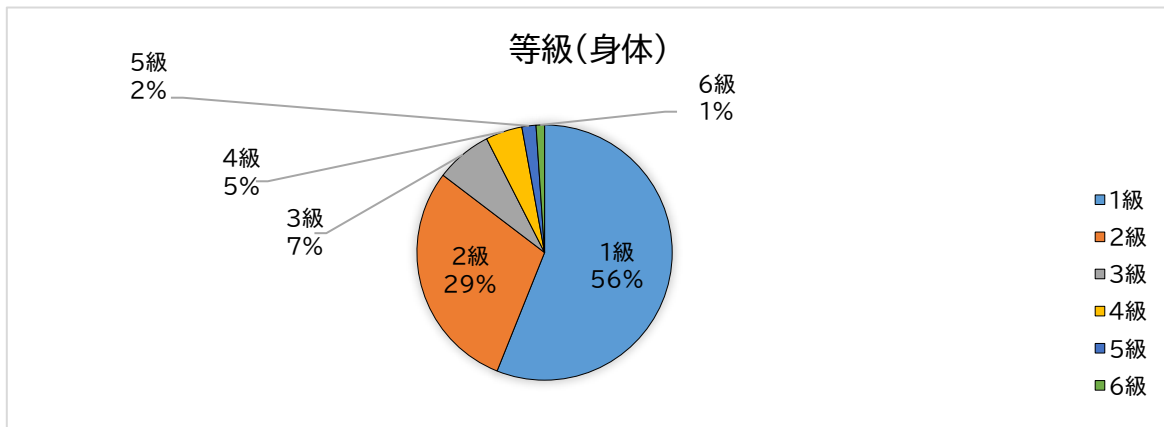
【手帳の種別】

問7 あなたの障害者手帳取得状況をお答えください。あてはまるものすべてに○をしてください。

「身体障害者手帳」が280件、次いで「療育手帳」が73件、「精神保健福祉手帳」が10件となっている。

等級は、身体障がい者は「1級」が56%、次いで「2級」が29%。療育手帳は「㊤」が51%、次いで「A」が26%と重度の障がい者が多い。精神保健福祉手帳は「2級」が90%と最も多く、次いで「3級」が10%、「1級」は0%となっている。

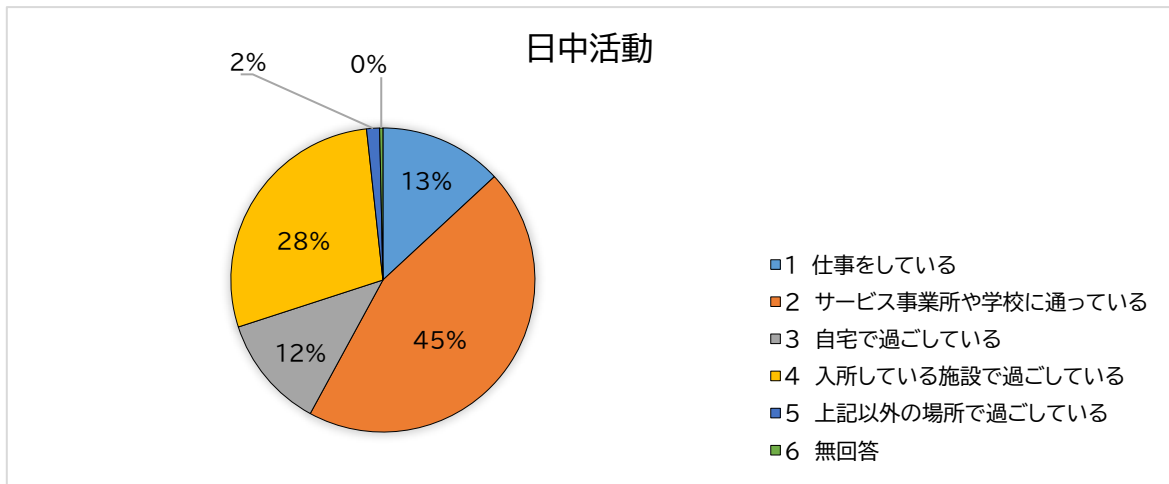




【日中の過ごし方】

問8 あなたの日中の過ごし方について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

「サービス事業所や学校に通っている」が45%と最も多く、次いで「入所している施設で過ごしている」が28%、「仕事をしている」が13%などとなっている。
 この設問での「仕事」は一般就労とは限っておらず、次の問9で利用している福祉サービスを就労継続支援B型と回答した方が多いことから、「仕事をしている」と回答した方の中には、就労継続支援A型・B型を利用している人も含まれると考えられる。

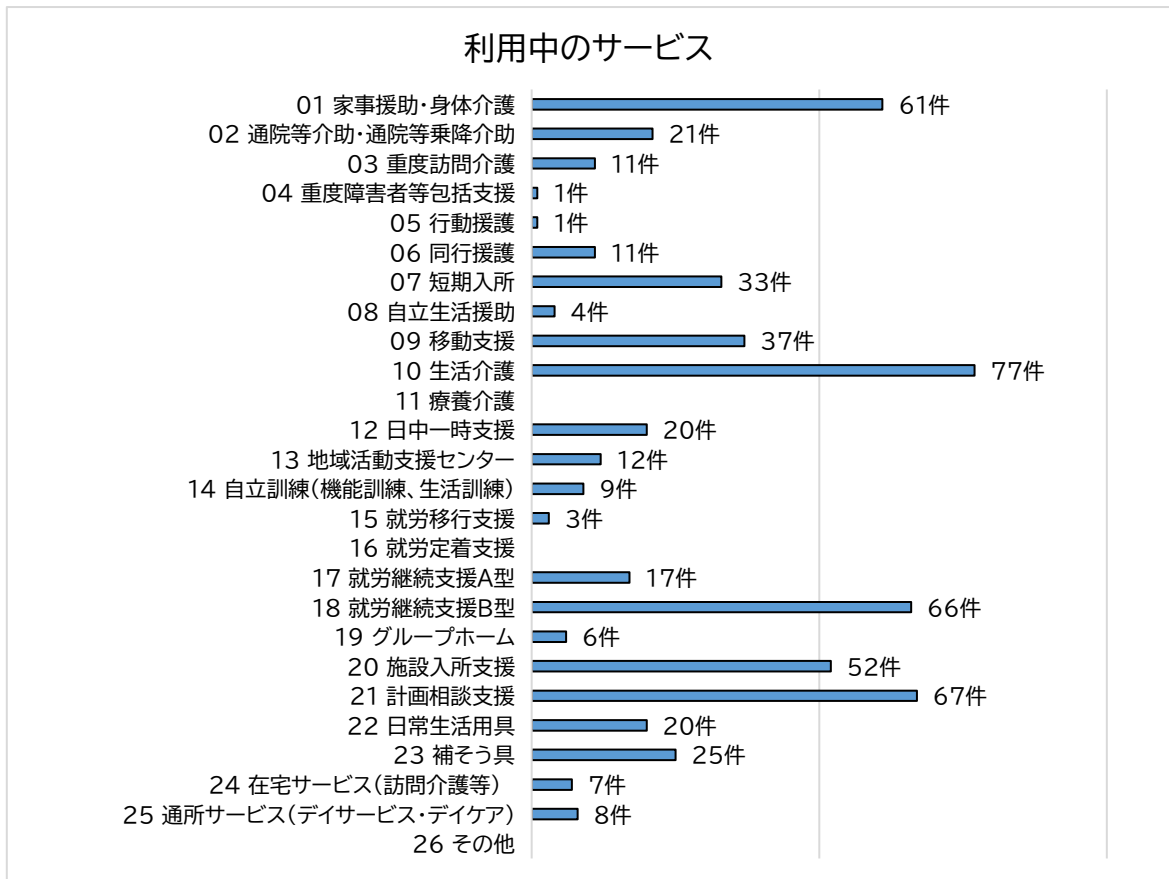


【福祉サービスについて】

問9 あなたが現在利用している福祉サービスの番号に○をつけてください。

「生活介護」が77件と最も多く、次いで「計画相談支援」が67件、「就労継続支援B型」が66件、「家事援助・身体介護」が61件などとなっている。

障がい福祉サービスを利用している人を対象としているため、「計画相談支援」は必ず利用しているはずだが回答者数とは異なっている。



福祉サービスのことについて、困っていることを具体的にご記入ください

◎社会資源について

- ・ショートステイの事業所がない
- ・医療的ケアが必要なため、利用できる生活介護、短期入所の施設が少ない
- ・喀痰吸引を行っている事業所が少ない（ヘルパーの方の数が少ない）
- ・家族 1 人で介護しているので家族の急用時に対応（サービス時間の変更や追加）してもらえるか心配
- ・移動支援：自宅まで迎えに来てくれる事業所が少ないため希望が集中して予約がとれないため外出をあきらめないといけないことが多い
- ・30～50代で認知機能も正常なのに選択肢がデイサービスしかない
- ・家族が休息できるよう、色々なサービスを増やしてほしい
- ・事業所の車を使って移動できる場所を増やしてほしい など

◎事業所について

- ・事業所のヘルパー不足のため入浴介助の日数が取れない
- ・支援員の人数不足
- ・伝達がきちんとできていない
- ・気に入らない人には挨拶は無視で文句は言う など

◎制度について

- ・ヘルパーに吸引してもらえるようになるまで手続き等も含めて時間がかかる
- ・事業所が増えている為、各事業所の情報がわからない。市役所に行っても紙しかくれず選べと言われても難しい
- ・就労移行に行っているとアルバイトに行けない
- ・通院介助が定期的な通院以外に使えない
- ・同行援護で通院できない（宇多津・坂出はOK）
- ・外出などで1人では歩行等不安なので移動支援を使いたいが使えなくて困っている
- ・痰の量が多く頻回に吸引が必要なので吸引器（日常生活用具で給付）が耐用年数までもたない。修理不能にならないと新しく購入できない など

正しく自分の使っている福祉サービスを答えられていない回答が多く見受けられ、福祉サービス全般においての理解が不十分であると考えられる。

利用者自身が主体的に福祉サービスを選ぶために、サービス事業所の情報を紹介しているWAMNETなどの活用が考えられる。

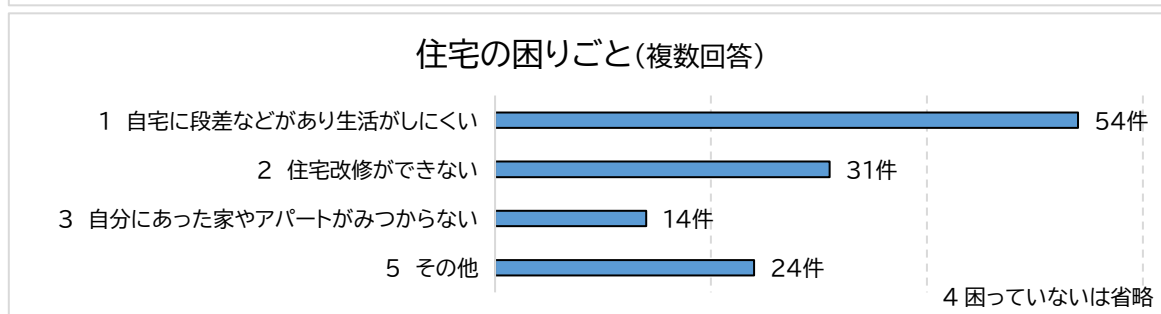
また、利用できる福祉サービスの事業所不足や人員不足により、利用者が求める十分な支援が受けられていないとの声もある。特に、医療的ケアが必要な人が利用できる事業所は限られている。幅広いニーズに対応できる人員や事業所を確保していく必要がある。

【住宅に関すること】

問 10 あなたが住んでいるところについて困りごとはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 32%が困りごとを感じている。住宅の困りごととして、「自宅に段差などがあり生活がしにくい」が54件、「住宅改修ができない」が31件、「自分にあつた家やアパートが見つからない」が14件となっている。問3〔住まい〕と照らしあわせると、住宅改修ができないと回答した人のうち、持ち家に住んでいる方は8%、賃貸・公営住宅に住んでいる人は20%となっている。

「困っていない」が最も多いが、その中で「持ち家」と「施設」で生活している人の割合が74%となっている。



※その他

- ・お風呂に段差があり入りづらい
- ・入り口にスロープがないので大変
- ・住宅改修する時に市役所の方に以前と違うことを言われた
- ・駐車場から玄関へのスロープがないので力が必要なので今後不安がある
- ・介助する人の体力がだんだんに衰えている など

「困っていない」と回答した人は家族と同居している人が多い。環境面で不都合があっても、家族の支援があるため、困っていないと考えられる。

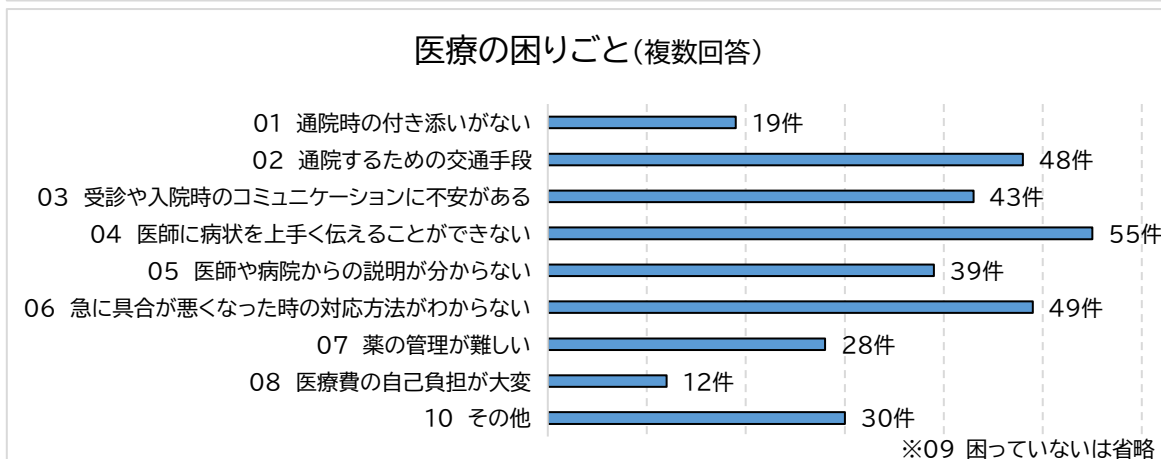
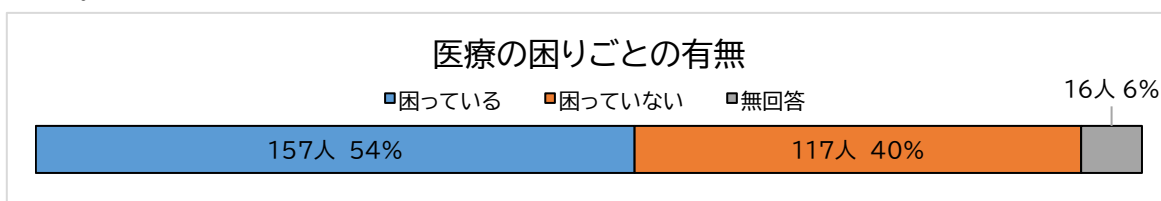
「その他」では、介助者の体力の衰えなど、将来についての不安の声もある。安心して在宅での生活を続けるためにも、住宅改修や日常生活用具、補装具など制度の情報提供を行う必要がある。また、同じ障がいをもつ人たちに住宅環境について経験したことを話してもらうなど、ピアサポーターからの情報提供なども有用と考えられる。

【医療に関すること】

問 11 あなたが医療に関して困ることはなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 54%が困りごとを感じている。医療の困りごととして、「医師に病状を上手く伝えることができない」が 55 件、「急に具合が悪くなった時の対応方法がわからない」が 49 件、「通院するための交通手段」が 48 件となっている。

困っていないと回答した人のうち、問 4 [同居状況] と照らしあわせると、家族・家族以外と同居している人は 29%、ひとり暮らしの人は 17%とひとり暮らしの人のほうが困っている。



※その他

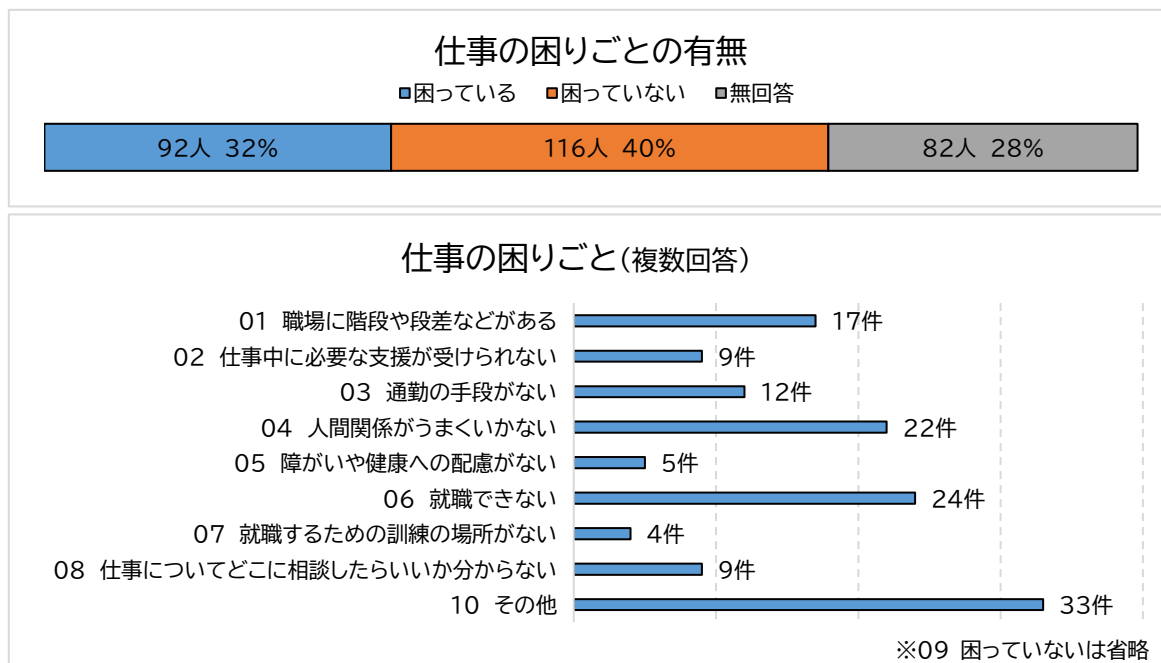
- ・しゃべりにくいため言いたいことを伝えにくい
 - ・家族がいる間はすべて困らない
 - ・母といっている
 - ・親がやってくれている
 - ・てんかん発作に対応してくれる神経内科が香川にない
 - ・体調不良時の通院の際に付き添いがほしい
- など

医療関係者とのコミュニケーションに不安を感じている人が多くいる。日頃から関わっている支援者が、コミュニケーションを取る時の配慮を医療機関に伝えることで、安心して受診できるのではないかと考えられる。また、急な体調不良に備えて、本人、家族、相談支援事業所などにて事前に緊急時の対応方法などを話し合っておくことも重要である。

【仕事に関すること】

問 12 あなたが仕事のことで困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 32%が困りごとを感じている。仕事の困りごととしては「その他」が 33 件、「就職できない」が 24 件、「人間関係がうまくいかない」が 22 件となっている。



※その他

- ・家から出られない人のための仕事がほしい
- ・仕事に重度訪問介護が認められないこと
- ・事業所の手すりがない
- ・トイレが狭い
- ・給料、収入面
- ・他の利用者どう接すれば良いのか迷う時がある
- ・仕事ができる状態ではない
- ・仕事は無理なので家族やいろんな人に助けってもらって暮らしている など

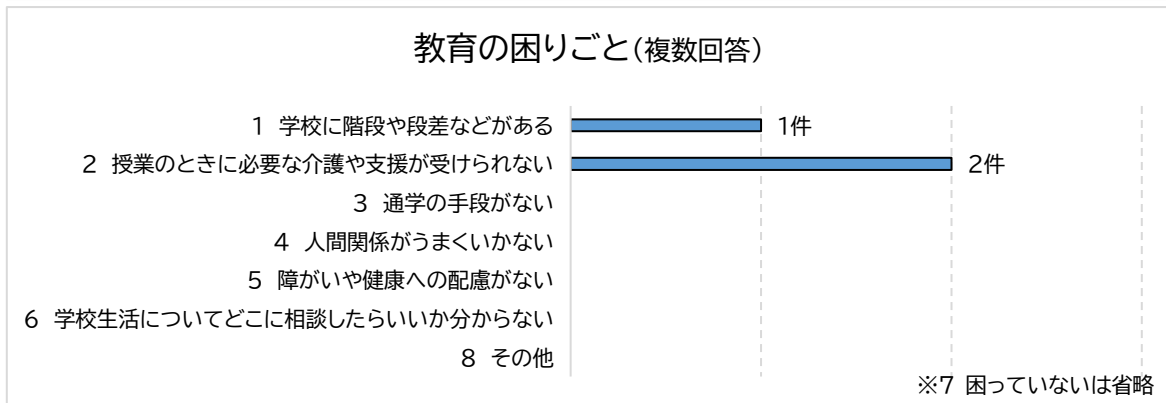
この設問で、「仕事」は一般就労とは限っておらず、回答した人の中には、就労継続支援A型・B型を利用している人も含まれると考えられる。

「困っている」の中では「その他」が一番多く、その中でも「仕事ができる状態ではない」など、仕事をしていない人が多い。また、「就職できない」、「就職するための訓練の場がない」との回答も多い。ハローワークや障害者就業・生活支援センターなどの関係機関との一層の連携が必要である。

【教育に関すること】

問 13 あなたは、大学や専門学校などで困ることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（現在、大学・専門学校に在学中の方にお聞きします。）

「困っていない」が9件で最も多く、「授業のときに必要な介護や支援が受けられない」が2件、「学校に階段や段差などがある」が1件となっている。

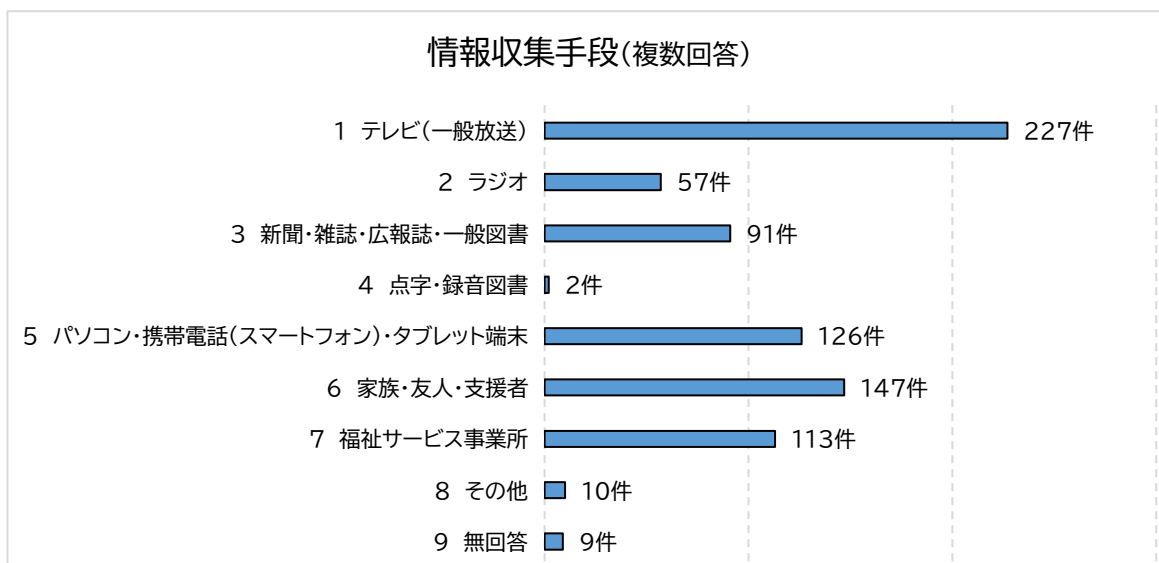


大学・専門学校に在学中の人と限定しているため無回答者が多く、大学・専門学校には通っていないため困っていないと回答した人もいると考えられる。

【情報収集に関すること】

問 14 (1) あなたが生活していくために必要な情報をどのように得ていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

情報を集める手段として「テレビ（一般放送）」が最も多く 227 件、次いで「家族・友人・支援者」が 147 件、「パソコン・携帯電話（スマートフォン）・タブレット端末」が 126 件、「福祉サービス事業所」が 113 件となっている。



※その他

- ・ダイレクトメールの情報
- ・市役所福祉課
- ・当事者団体
- ・親が全部している
- ・理解できないため情報を得ることはできていない など

問 14 (2) 必要な情報を得るうえでどのような困りごとがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の約 37%が困りごとを感じている。情報を得るうえでの困りごととして、「機器の使い方や利用方法がわからない」「機器が使いにくい」の回答は合わせて 64 件、機器としては「携帯電話（スマートフォン）」「タブレット端末」「パソコン」が多い。

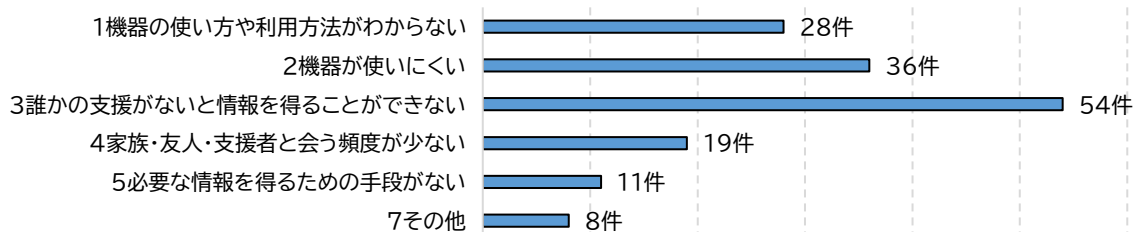
問6 [障害内容]と照らし合わせると視覚障害者の方が肢体不自由者と比べて、「機器の使い方や利用方法がわからない」「機器が使いにくい」と回答している。

情報入手での困りごとの有無

■困っている ■困っていない ■無回答



情報入手での困りごと(複数回答)

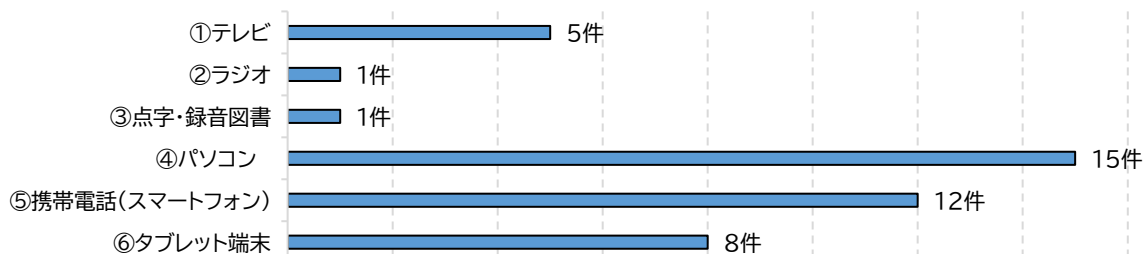


※6 困っていないは省略

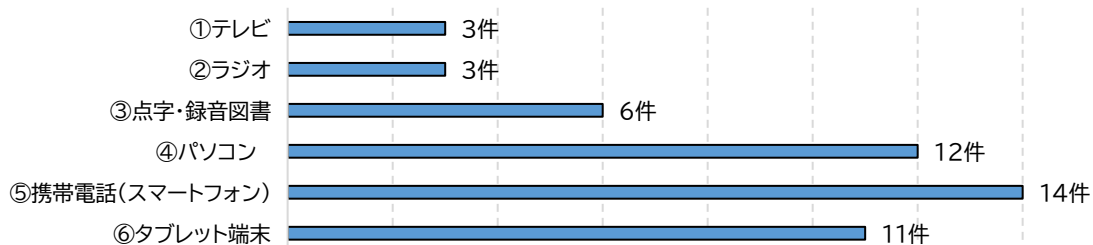
※その他

- ・スマホやタブレットは高い
- ・施設にWi-Fiがない
- ・点字が読めない
- ・誰に聞けばいいかわからない
- ・情報を発信しているところとなかなかつながれない など

使いにくい場合の機器(複数回答)

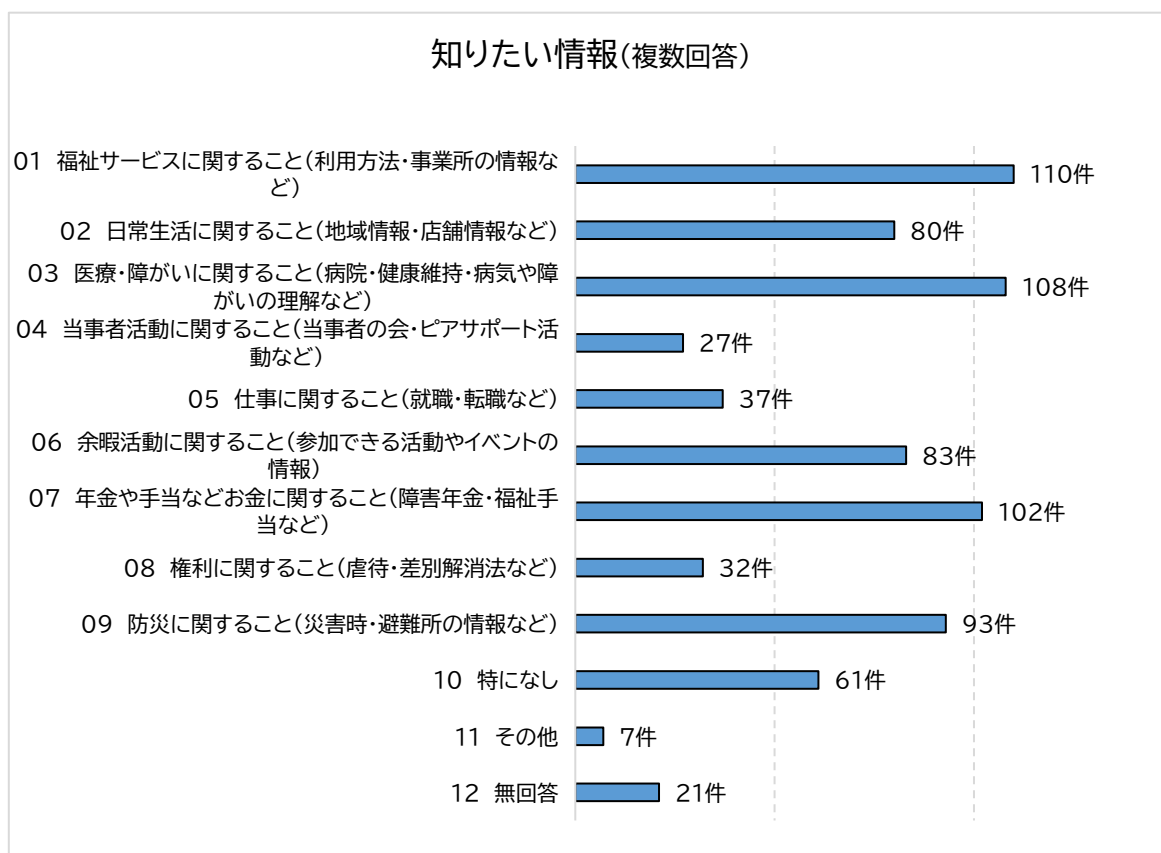


分からない場合の機器(複数回答)



問 14 (3) 今後、どのような情報を知りたいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

知りたい情報として、「福祉サービスに関すること（利用方法・事業所の情報など）」が最も多く 110 件、「医療・障がいに関すること（病院・健康維持・病気や障がいの理解など）」が 108 件、「年金や手当などお金に関すること（障害年金・福祉手当など）」が 102 件となっている。次いで、「防災に関すること（災害時・避難所の情報など）」「余暇活動に関すること（参加できる活動やイベントの情報）」「日常生活に関すること（地域情報・店舗情報など）」が多い。



※その他

- ・ 公になっている自ら得られるような情報ではない生きた情報
- ・ 障害者の関わる事件に関すること
- ・ 分からない
- ・ 本人がどのようなことを知りたいか分かりません

など

どのような情報が知りたいか具体的にご記入ください

◎福祉サービスについて

- ・サービス内容を知りたい
- ・生活介護の施設を教えてください
- ・介護の事業所の評判や運営状況
- ・障害者が生活していく上で新しい施設の設定
- ・介護保険への移行について

など

◎福祉サービス以外について

- ・パソコンを教えてください人が欲しい
- ・私で取得できる資格。調理師免許はあるのでそれに類する資格
- ・災害時どこに避難するかわからない
- ・仕事となる制度が使えないのでその相談先や的確なアドバイスいただける人がいない
- ・小児科から内科で診てくれる病院がない
- ・将来の事が不安なので、新しい情報はどんどん知りたい

など

情報獲得の手段として、テレビやラジオ・新聞など以外では、「パソコン・携帯電話（スマートフォン）・タブレット端末」など機器を使用する方法と「家族や支援者・福祉サービス事業所」など人から情報を得る方法に大別される。

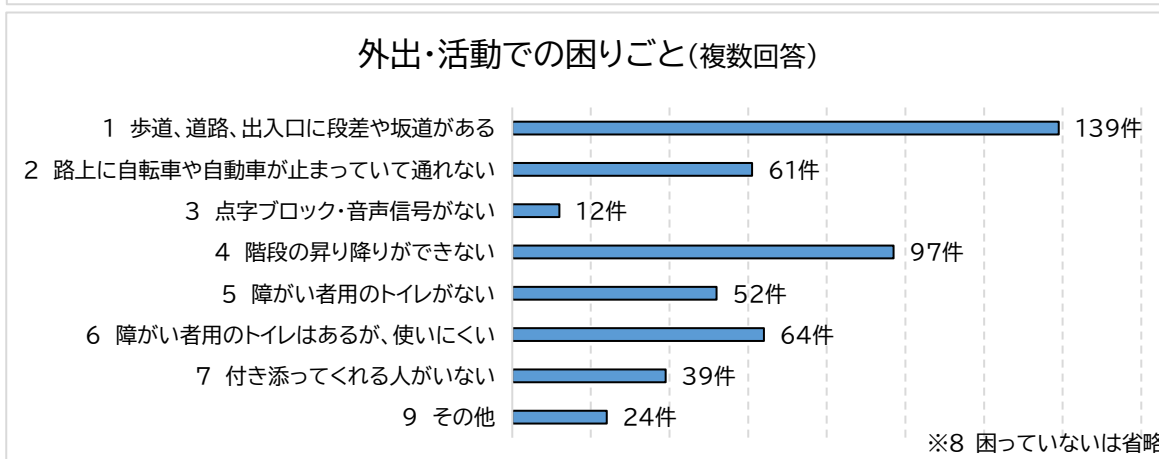
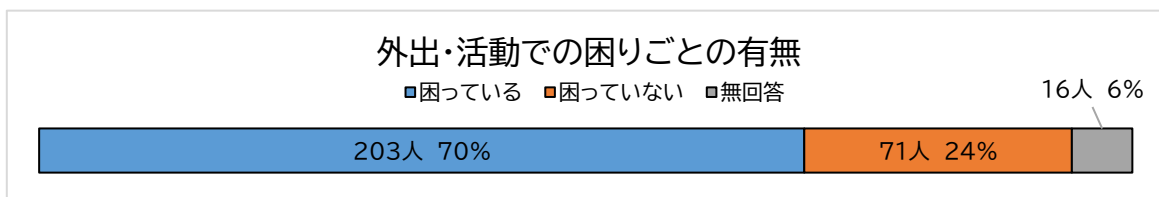
困りごとがあると答えた人の60%が「機器の使い方や利用方法が分からない」「機器が使いにくい」と感じている。情報収集をしやすくするため、香川県視覚障害者福祉センターのパソコン指導やかがわ総合リハビリテーション福祉センターのIT活用支援や福祉用具相談などを活用し、障がい特性にあった機器の活用方法の習得や環境調整に向けた支援が必要と考えられる。

また、日常生活に直結している福祉サービスや医療・障がい、お金に関する情報についてのニーズが多いものの、大規模災害への危惧からか、防災への関心も高くなっている。災害への備えや災害時の避難情報など、重要な情報を伝えられる仕組みを検討する必要がある。

【外出・活動に関すること】

問 15 (1) あなたが外出するときに困ることはなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の70%は困りごとを感じている。外出・活動時の困りごととして、「歩道、道路、出入口に段差や坂道がある」が最も多く139件、「階段の昇り降りができない」が97件となっている。



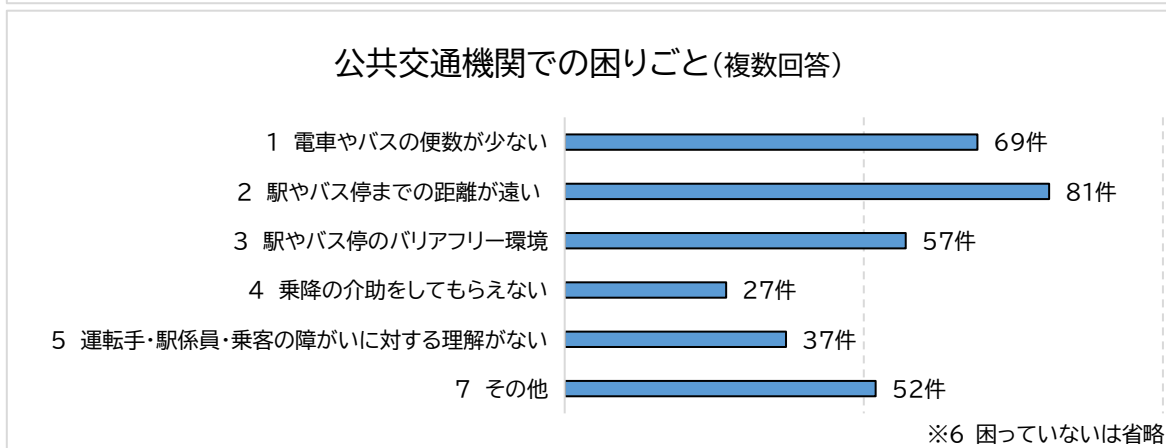
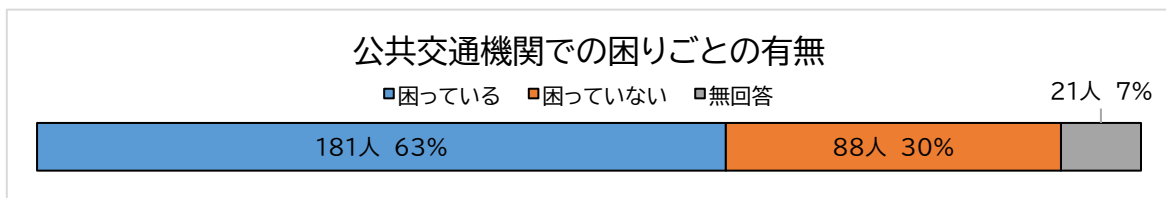
※その他

- ・医療ケアが必要で介助者が2人は必要
- ・フルリクライニング車いすで介助者2名が同乗できる介護タクシーが少ない
- ・障がい者用トイレに成人用トイレに成人用のおむつ交換台がないので困っている
- ・店の中での通路が狭く車いすで通りにくい
- ・視覚障がいがあり、外がまぶしすぎる
- ・決められた時間では足りないときがあり遊びに行きにくい
- ・宿泊場所の数が少ない
- ・親が病気した時に支援してくれる人が少ない
- ・わからない

など

問 15 (2) あなたが公共交通機関を利用するときに、どのようなことに困りますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の63%は困りごとを感じている。公共交通機関の困りごととして、「駅やバス停までの距離が遠い」81件、「電車やバスの便数が少ない」69件、「駅やバス停のバリアフリー環境」57件となっている。

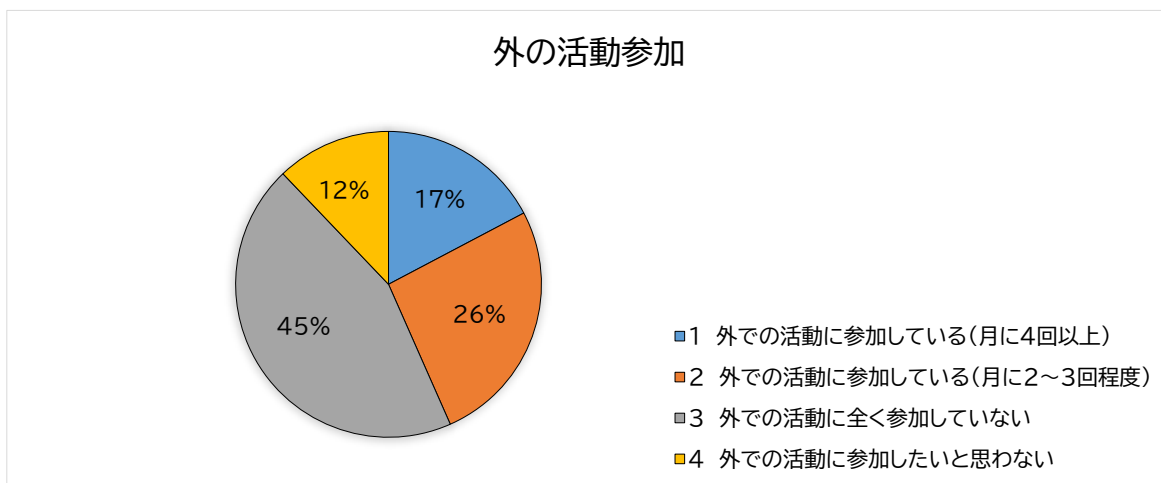


※その他

- ・利用していない
 - ・利用したことがない
 - ・利用の仕方がわからない
 - ・移動や動作に時間がかかる
 - ・公共機関使用は一人では危ないが誰もいない場合困る
 - ・電車の切符購入時現金での支払いが不便(電話で予約し、事前に取りに行く必要がある)
 - ・出先でのトイレに困るおむつ交換のときベッドが必要だが、大きくなるとベビーベッドは使えない。駅等にはフラットなベンチも少ないところがあるし、大人サイズのおむつ交換台がほしい
 - ・今は家族と一緒に困らない
- など

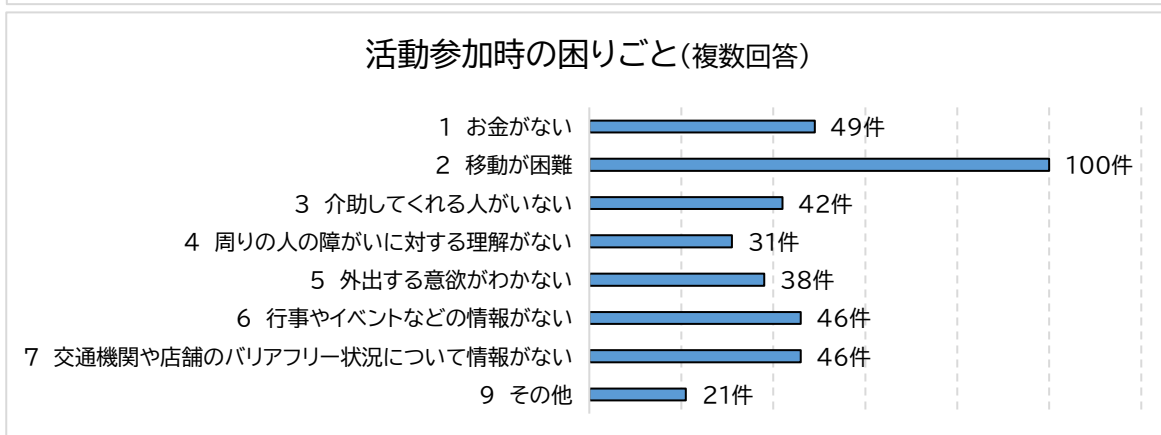
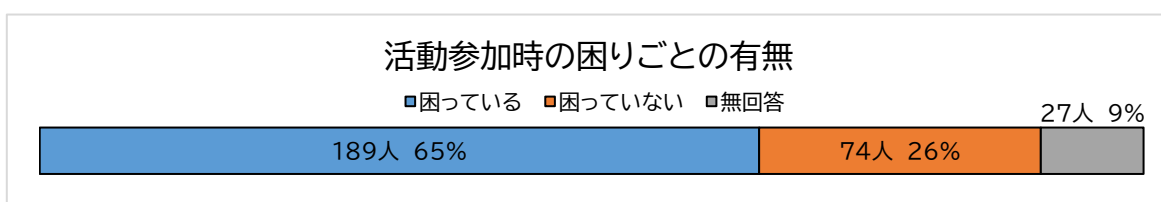
問 15 (3) あなたは外に出て、いろいろな活動に参加していますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

参加している外出活動として、「外での活動に全く参加していない」45%、「外での活動に参加している（月2～3回程度）」が26%、「外での活動に参加している（月に4回以上）」17%となっている。



問 15 (4) あなたが活動に参加する際に困ることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 65%が困りごとを感じている。活動に参加する際に困ることとしては、「移動が困難」が最も多く 100 件となっている。問 15 (3) と照らし合わせると「外での活動に全く参加していない」と回答した人の内 23%の人が「移動が困難」と回答している。

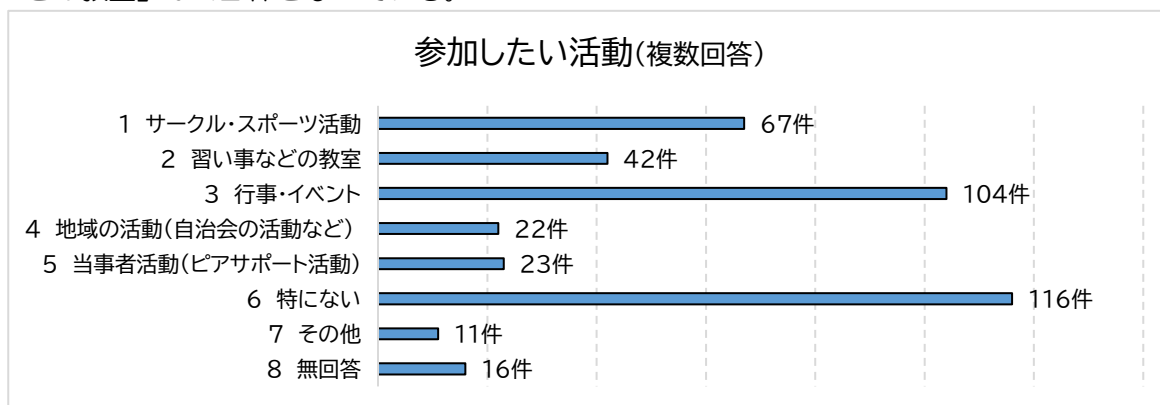


※その他

- 付き添ってもらえる人がいないため参加出来ていない
 - 行きたくてもいけない場合がある。特に同性同士でないと困る
 - バリアフリーの建物や施設がない
 - トイレおむつ交換
 - 和式トイレしかないところもある。障がい者用のトイレのないところがある
 - 興味のあるものが少ない
 - 参加したいと思う活動の場がない
 - 障害者用の習い事が（高松市のように）あれば気軽に外出がもっと楽しめると思う（特に重度な場合において）
- など

問 15 (5) あなたはどのような活動に参加してみたいですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の54%が何らかの活動に参加してみたいと思っている。参加してみたい活動としては、「行事・イベント」が104件、「サークル・スポーツ活動」が67件、「習い事などの教室」が42件となっている。



※その他

- スポーツ観戦・観劇（宝塚とかエアロビクスとか）
 - 阪神タイガース(のプロ野球)の試合を真近で見たい
 - 絵本製作、自費出版の為の就職活動
 - 障害者にもっとアルバイトできる場所が欲しいです
 - わからない
- など

外出時は「歩道、道路、出入口に段差や坂道がある」「階段の昇り降りができない」などの環境面について困っていることが多い。

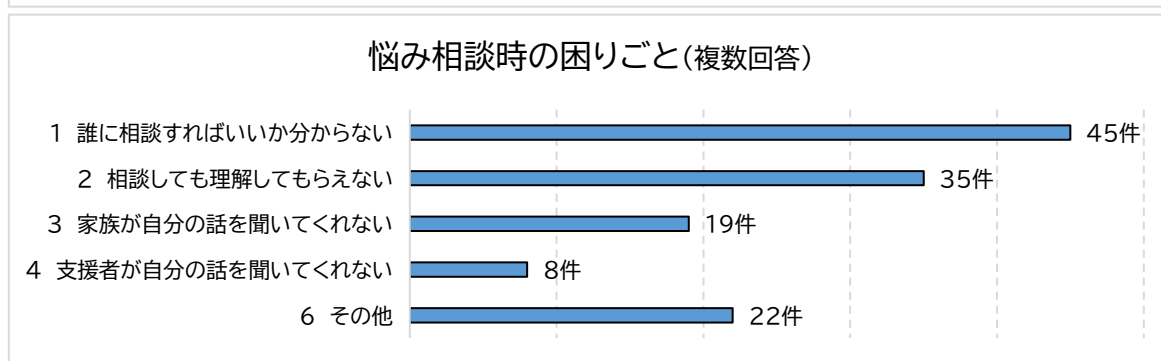
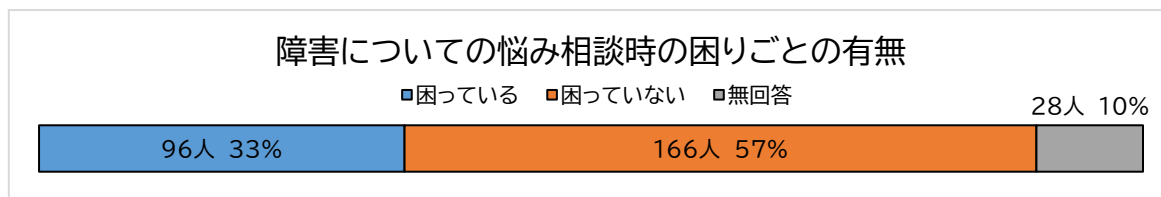
公共交通機関については、駅までの距離や電車やバスの便数の少なさなど、利便性や駅のバリアフリー環境に課題があり日常の移動手段としては使いにくい状況がある。また、公共交通機関をそもそも利用したことがなく、利用方法が分からないとの意見も多い。

また、障がい者用トイレについて、「少ない」という回答より「あるが使いにくい」という回答のほうが多い。より身体障がい者が使いやすい設備について検討していく必要がある。身体障がい者の参加を促進するために、移動手段を確保する必要があると考えられる。

【相談に関すること】

問 16 (1) あなたが障がいについての悩みを相談する時に困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 33%が困りごとを感じている。相談をする時の困りごととして「誰に相談すればいいかわからない」45 件、「相談しても理解してもらえない」35 件となっている。また、その他では「相談しても解決しない」「満足できる答えをくれない」といった回答もあった。

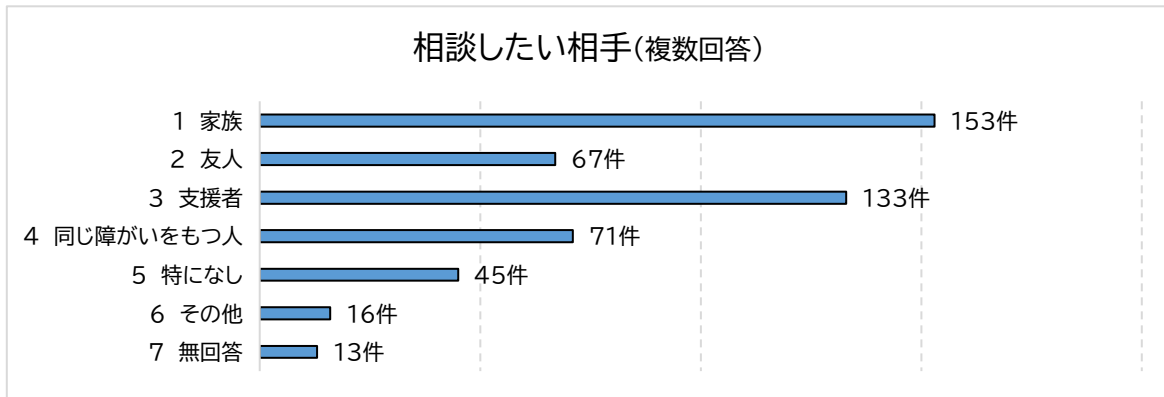


※その他

- ・相談しても満足できる結果にはならない
- ・相談しても解決しない
- ・その都度悩みが違うので誰に相談したらよいか迷い・考える
- ・相談できる人を自分で見つけている
- ・解決策をいっしょに考えてほしいが、なかなかそこにたどり着かない
- ・今後家族がいなくなった場合(特に両親)に相談にのってくれる人がいるかどうか心配
- ・言語障害があるため
- ・悩みを人に伝えられない など

問 16 (2) 障がいについての悩みを話したいと思う人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

相談相手としては、「家族」が最も多く 153 件、「支援者」が 133 件となっている。次いで「同じ障がいをもつ人」が 71 件、「友人」が 67 件となっており、相談相手として 2 割弱の人が「同じ障がいをもつ人」に悩みを相談したいと感じている。その他ではケアマネージャーや医療従事者、健常者といった回答もある。

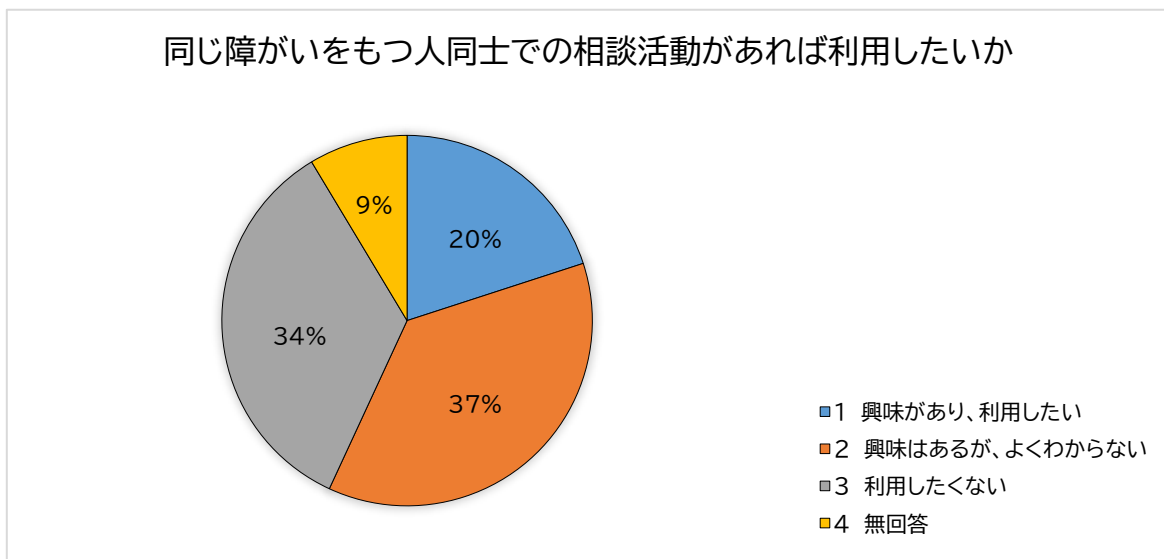


※その他

- ・ケアマネージャー
 - ・障害者専門の相談員
 - ・医者
 - ・医療の方
 - ・健常者のみなさん
- など

問 16 (3) 同じ障がいをもつ人同士で障がいについての悩みを相談するといった活動があれば、利用したいと思えますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

回答者数の57%の人が「興味がある」と回答している。同じ障がいをもつ人同士で障がいについての悩みを相談することについては、「興味はあるがよく分からない」が107件で37%、「興味があり、利用したい」が20%となっている。問4〔同居状況〕と照らしあわせると「興味がある」と回答した人は「家族と住んでいる」「ひとり暮らし」が7割なのに対し、「家族以外と住んでいる」は約半数となっている。



問 16 (4) 問 16 (3) で、1「興味があり、利用したい」・2「興味はあるが、よくわからない」と答えた方は、どのような相談をしたいですか。ご自由にご記入ください。

◎将来について

- ・将来についての不安
- ・将来の生活について
- ・親なき後の生活を考えている色々な情報をもらいたい
- ・両親亡き後の暮らし方
- ・自立生活に向けての情報・方法
- ・老後の心配相談 など

◎障害について

- ・同じ悩みを共有したい
- ・同じ障害の方で、生活に役立つ情報、商品、スマホ（音声機能）など、経験談など
- ・つらいことはないのか
- ・困ったときの対処
- ・どういう場所で活動できるか
- ・同じような立場の方がどのような生活をされているのか知りたい
- ・地域生活することについて
- ・生活全般の事
- ・人間関係の築き方を知りたい
- ・体のことなど将来的にどんなことで困ったりするのか聞いてみたい
- ・症状が進行していく中でどう受け入れていくか。不安をなくしていけるか。自分らしく過ごしていけるかを相談したい
- ・以前より身体機能が低下しているが、他の人はどうやって維持しているか
- ・二次障害について
- ・心身の病気による変化
- ・差別される事が多いのでいかに理解してもらうか
- ・障がい者だけのイベントや集まり
- ・障害に伴う日常生活の不自由さの克服
- ・たくさんの友達を作る会 増やしたい
- ・情報交換 など

◎医療・福祉について

- ・健康状態
- ・病院の情報等伝えてあげたいと思う
- ・良いサービスの情報や良い病院の情報
- ・良い事業所の情報など など

◎その他

- ・興味はあるが、よくわからない
- ・参加してみないとわからない
- ・仕事の話など
- ・香川県で、今後社会参加、就職について
- ・イメージがわからない
- ・逆に他の人の悩みを聞いてみたい
- ・ピアカウンセラーとして活動したい(過去に経験あり)
- ・実際に利用している

など

問 16 (5) 問 16 (3) で、3「利用したくない」と答えた方は、その理由をお聞かせください。ご自由にご記入ください。

- ・何を相談したらいいかわからない
- ・よくわからない
- ・家族や支援者に相談できているので、特に困ったり不安に思うことがない
- ・相談したい事がない
- ・あまり自身のことを話したくないし、他に人の話を聞くと自分のことのように悩んでしまうから
- ・同じ障害でも悩みが違うと思うから
- ・大人数より信頼できる少人数で話したいから
- ・知らない人の中には行きたくない
- ・自分にプラスになるかわからないから
- ・解決しないから
- ・行くのが大変だから
- ・思いはあるが伝えることが困難な為
- ・障害が同じ人がいない
- ・話せない

など

相談時の困りごとでは、「誰に相談すればいいかわからない」「相談しても理解してもらえない」の回答から、自分の身体のことや今後の生活など気軽に相談できる相手がないことがうかがえる。

相談相手では、「家族」以外に「支援者」が多かった。日ごろ関わっている支援者と良好な関係が築けていることがうかがえる。また、同じ障がいをもつ人同士での相談活動を「利用したくない」と回答した人は施設入所の人が多い。また、「利用してみたい」「興味がある」と回答した人の具体的な悩みについては、障がいや将来の不安などをはじめ、活動・社会参加、人間関係についてなど多岐にわたる。多様な悩みに対して実際の体験を元に解決策を考えていくなど、障がい当事者しか担うことができない役割と考えられる。

福祉・医療での専門的な相談体制の充実を図るとともに、同じ障がいをもつ人同士で相談できる環境（ピアサポート活動）についても当事者とともに考えていく必要がある。

【地域生活に関すること】

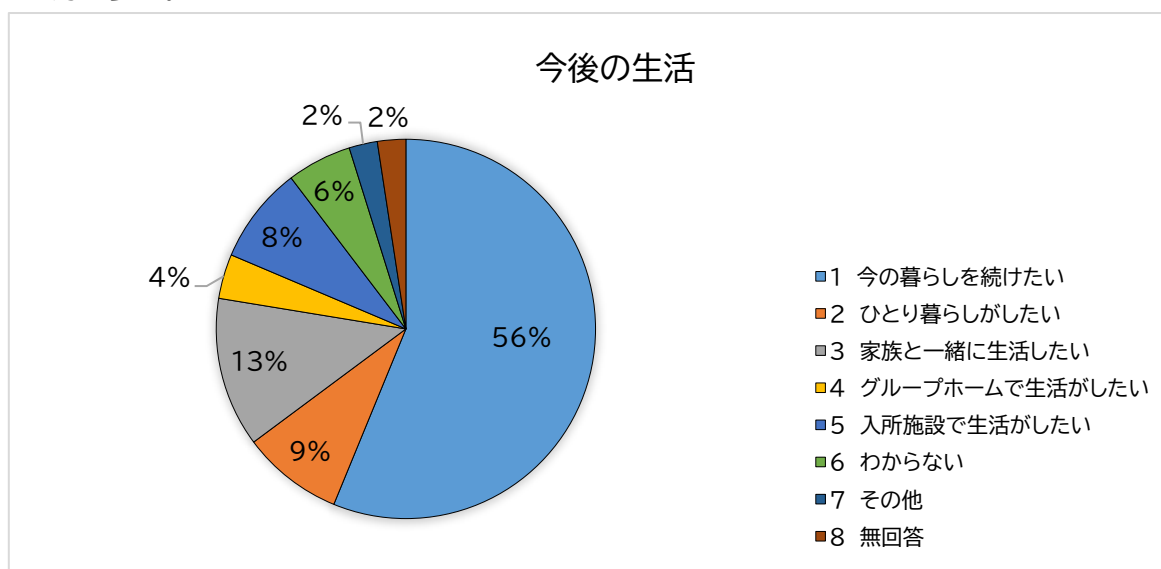
問 17 (1) あなたは今後どのような生活がしたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

どのような生活がしたいかについて、「今の暮らしを続けたい」が最も多く 56%と半数を占めている。次いで、「家族と一緒に生活したい」が 13%、「ひとり暮らしがしたい」が9% 「入所施設で生活したい」が8%となっている。

問 3 [住まい] と照らしあわせると、施設入所中で「今の暮らしを続けたい」「入所施設で生活したい」と引き続き施設を希望する人は72%であり、「ひとり暮らしがしたい」「家族と一緒に生活したい」「グループホームで生活したい」と入所施設外での生活を希望する人は22%となっている。

半数以上が現在の生活を続けていきたいと考える一方で、家族との同居やひとり暮らしなどへの移行を希望している人も多い。

また、施設入所以外の方については、「今の暮らしを続けたい」「家族と一緒に生活したい」が78% 「ひとり暮らしがしたい」が7%となっており、現在の生活を続けたいと思っている方が多い。



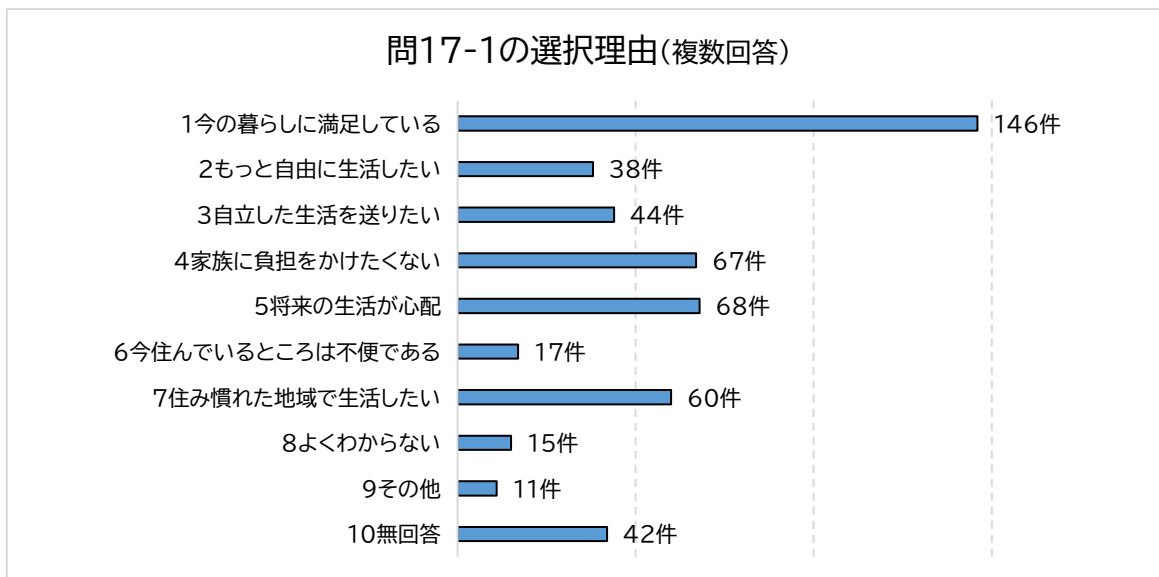
※その他

- ・最終的には一人暮らしがしたい
- ・両親がいなくなればどこかへ行かなければいけない
- ・入所施設の個室を希望

など

問 17 (2) 問 17 (1) で答えた理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

「今の暮らしに満足している」が最も多く 146 件であり、50%の人が満足と答えている。次いで「将来の生活が心配」が 68 件、「家族に負担をかけたくない」が 67 件、「住み慣れた地域で生活したい」が 60 件、「自立した生活を送りたい」が 44 件となっている。



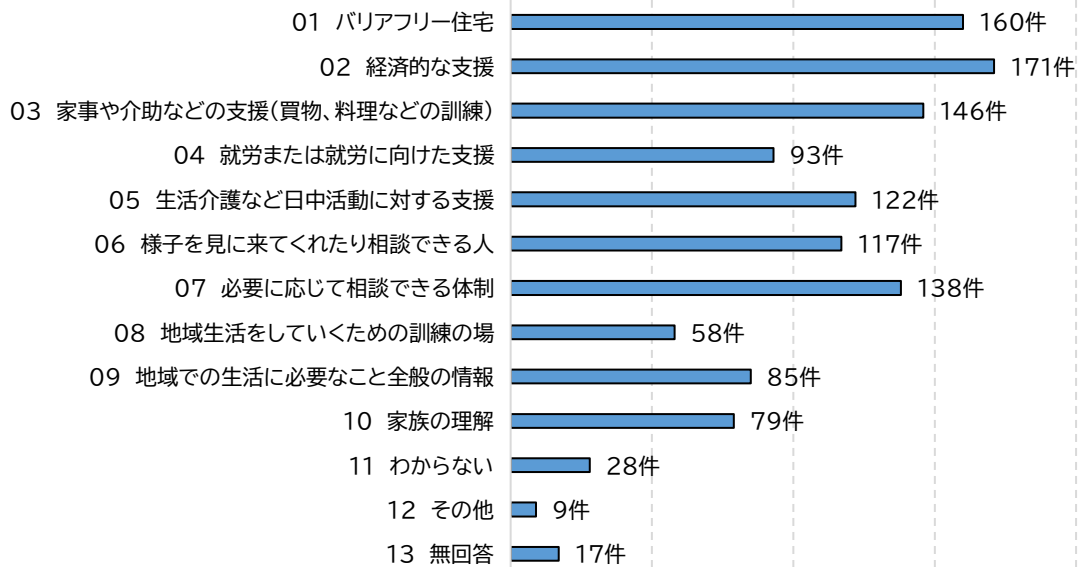
※その他

- ・大家さんが近くいるから
- ・趣味をまんきつしたい
- ・家で静かに生活したい。人が多いのは苦手だから
- ・プライベートの空間を持ちたい
- ・自分が年を取った場合一人では不安なので自由に利用できるシェアホームをつかって欲しい（健常・障害関係なく使える）
- ・本人の希望が分からない など

問 17 (3) 障がい者が地域で生活するために必要と思われることについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

地域で生活するために必要なこととして、「経済的な支援」が最も多く 171 件、「バリアフリー住宅」が 160 件、「家事や介助などの支援（買い物、料理などの訓練）」が 146 件、「必要に応じて相談できる体制」が 138 件となっている。その他では地域の理解や支援も挙げられている。

地域生活に必要なと思うこと(複数回答)



※その他

- ・ GHの増設(生活の場の拡充)
- ・ 医療費、車椅子等生活介護用品、紙おむつ等
- ・ 障がい者自身の意識と周りの理解
- ・ 地域の人との交流、味方
- ・ 地域の理解

など

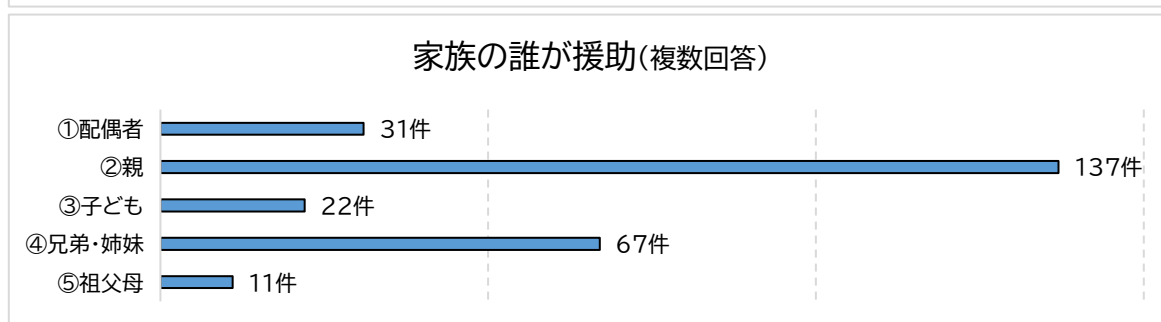
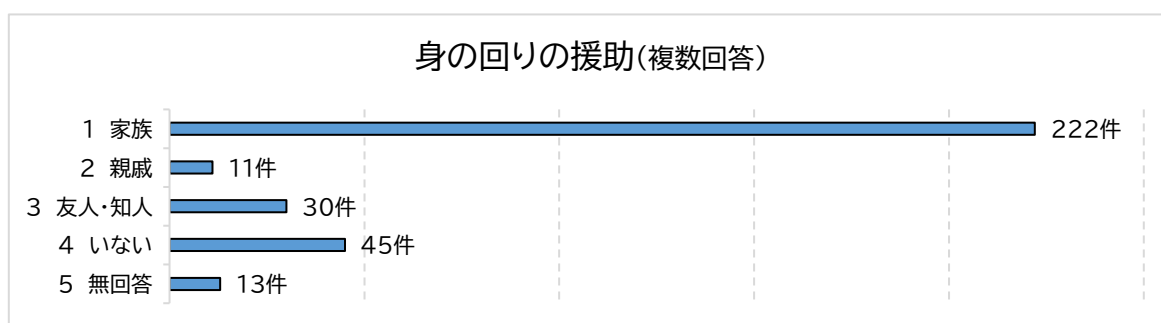
施設入所の人で施設以外での生活を希望する人もいる。施設以外での生活を希望する人が安心して地域生活ができるように、相談支援事業所とサービス提供事業所が協力して社会生活に必要な技術の習得・福祉サービス等社会資源の情報提供を行う必要がある。あわせて、地域生活を体験できる体制の整備が必要と考える。

また、引き続き施設入所を希望する人たちの中には、地域生活のイメージを持つことができない人がいるのではないかと考える。相談支援専門員が行うモニタリングで本人のニーズを引き出し、必要があればサービス等利用計画に落とし込み、情報提供など地域移行にむけた取り組みを行う必要がある。

【将来の生活に関すること】

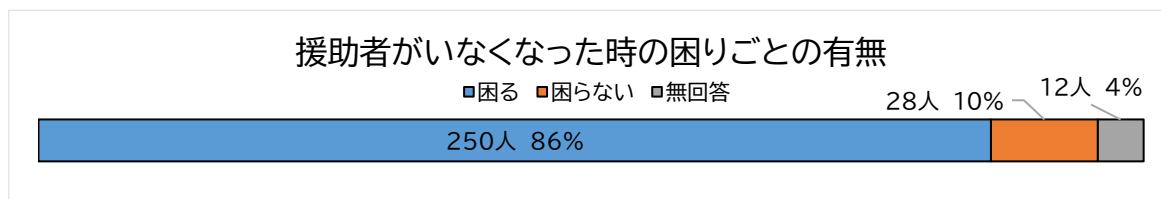
問 18 (1) 日常生活において、サービス以外で身のまわりのことをしてくれている人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

サービス以外で身のまわりのことをしてくれている人については、「家族」が最も多く 222 件となっており、うち「親」が 137 件、「兄弟姉妹」が 67 件、「配偶者」が 37 件となっている。次いで「いない」が 45 件となっている。

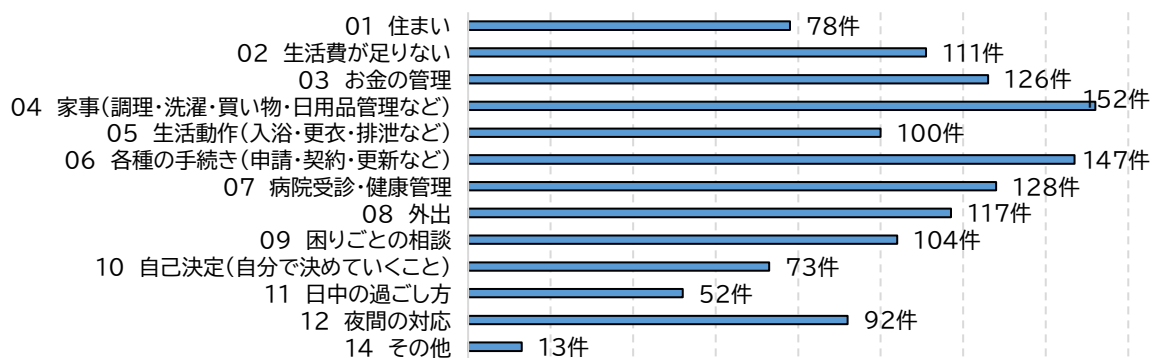


問 18 (2) あなたはサービス以外で身のまわりのことをしてくれる家族等がいなくなったとき、具体的にどのようなことで困りますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者の 86%が困ると回答している。援助者がいなくなった時の困りごととして、「家事（調理・洗濯・買い物・日用品管理など）」が最も多く 152 件、次いで「各種の手続き（申請・契約・更新など）」が 147 件、「お金の管理」が 126 件、「病院受診・健康管理」が 128 件、「外出」が 117 件となっている。



援助者がいなくなった時の困りごと(複数回答)



※13 困らないは省略

※その他

- ・胃ろう、吸引必要
- ・医療の同意署名
- ・入院したときの対応
- ・入院時の付き添い
- ・現在、すべて親任せになっているのですべて困ると思う
- ・災害時

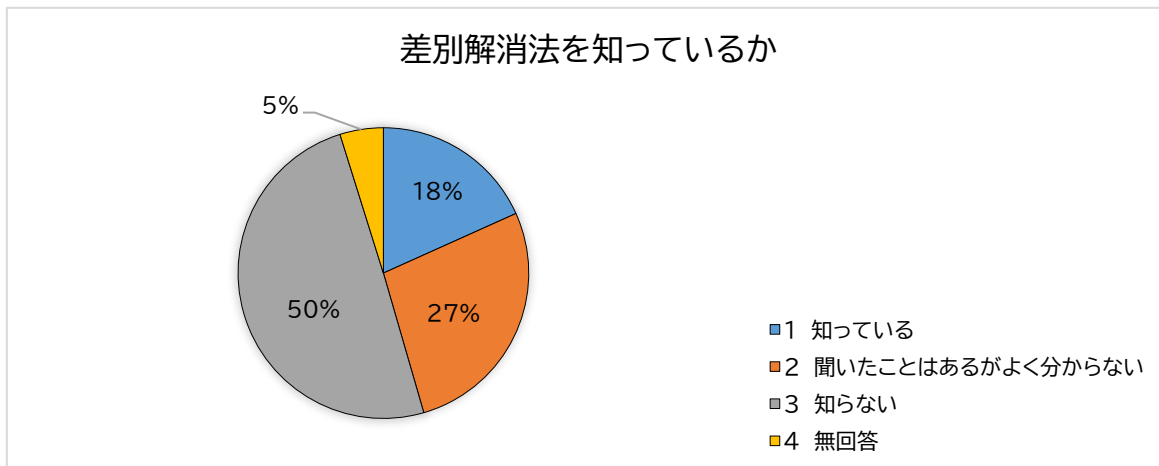
など

援助者がいなくなった時の困りごとでは、ほとんどの項目を選択する人が多く、困りごとを感じているものの、身のまわりのことを家族に依頼しており、何に困るか十分にイメージができていないのではないかと考えられる。身近な援助者が援助できなくなった時のことを少しずつイメージできるようになり、家族等が担っていた役割を代替する福祉サービスの導入や将来を見据えた社会生活力の獲得にむけた訓練ができるよう、情報提供等のサポートをしていく必要がある。

【差別に関すること】

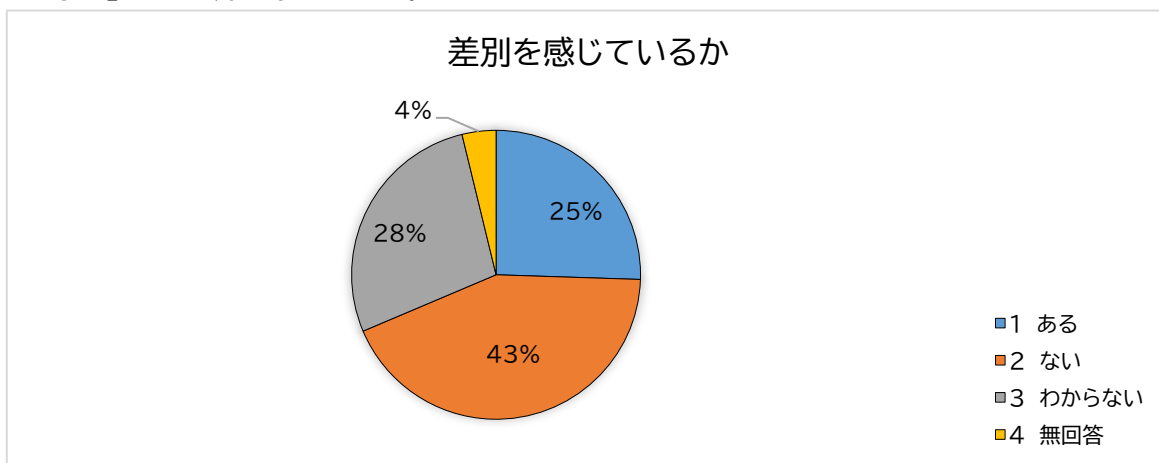
問 19 (1) あなたは「障害者差別解消法」を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

障害者差別解消法について、「知っている」が18%、「聞いたことはあるがよく分からない」が27%、「知らない」が50%となっている。77%の人が「よく分からない」「知らない」となっている。



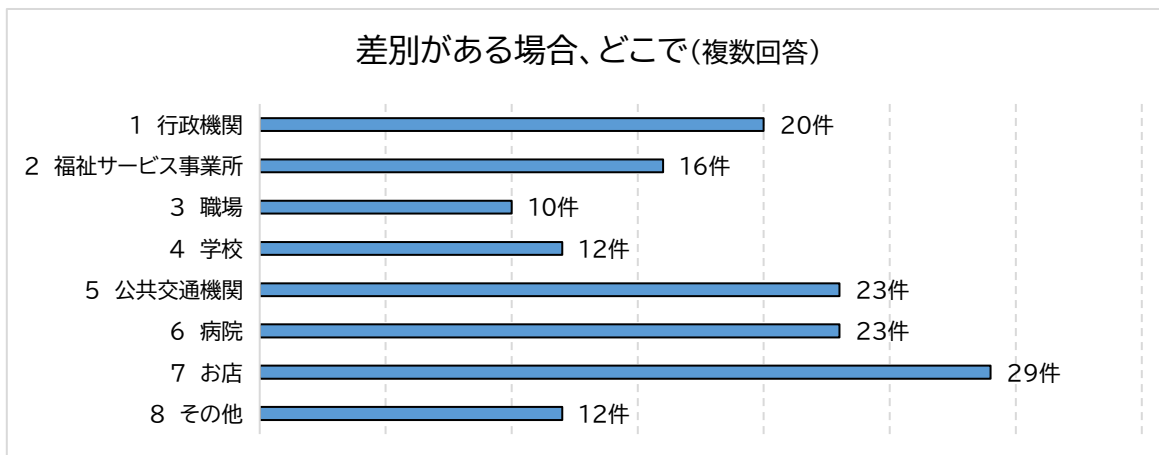
問 19 (2) あなたは差別を受けていると感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

差別を受けていると感じたことが「ある」と回答した人が25%、「ない」が43%、「わからない」が28%となっている。



問 19 (3) 問 19 (2) で、1「ある」と答えた方にお聞きします。あなたはどこで差別を受けていると感じましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

差別を受けていると感じた場所として、「お店」が最も多く 29 件、次いで「公共交通機関」「病院」が 23 件、「行政機関」20 件、「福祉サービス事業所」16 件となっている。



※その他

- ・銀行
- ・道路
- ・自動車学校
- ・外出先
- ・住まい（自宅）

など

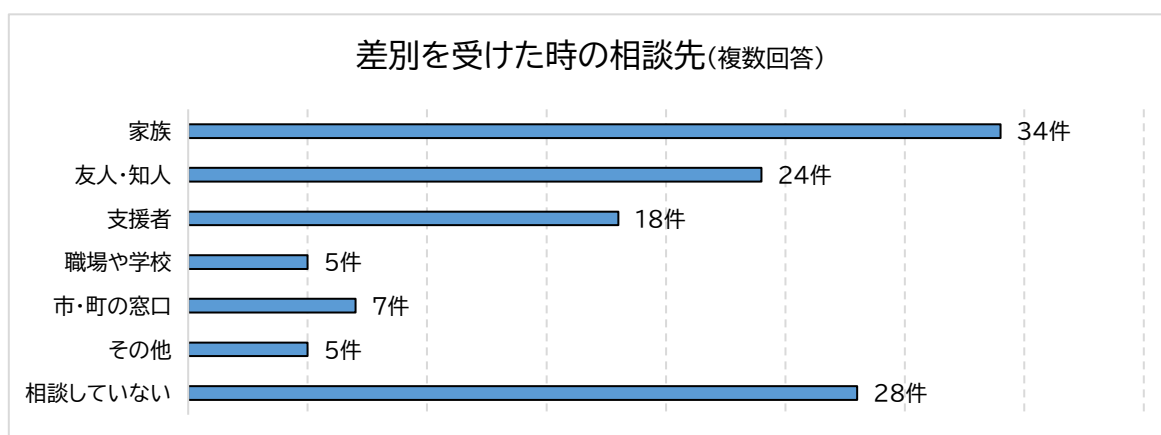
※具体的に

- ・入店を断られた
- ・店でウロウロされては困ると言われたことがある
- ・エレベーターがなく 2 階まで階段で上がられないから（お店、学校）
- ・家で生活していた頃外出で JR に乗ろうとした時に介助をしてもらえなかった
- ・エスカレーターに乗れない(1 回も事故したことがないのに利用させてくれない)
- ・普通に家を選べない
- ・言語が分からないと言われたことがある
- ・外出で JR に乗ろうとした時に介助をしてもらえなかったことがある
- ・タクシーで乗車拒否にちかいことをされた
- ・近くの病院へ怪我をただけでもみてくれない
- ・受診を後回しにされた
- ・障害児だったので病院での受診を嫌がられた
- ・診たことがない、生まれてからの病気などたくさんあると分からないと言われた

- 静かにできないので飛行機で座席を変更させられた
- 道路の段差をなくしてほしい(車椅子なので)
- 障害者年金の手続きの時に窓口担当者から「一回も掛けたことがないのにもらえるんですからイイですネ」と言われた
- 仕事の能力があるにもかかわらずその仕事をさせてもらえなかった など

問 19 (4) 問 19 (3) で答えた差別を受けたとき、誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

相談した先として、「家族」が最も多く 34 件、「友人・知人」が 24 件、「支援者」が 18 件となっており、一方で「相談していない」が 28 件となっている。相談窓口として開設されている「市・町の窓口」は 7 件となっている。



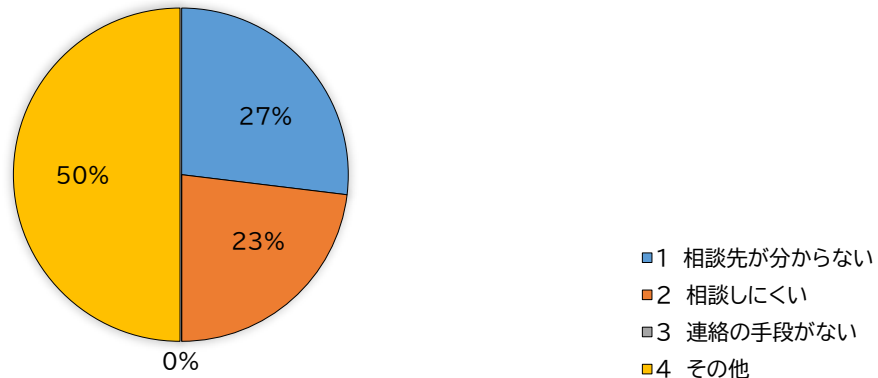
※その他

- 本人に言った
- 自分が相談できると思った人
- いつも親と一緒にいるので口頭ですぐ問う
- お客さんで来ていた精神科医に後日メールで など

問 19 (5) 問 19 (4) で、7「相談していない」と答えた方は、その理由をお答えください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

相談していない理由として、「相談先が分からない」が 27%、「相談しにくい」が 23%となっており、「その他」が 50%を占めている。「その他」のなかには、「相談してもしかたがない」「相談しても解決にならない」「どうにもならない」など相談自体をあきらめている人も多くみられる。

差別の相談をしていない理由



※その他

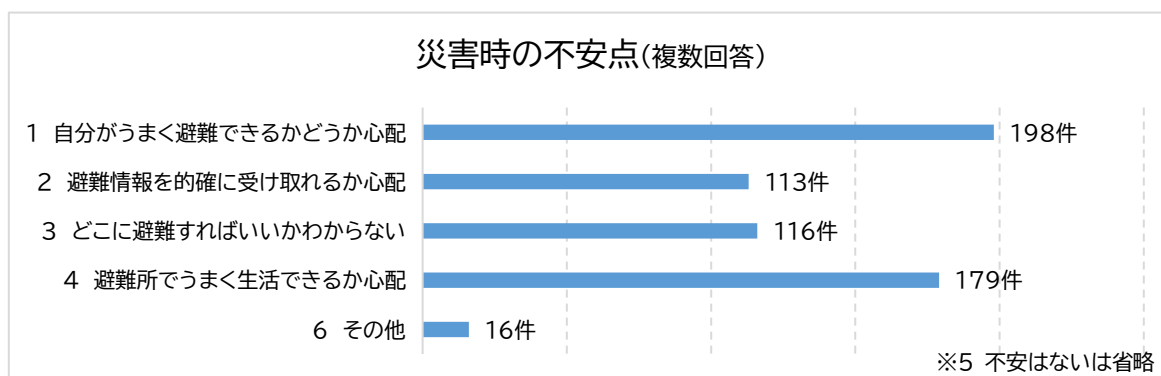
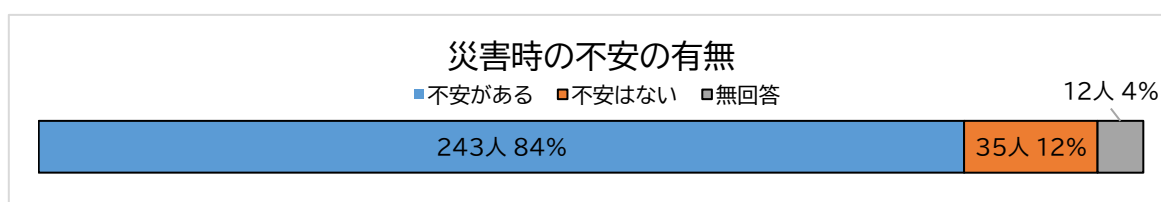
- どうにもならない
 - めんどくさい
 - 言っても無駄だと思ったから
 - 相談しても解決にならないので
 - 相談しても仕方がない
 - 相談しても状況が変わらないと思ったから
 - 相談しにくい
 - 相談すると二度つらくなる
- など

障害者差別解消法について半数以上の方が「知らない」と回答しており、どのようなことが差別に当るのか当事者も理解できていない現状がある。また、差別を感じた時の相談先は「家族」、「友人・知人」、「支援者」となっており市町の相談窓口への相談は少ない。相談先が十分に周知されていないことに加えて、上手く対応してもらえなかったこれまでの体験から、「相談しても仕方がない」とあきらめ、相談に繋がらないのではないかと考えられる。地域住民への差別解消法の周知・障がいに対する啓発を行うとともに、当事者に対しても、差別解消法の周知や好事例の情報提供を行う必要があると考えられる。

【災害に関すること】

問 20 (1) あなたは災害時についてどのような不安がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の84%は不安を感じている。災害時の不安として、「自分がうまく避難できるかどうか心配」が最も多く198件、「避難所でうまく生活できるか心配」が179件、「どこに避難すればいいかわからない」が116件、「避難情報を的確に受け取れるか心配」が113件となっている。問6[障がい内容]と照らし合わせると、どの障がいの人も「自分がうまく避難できるかどうか心配」と回答している。

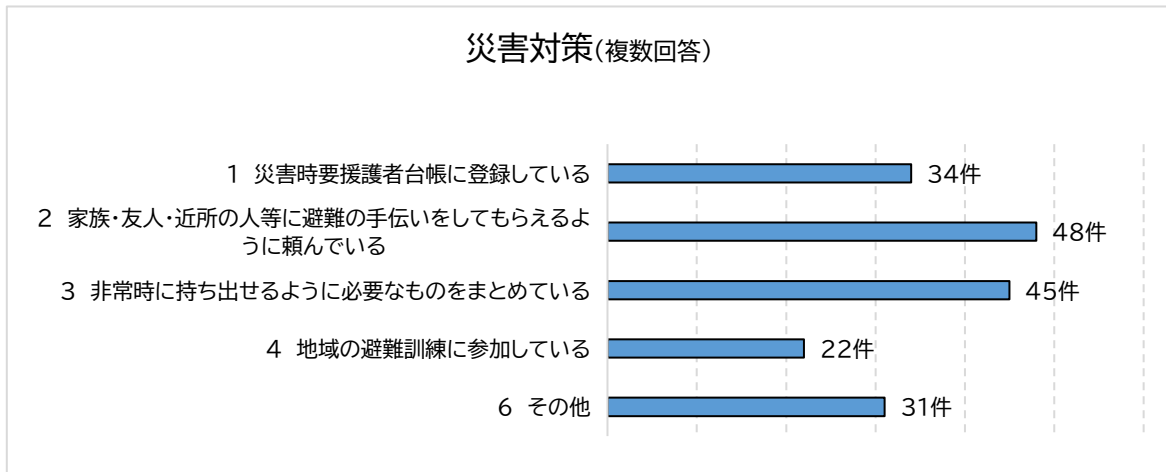
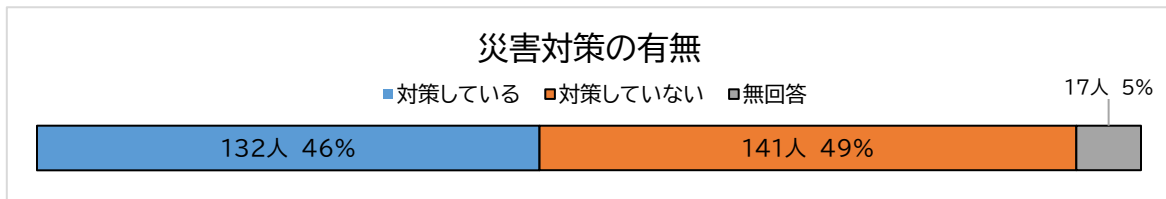


※その他

- ・高松市Net119 緊急通報システム利用申請書を出すつもり
- ・災害時要援護者台帳に正しく登録されているのか不安・疑問
- ・食事のことや透析のことなど
- ・停電時の電源確保（医療機器に必要）
- ・装具を急いではけるかどうか心配
- ・誰がたすけてくれるのかな
- ・心配
- ・避難所に行くまでの坂は絶対にムリ
- ・うまく避難できなければ親子一緒にとおもっている
- ・死ぬしかない
- ・重度のため避難はできないとひらきなおっている。覚悟はできている など

問 20(2) 災害時の対策をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 49%の人が対策や準備をしていない。災害時の対策として、「していない」が最も多く 141 件、次いで「家族・友人・近所の人等に避難の手伝いをしてもらえるように頼んでいる」が 48 件、「非常時に持ち出せるように必要なものをまとめている」が 45 件となっている。「災害時要援護者台帳に登録している」は 34 件となっており、全体の 12%にとどまっている。「その他」31 件となっており、内容としては入所施設等における避難訓練への参加との回答が多い。



※5 していないは省略

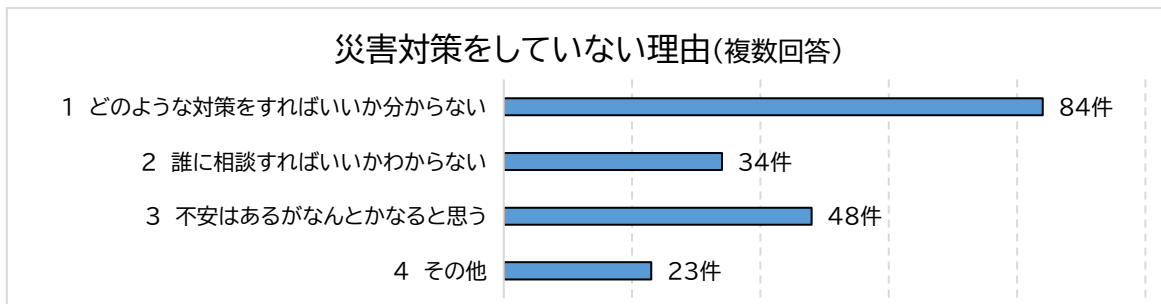
※その他

- ・施設の訓練に参加
- ・GHで避難訓練に参加
- ・施設内シェイクアウト訓練に参加している
- ・入所施設が計画を立てて備えている
- ・施設の職員に任せている
- ・避難先を家族と相談している
- ・災害時要援護者台帳に登録したい

など

問 20 (3) 問 20 (2) で、5「していない」と答えた方にお聞きします。災害時の対策をしていない理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

災害時の対策をしていない理由として、「どのような対策をすればいいかわからない」が最も多く 84 件、次いで「不安はあるが何とかかなると思う」が 48 件となっている。



※その他

- 必要な対策がわからない
- これから対策を考えている
- 実際経験したことがないからわからない
- 寝たきり状態のため避難できない
- 障害者となって日が浅い
- 内部疾患なので身は動かせるので
- そこまで手が回らない
- 両親と住んでいるので自分では準備していない
- 施設にいるから
- 今の住宅が高台にある。しかも耐震用
- 避難しようと思っていない
- 親と一緒に死ねたら一番いいと思う。残されたら生きていけない
- しょうがない 足が悪くてどこにも逃げられない
- その時は終わりと思っている
- 自然の摂理に任せる
- あまり気にしていない

など

災害時の不安は多くの人を抱えているものの、対策や準備をしていない人が半数を占めている。災害に対するあきらめや危機感のなさから対策をとっていない人もいることから、災害対策についての啓発が必要であると考えられる。

災害時要援護者台帳の登録者は全体の 12%と少ない。その理由として、“避難支援者”の記入など、登録のハードルの高さがあるのではないかと考えられる。対象になる人については台帳への登録を促していく必要もある。

災害時は近隣住民や民生委員など地域の支援者の支援が必要になる。地域住民に障がいについての啓発を行い、地域一体で災害時の対策について考えていく機会を作るなど、住民同士のたすけ合いを促していく必要がある。

事業所用アンケート

高松圏域自立支援協議会 身体障害者支援部会
令和2年5月

目次

I. 調査の目的	45
II. 調査の概要	45
III. 調査結果	
• 福祉サービスについて	46~48
• 住宅に関すること	49~50
• 医療に関すること	51~52
• 仕事に関すること	53~54
• 情報収集に関すること	55~57
• 外出・活動に関すること	58~63
• 相談に関すること	64~66
• 地域生活に関すること	67~72
• 将来の生活に関すること	73~75
• 差別に関すること	76~78
• 災害に関すること	79~81

I.調査の目的

高松圏域自立支援協議会 身体障害者支援部会では、平成 30 年度の活動として、当事者を対象に「日常生活における困りごとの実態調査」を実施した。この調査結果を踏まえ、より正確な地域課題の抽出・整理を行うことを目的に、支援者から見た当事者の困りごとを把握するため事業所を対象にして本調査を実施した。

II.調査の概要

1.調査対象事業所

高松圏域（高松市・三木町・直島町）に所在する居宅介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行、就労継続（A型・B型）、グループホーム、生活介護事業所のうち、「日常生活における困りごとの実態調査」の実施にご協力をいただいた事業所。

2.調査期間

令和2年2月3日～令和2年2月21日

3.調査方法

調査対象事業所を訪問して趣旨説明を行い、アンケートの内容を提示。事業所が選択した障がい（肢体・内部・音声言語・視覚・聴覚・平衡機能・難病のうち、回答が可能なもの、複数選択可）について事業種別ごとに回答を依頼し、メールで回収した。なお、調査における対象障がい者は「調査対象事業所を利用している18歳から64歳までの身体障害者手帳をお持ちの方」とし、知的障がいや精神障がいを重複するケースも含まれている。

4.回収状況

調査数	回答数	回答率
97件	56件	58%

5.障がい別回答状況

肢体	内部	音声言語	視覚	聴覚	平衡機能	難病	計
53件	10件	8件	17件	10件	3件	13件	114件

6.事業種別回答状況

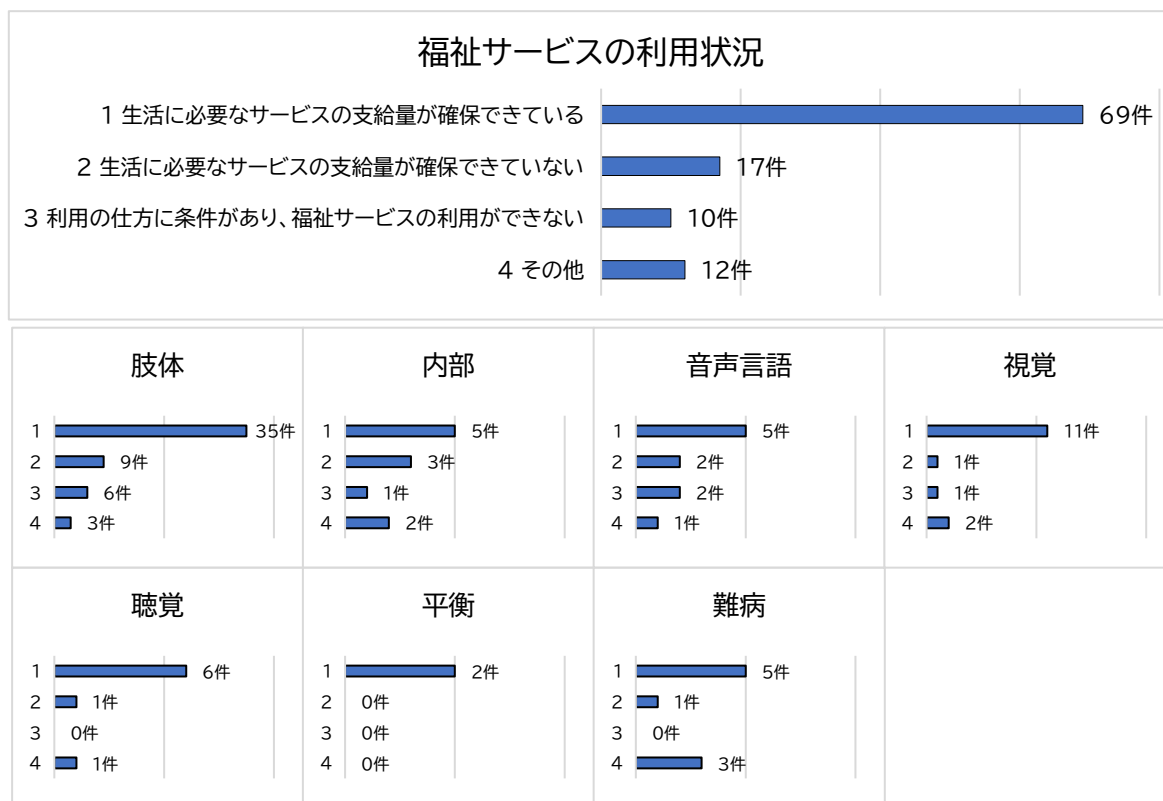
生活介護	就労A型	就労B型	就労移行	機能訓練	グループホーム	居宅サービス	計
21件	6件	21件	2件	1件	3件	12件	66件

Ⅲ.調査結果

【福祉サービスについて】

問1（1）対象者の福祉サービス利用状況についてどう思いますか。あてはまるものに○をつけ、サービスの種類をご記入ください。

「生活に必要なサービスを確保できている」が69件と最も多い。障がい別にみても同様の傾向がある。



※その他

- 家族が健在なので日中サービスのみ利用（肢体不自由）
- グループホーム利用でほぼ自立した生活を送っている（難病）
- 訪問介護の利用時トラブルがありトラウマで利用できない（視覚障がい） など

問1(2) 対象者が福祉サービス(現在利用していないサービスを含む)について困っていること、希望していることを、具体的にご記入ください。

医療的ケアが必要な人の送迎や短期入所の不足といったサービスの不足、介護保険への移行について、日常生活用具給付制度についてなどの回答があった。

◎サービスの不足

- ・短期入所が少ない(肢体不自由)
- ・短期・日中一時・入浴介助のサービス事業所がない(肢体不自由)
- ・排泄、移乗で特別な技術を要するため利用できる機関の確保が難しい(肢体不自由)
- ・本人の希望する24時間の重度訪問介護の支給量が出ていない。ヘルパー事業所の持ち出しでヘルパー派遣せざるを得ない状況がある(肢体不自由・難病)
- ・重度、最重度の障がいであったり、医ケアが必要であったりした場合の受け入れ先が少なく、行政を含めて抜本的な改善策が必要と考える(肢体不自由・視覚障がい)
- ・医療的ケアに対応できるサービスが少ない(肢体不自由・内部障がい)
- ・医療的ケアが必要な方の短期入所、受け入れ可能な施設が限られている(肢体不自由・視覚障がい)
- ・移動支援を受けてくれる事業所が少なく、本人の希望する使い方ができない(肢体不自由・聴覚障がい)
- ・事業所の人員不足のため、居宅介護が受けられない(音声言語障がい)
- ・施設入所のため移動支援の決定がなされない事、実費対応せざるを得ない(肢体不自由)
- ・空きがなくグループホームに入れられない(肢体不自由)

◎介護保険への移行

- ・介護保険が優先されるため本人に合ったサービスが利用できない(肢体不自由)
- ・介護保険移行になるため、サービス利用に少し不安を持たれている(肢体不自由)
- ・介護保険優先にて、途中で介護保険を利用始めると自分の意思が通らなくなり、利用がうまくできなくなった(音声言語障がい)
- ・介護保険になり支援時間が短くなり困っている。金銭負担が大きく利用したくてもできない(内部障がい)

◎その他

- ・移動の際に専用車両である必要があるため、使用できる時とできない時がある(肢体不自由)
- ・日常生活用具給付制度において状態変化があった場合に、現状の身体状態に適合しないものを一定期間使い続けねばならない。介護保険制度での福祉用具貸与のようなサービスがあれば、状態に応じてベッドやエアマット等の組み合わせ変更が可能で廃棄等の必要がない(肢体不自由)
- ・白杖を買うときに補助があるが、市役所に2回程行かなければならない。手続きを簡素化してほしい(視覚障がい)

- 専門の病院は県外で片道 1 時間半～2 時間かかるため緊急時に困る（難病） など

半数以上が生活に必要なサービスの支給量が確保できていると回答しているが、短期入所や移動支援、日中一時などのサービス提供事業所が不足しているとの意見がある。特に医療的ケアが必要な人が利用できるサービスの不足がうかがえる。幅広いニーズに対応できる人員を確保する必要がある。

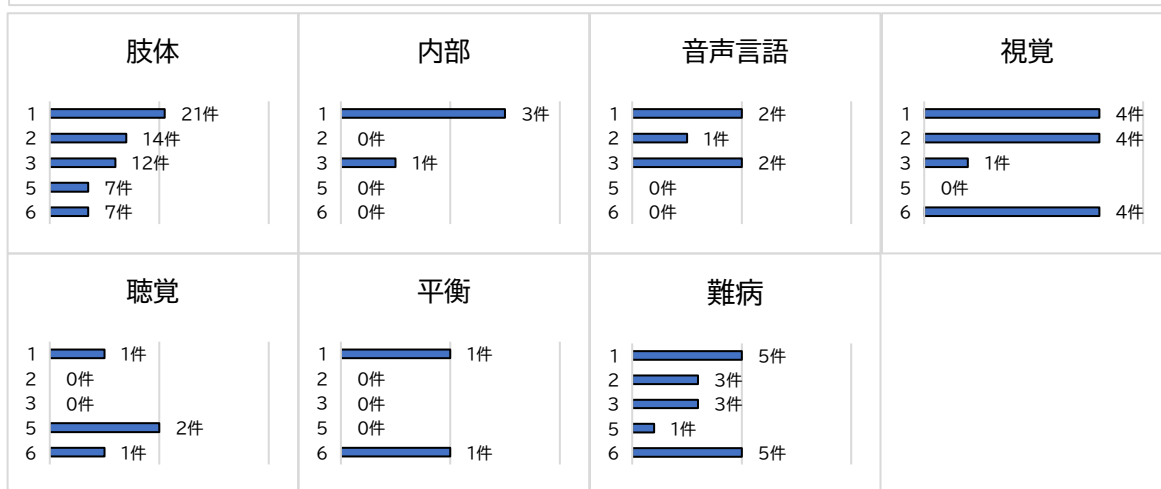
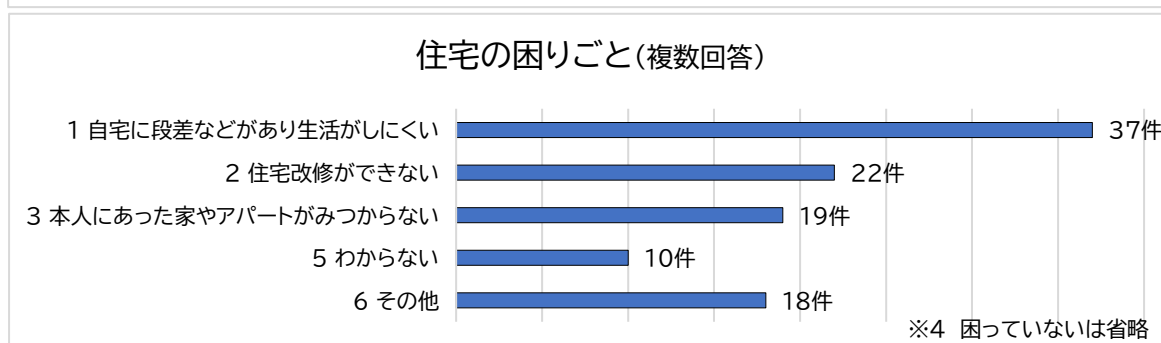
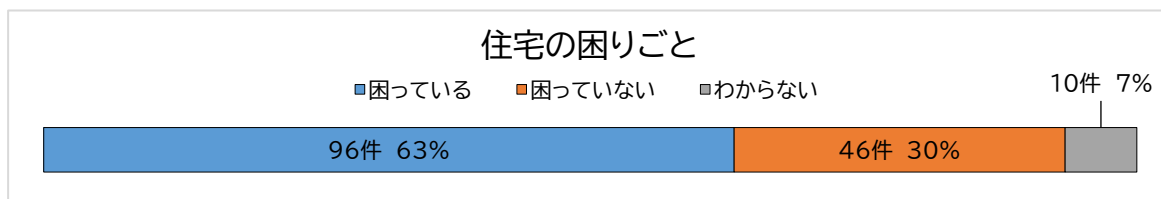
また、長年障害福祉サービスを利用している人が介護保険サービスに移行する場合、これまで受けていた支援が継続して受けられない、支援時間の減少や金銭負担の増加があり不安などの声がある。

本人の状況に応じて介護保険移行にむけたガイダンスを丁寧に行うことや共生型サービスの充実を図ることのほかにも、課題があることが分かった。

【住宅に関すること】

問2 対象者は、住宅に関することでどのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

63%が困っていると回答している。「自宅に段差などがあり生活がしにくい」が37件と最も多い。次いで「住宅改修ができない」が22件となっている。各障がいにおいて「自宅に段差などがあり生活がしにくい」との回答が最も多い。



※その他

- ・浴槽の高さがあり入浴しにくい（肢体不自由）
- ・グループホームでの対応は転倒等の危険がある（肢体不自由）
- ・県営住宅のため個人で勝手に改修できない（肢体不自由）
- ・どのような改修や福祉用具の導入が必要かという情報が少なく、相談できる場所や人も少ない（肢体不自由）
- ・障害者には貸してくれない不動産屋が多い（肢体不自由・難病）

- 自宅前の道が斜めになっていたり整備されていない（視覚障がい）
- 車椅子や移乗用リフト使用のためのスペース確保が難しい（難病）

など

住宅によって改修のしにくさがある。公営住宅では原状復帰を求められる。賃貸住宅においては住宅改修をさせてもらえないところもあるなど、住宅の選択肢が少ない。

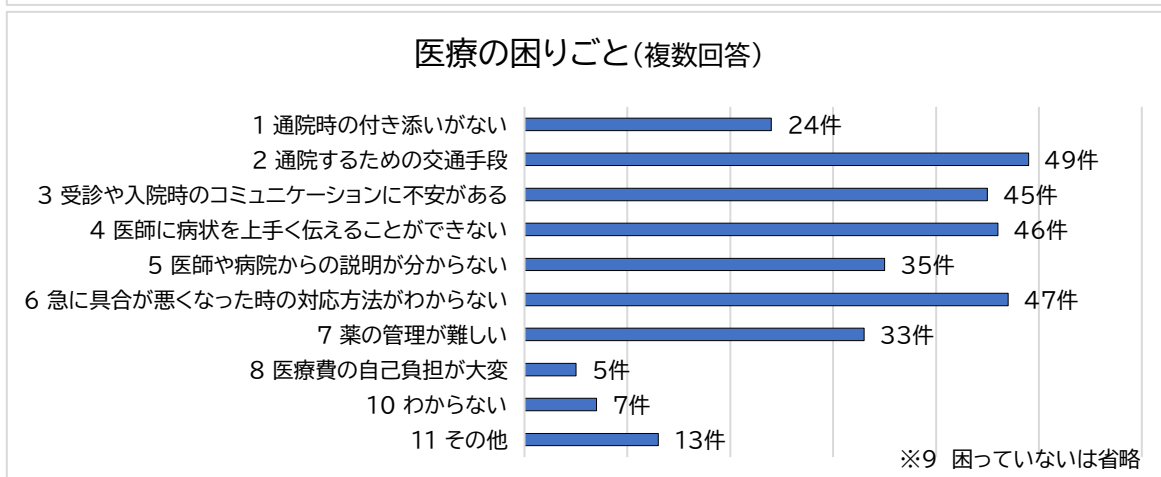
バリアフリー住宅など障がい者が安心して生活できる住宅の確保が必要。

住宅改修や福祉用具の導入について、相談できないといった回答もあった。かがわ総合リハビリテーション福祉センターの福祉用具・ICT 相談や身体障害の委託相談事業所の機能を活用できるように周知を行っていく必要がある。

【医療に関すること】

問3 対象者は、医療に関することでどのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

93%が困っていると回答している。「通院するための交通手段」が49件と最も多い。次いで「急に具合が悪くなった時の対応方法がわからない」が47件となっている。「通院するための交通手段」は、肢体不自由と視覚障がい以最も多い。



※その他

- 障がい児→者になると小児科から外されるが特に発作時のコントロールについては小児科 Dr から離れることは不安。いざという時の入院先を探すのに苦勞（肢体不自由）
- 今は家族が支援しているので困っていない（肢体不自由・内部障がい）
- 緊急時に困る（視覚障がい）
- 専門科（歯科）まで距離がある（平衡機能障がい）
- 遠いため一日かかってしまう（難病）

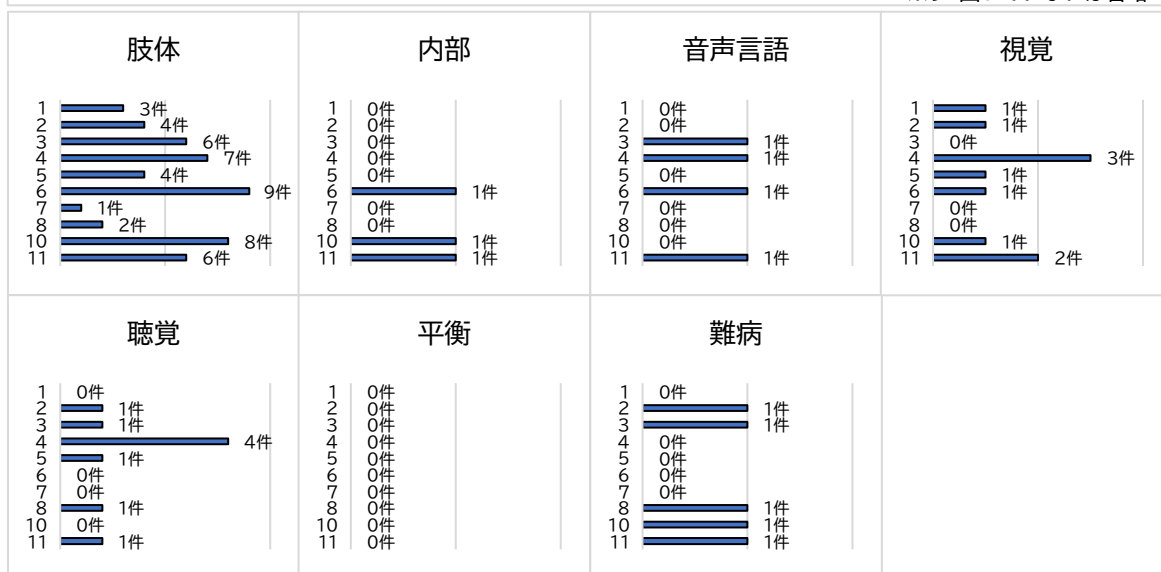
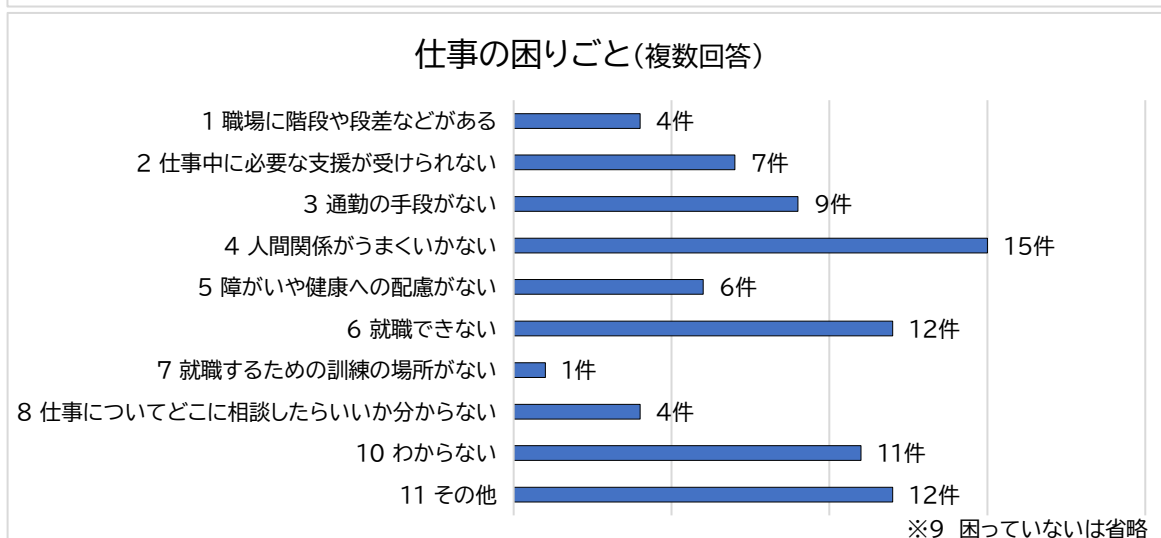
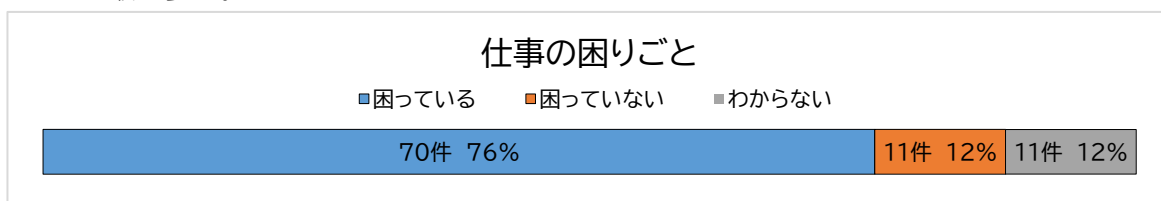
など

肢体不自由、視覚障がいは道路や施設のバリアフリー環境に影響されるため交通手段に困りごとがあると考えられる。音声言語障がいの 46%、聴覚障がいの 35%が「受診や入院時のコミュニケーションに不安がある」「医師に病状を上手く伝えることができない」と回答しており、コミュニケーション面での困りごとがあることがうかがえる。通院のための移動手段の確保や病院内のコミュニケーションなど障がい特性に合わせた配慮が必要と考える。

【仕事に関すること】

問4 対象者は、仕事に関することでどのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

76%が困っていると回答している。「人間関係がうまくいかない」が15件と最も多い。次いで「就職できない」が12件となっている。「人間関係がうまくいかない」は、音声・言語障がい、視覚障がいや聴覚障がいで最も多い。また、「就職できない」との回答は肢体不自由で最も多い。



※その他

- 身体障がい者を受け入れてくれる事業所が少ない。途中疾患者に対する受け入れは特に厳しい（肢体不自由）
- 一般就労したいが能力が足りない。何が向いているのかわからない（肢体不自由）
- 耳が聞こえないので理解できない（聴覚障がい）など

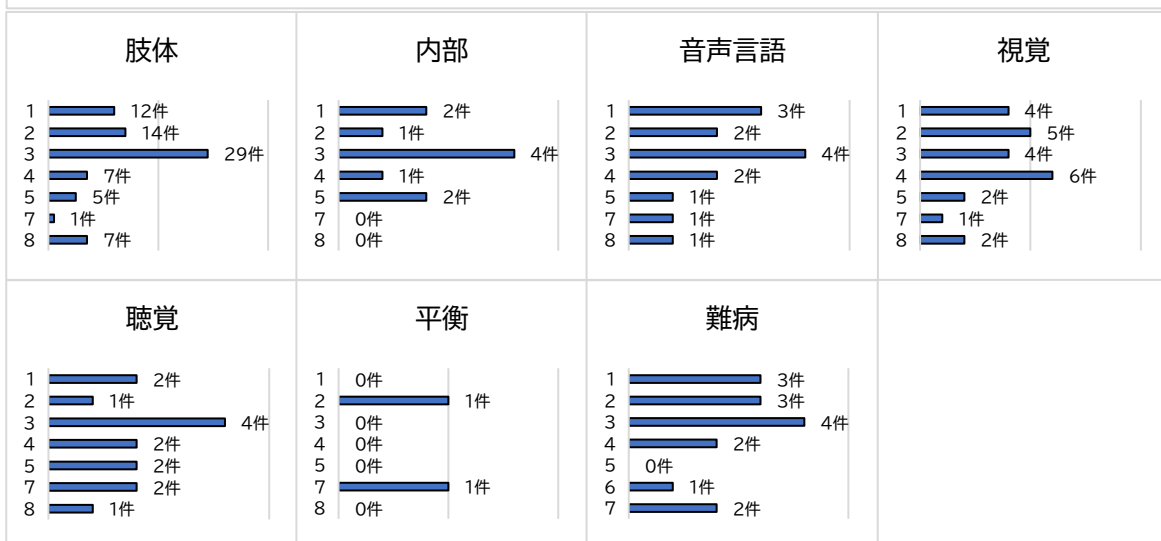
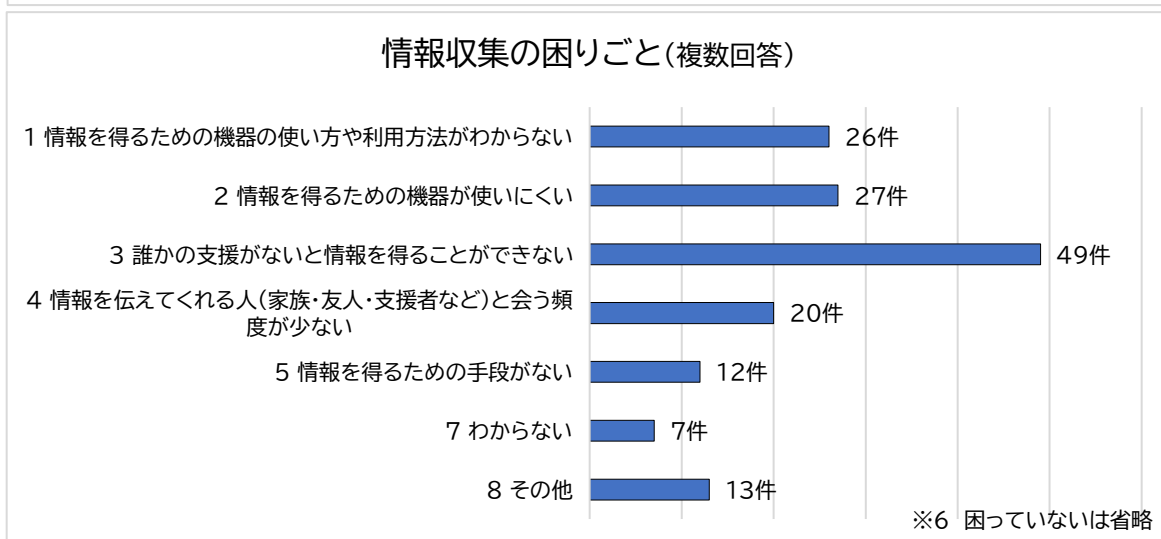
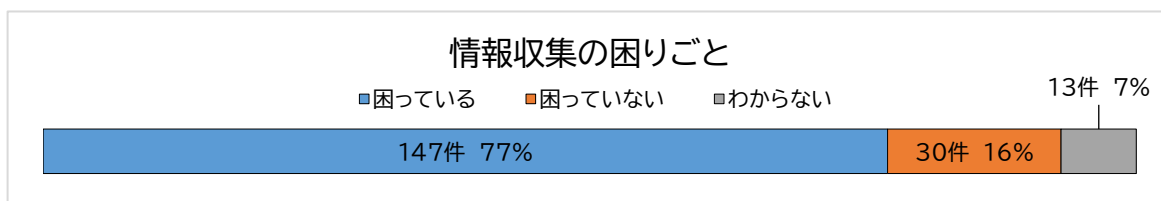
視覚障がい、聴覚障がいから「人間関係がうまくいかない」との回答が多くみられた背景には、コミュニケーション手段に課題があると考えられる。

身体障がい者が就労するためには、コミュニケーションや職場の設備など、障がい特性にあった配慮が必要と考える。また、就労移行支援や自立訓練などを利用し、コミュニケーション能力・作業能力などの向上や自分に合った仕事を見つけることで就労につながるのではないかと考える。

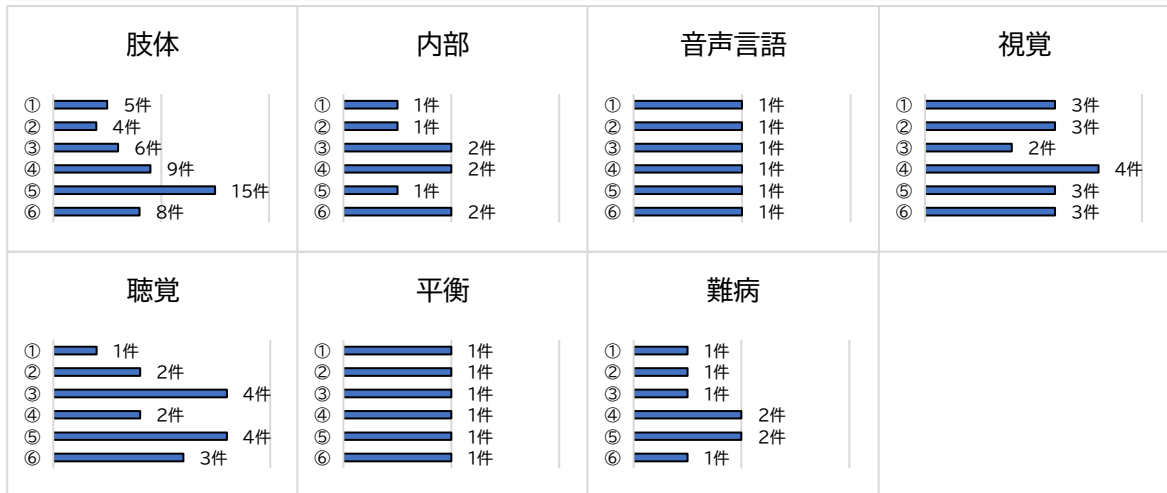
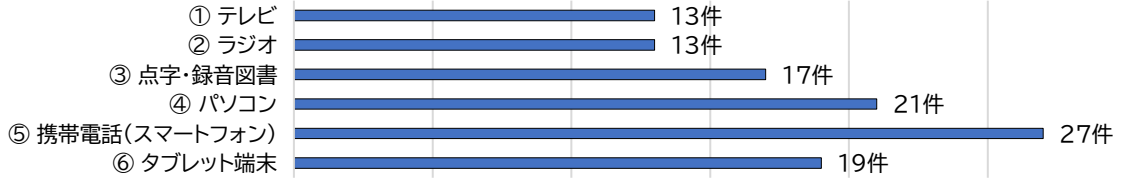
【情報収集に関すること】

問5 対象者は、生活していくために必要な情報を得るときにどのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

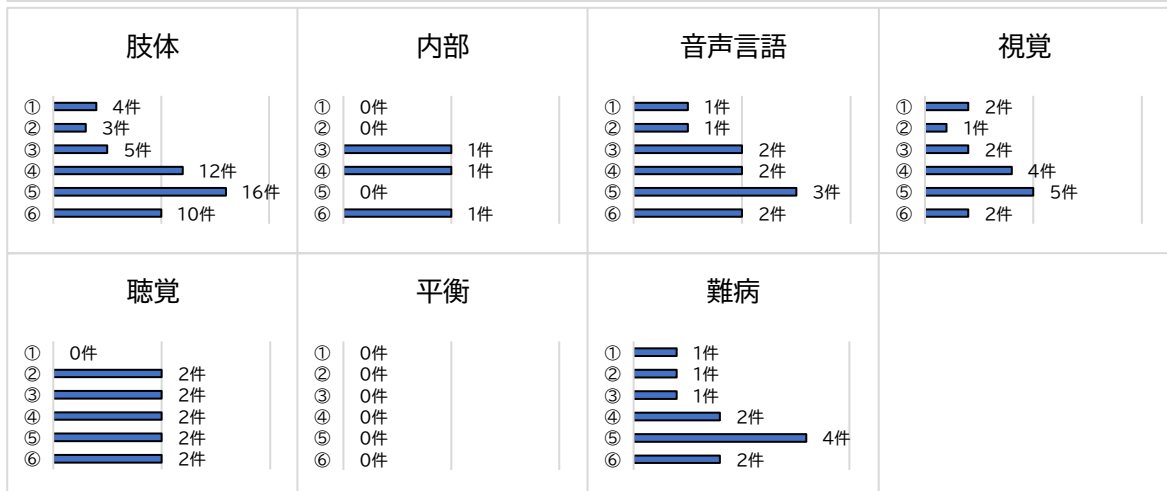
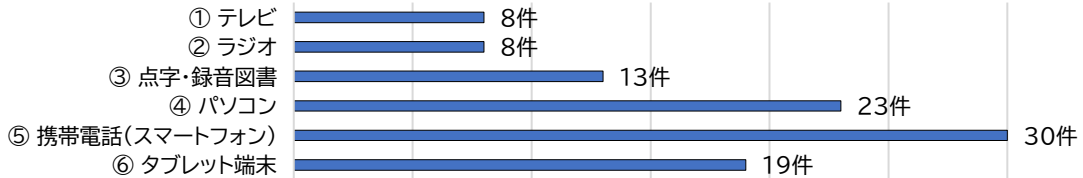
77%が困っていると回答している。「誰かの支援がないと情報を得ることができない」が49件と最も多い。次いで「情報を得るための機器が使いにくい」が27件、「情報を得るための機能の使い方や利用方法がわからない」が26件となっている。「誰かの支援がないと情報を得ることができない」は、肢体不自由、内部障がい、音声・言語障がい、聴覚障がい、難病で最も多い。機器については携帯電話が多く、次いでパソコン、タブレットが多い。



1. 機器の使い方が分からない (複数回答)



2. 機器が使いにくい (複数回答)



※その他

- 療育手帳の無い方もいるが知的に重度であり情報の理解が難しい。伝える支援者が必要（肢体不自由）
- 情報を理解することが難しい（音声言語障がい・難病）
- 家族のコミュニティ（親同士のつながり）によって得られる情報に差がある（肢体不自由）
- 知りたい情報がどこで得られるのか探しに行くルートがわからない（肢体不自由）
- ラジオやテレビの停電時の電池切れの対処（視覚障がい） など

困りごとがあると答えた33%が「誰かの支援がないと情報を得ることができない」と回答している。また、「機器の使い方や利用方法がわからない」「機器が使いにくい」との回答も多く、障がい特性による情報収集の困難さがあることがうかがえる。

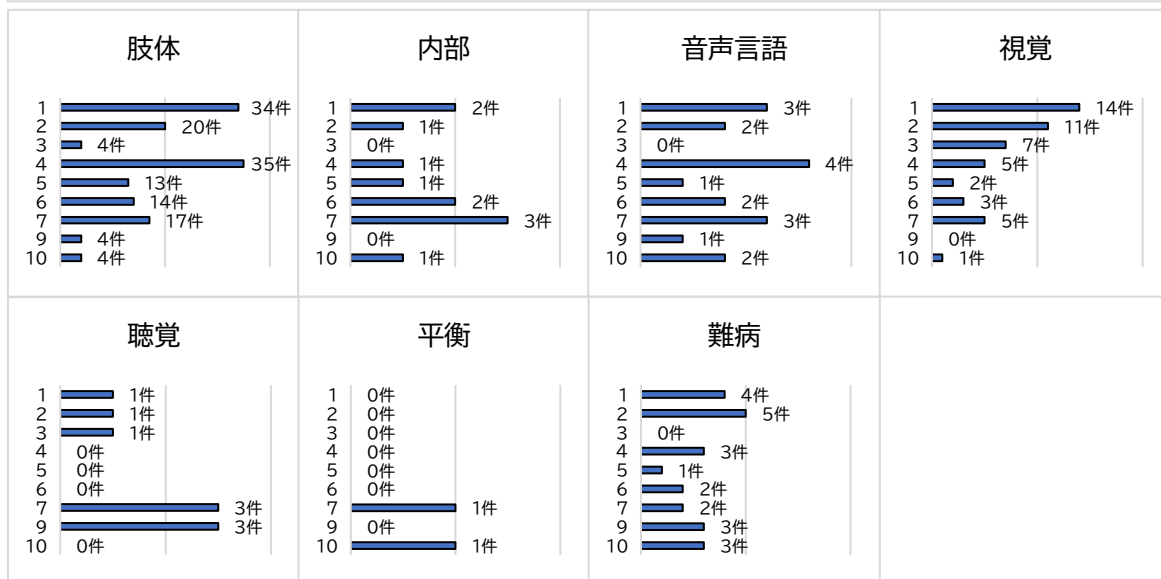
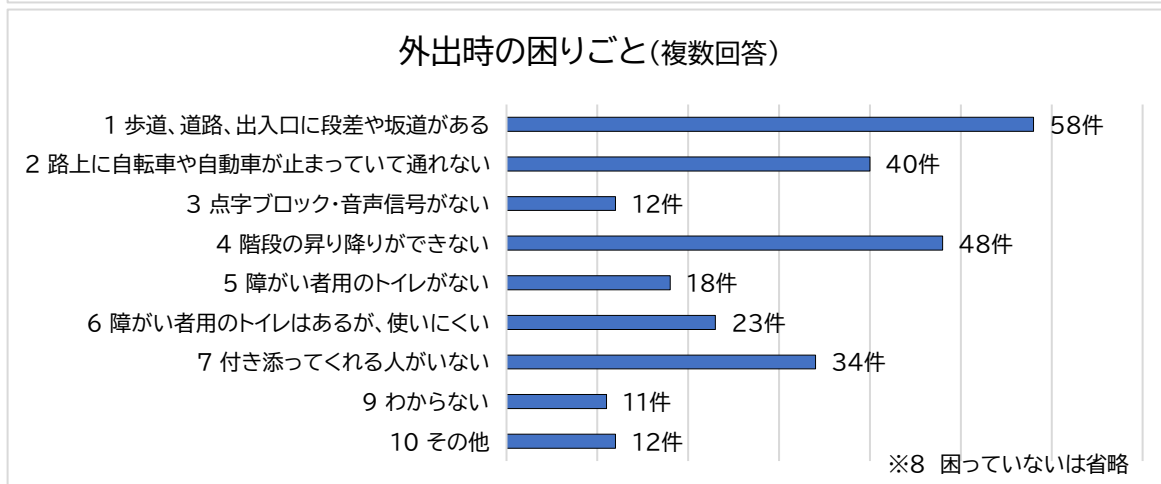
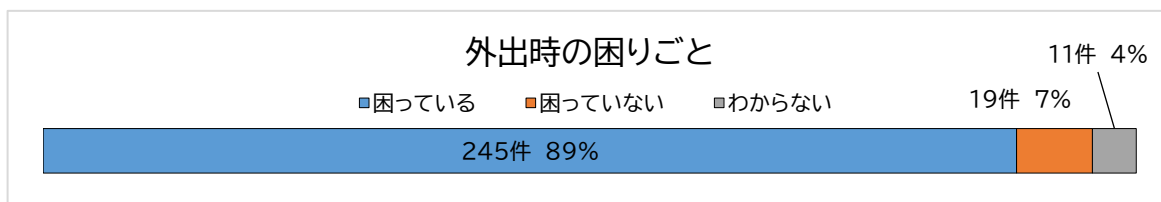
香川県視覚障害者福祉センターや香川県聴覚障害者福祉センター、かがわ総合リハビリテーション福祉センターには、IT活用支援や福祉用具相談など、障がい特性に応じた情報収集の手段について相談できる窓口がある。

しかし、これらの相談窓口の情報も当事者に行き届いていない状況である。既存の社会資源を有効に活用できるようにするためには、まずは支援者自身が容易に情報を収集し、利用者に提供できるような仕組みを検討することも必要と考える。

【外出・活動に関すること】

問6(1) 対象者は外出するときどのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

89%が困っていると回答している。「歩道、道路、出入りに段差や坂道がある」が58件と最も多い。次いで「階段の昇り降りができない」が48件となっている。「歩道、道路、出入りに段差や坂道がある」は、視覚障がいでも多く、「階段の昇り降りができない」は肢体不自由、音声・言語障がいでも多くなっている。

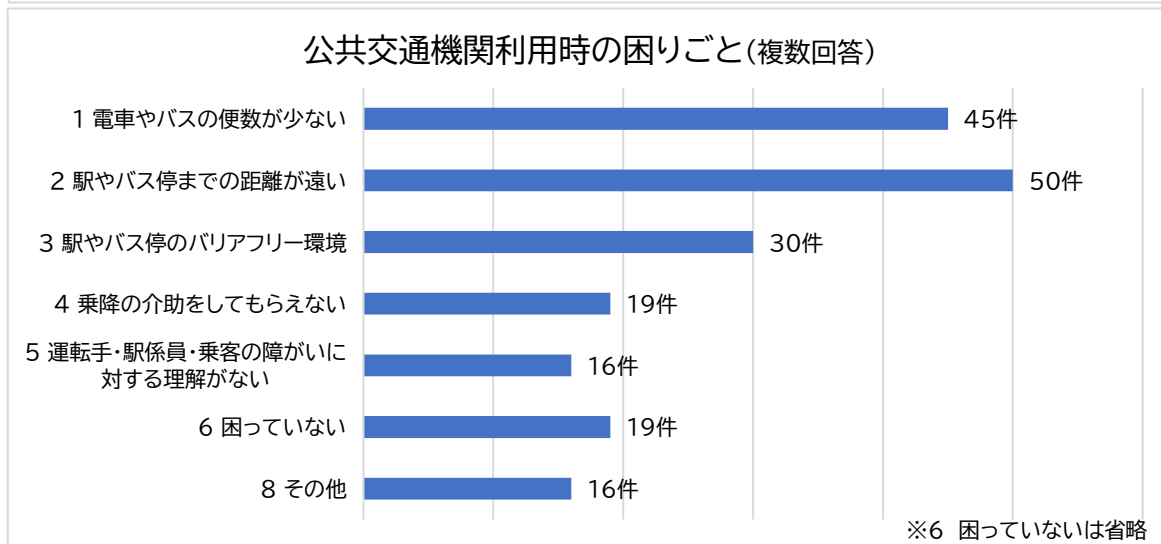
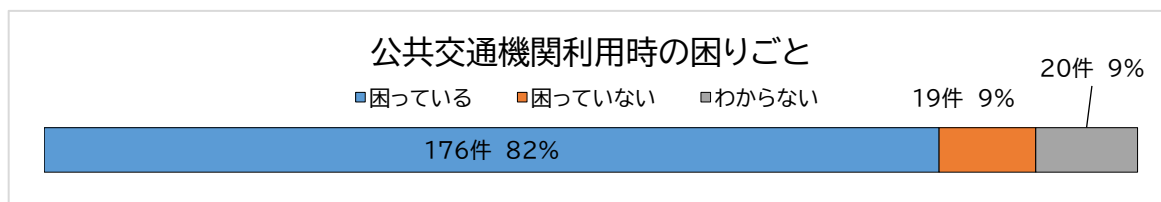


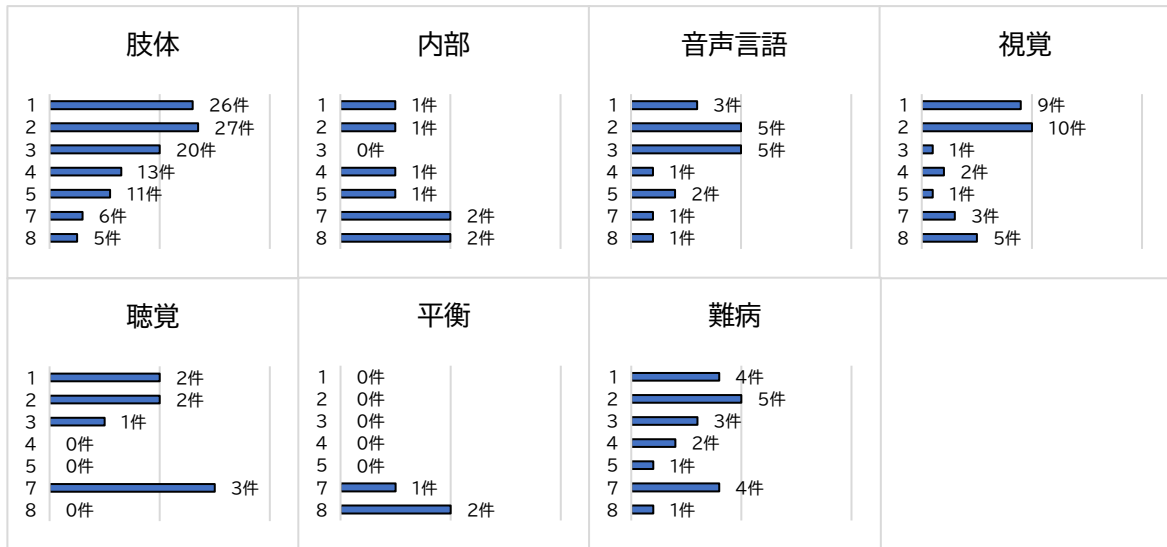
※その他

- ・市役所の段差が多い（肢体不自由）
 - ・建物によってはトイレが狭くて入れないため屋外で排泄せざるをえない（肢体不自由・難病）
 - ・多目的トイレを必要ない人が使用している（肢体不自由・難病）
 - ・導尿を必要とするので、母または看護師が引率でないと外出できない（内部障がい）
 - ・家族親戚もいないので外出頻度は低下（視覚障がい）
 - ・移動手段で3輪自転車を利用、幅の狭い歩道や駐輪、駐車により通行が妨げられやすい（難病）
- など

問6（2）対象者は、公共交通機関を利用するときに、困っていると思われることすべてに○をつけてください。

82%が困っていると回答している。「駅やバス停までの距離が遠い」が50件と最も多い。次いで「電車やバスの便数が少ない」が45件となっている。「駅やバス停までの距離が遠い」は、肢体不自由、音声・言語障がい、視覚障がい、難病で最も多い。



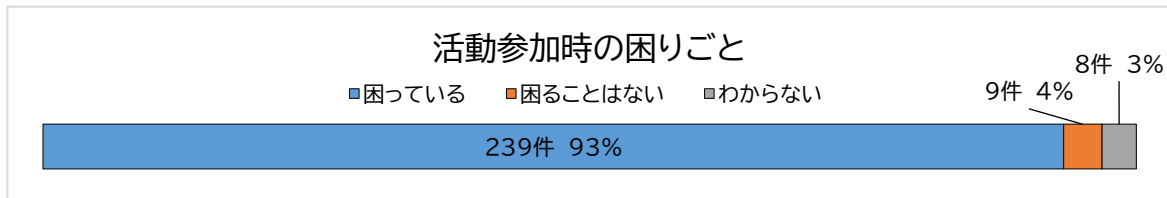


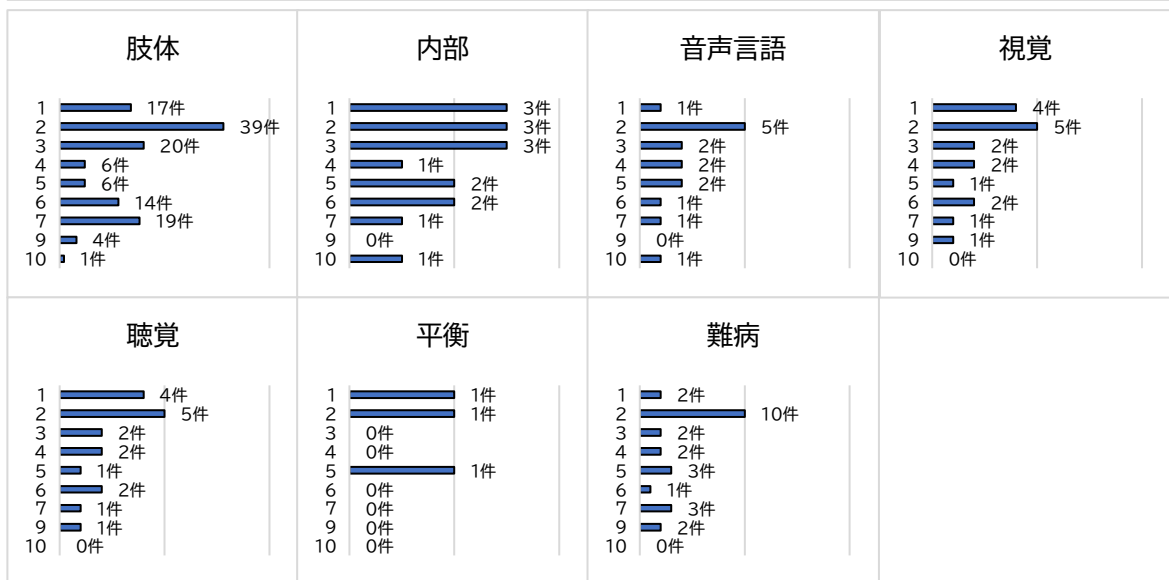
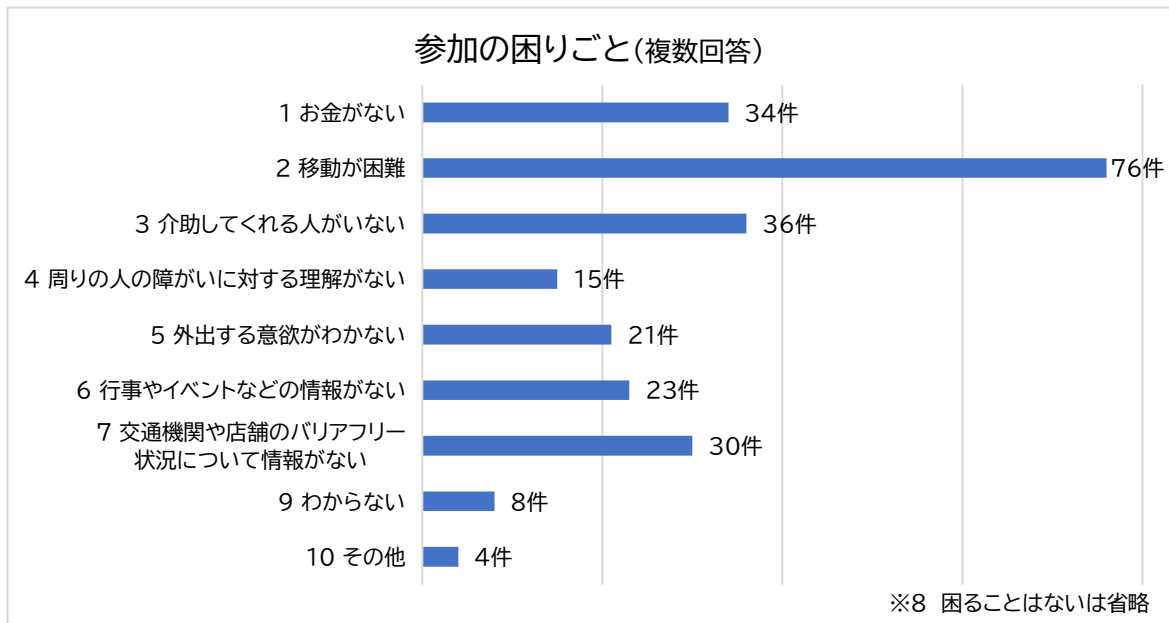
※その他

- ・一人では使用したことがない（肢体不自由・内部障がい・視覚障がい・聴覚障がい・平衡機能障がい）
 - ・家族が支援しているので困っていない（肢体不自由）
 - ・外出には必ず同行介助者が必要（視覚障がい）
 - ・電車の場合、次がどの駅なのか電光掲示板がないとわかりにくい（聴覚障がい）
 - ・車椅子であり、人工呼吸器、吸引器等の荷物も多く利用は難しいと思っている（難病）
 - ・事前予約が必要（難病）
- など

問6（3）対象者が活動に参加する際に、どのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

93%が困っていると回答している。「移動が困難」が76件と最も多い。次いで「介助してくれる人がいない」が36件となっている。「移動が困難」はすべての障がいで最も多い。



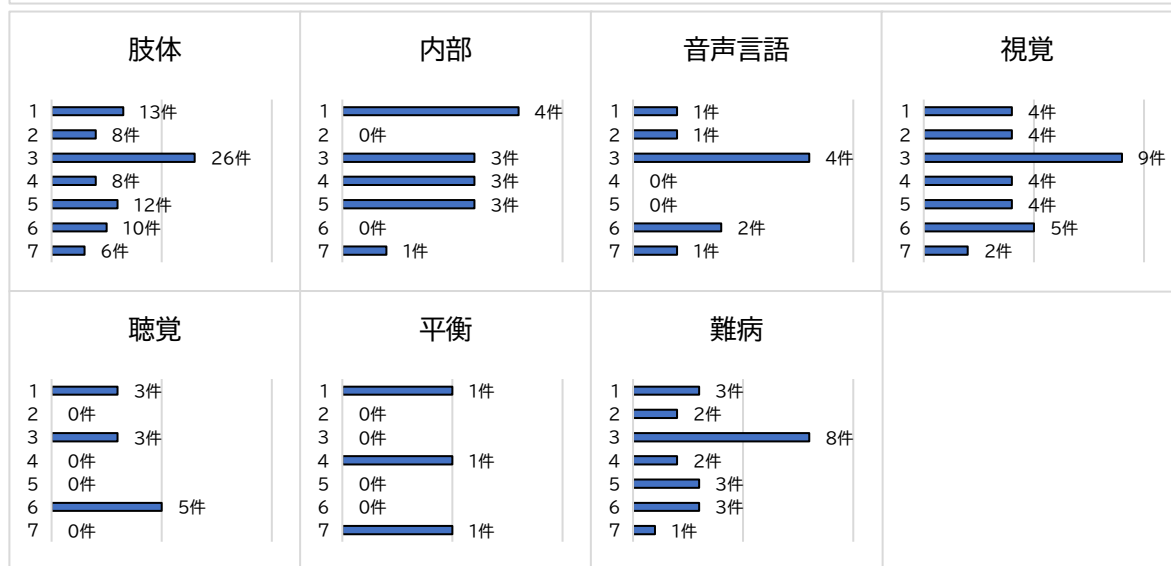
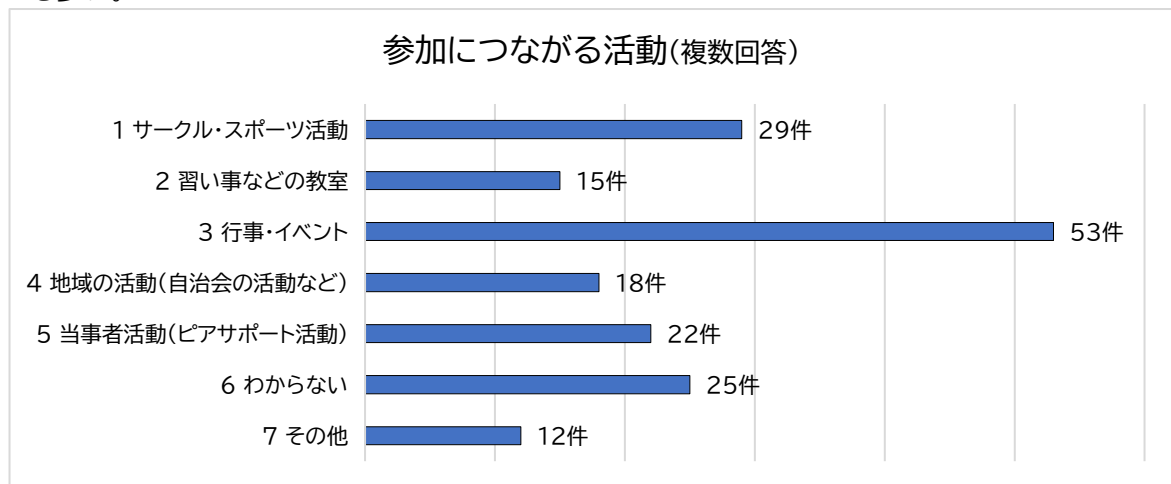


※その他

- ・当事者会の活動では介助者、理解者がいるが、それ以外の活動（例えば映画やコンサートを見に行くなど）の参加には介助者がいないと困難（肢体不自由）
- ・医ケアが必要な場合、支援できる者が限られることがある（肢体不自由）
- ・外出には必ず同行介助者が必要。同行援護、移動支援の支給量の制限がある。近隣の親戚から誘っていただけることはほとんどない（視覚障がい） など

問6(4) どのような活動があれば、対象者の参加につながるとお考えですか。あてはまるものすべてに○をつけ、具体的にご記入ください。

「行事・イベント」が53件と最も多い。次いで「サークル・スポーツ活動」が29件となっている。「行事・イベント」は、肢体不自由、音声・言語障がい・視覚障がい、難病で最も多い。



※具体的な内容

- ・ 同行者がいないと行けない(肢体不自由)
- ・ 対象者の対応ができる支援者がいれば、いろいろな活動に参加できる(平衡機能障がい)
- ・ 人見知りがあるので、顔なじみの人が集まる場所(同窓会的なもの)(肢体不自由)
- ・ 情報があっても理解することが難しいため、本人の好き嫌いを聞き取れる支援者の方が重要。また、それを一緒に行ってくれる支援者も必要(肢体不自由)
- ・ イベントなど好きだが障がいのことを考えると一人での参加には抵抗がある(難病)
- ・ 初めての人や場所が苦手なので何回も繰り返して集えるような場所(視覚障がい)

- ・障がいのある人が、障がいの無い人と交流したりする機会がほしい（肢体不自由・聴覚障がい）
- ・重度心身障がい者の方も楽しめたり、過ごしやすい場所・行きやすい場所がほしい（肢体不自由）
- ・Eスポーツへの参加呼びかけがあれば参加しやすいかもしれない（肢体不自由）
- ・本人にあったスポーツ活動があればよい（平衡機能障がい）
- ・当事者が集まれる会場が限られているだけではなく、会場が予約で埋まっており、借りられない（肢体不自由・難病）

※その他

- ・情報と、それを一緒に行ってくれる支援者がいればどのような活動でも参加できる（肢体不自由）
 - ・参加手段の提供（肢体不自由）
 - ・支援者がいることが必須条件（肢体不自由・視覚障がい）
 - ・あまり外出意欲がなくあきらめている（音声言語障がい）
 - ・会話ができないのであまり参加したくないらしい（聴覚障がい）
- など

外出時は「段差や坂道がある」や「階段の昇り降りができない」など環境面で困っている。公共交通機関は「駅やバス停までの距離が遠い」「電車やバスの便数が少ない」など、公共交通機関の利便性に課題があり、日常的な移動手段としては使いにくい現状がある。また、公共交通機関の利用経験がないとの回答も多い。

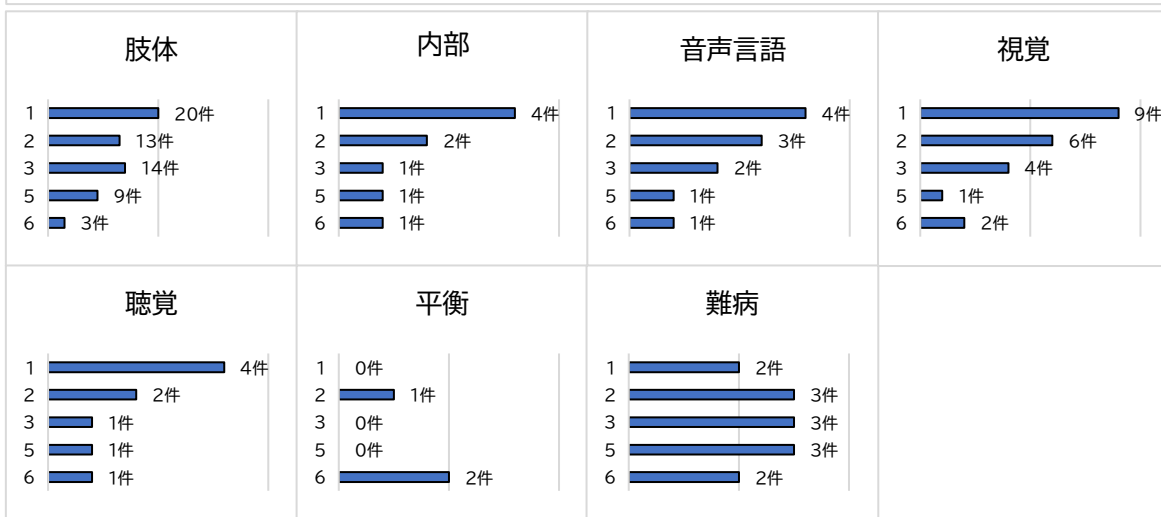
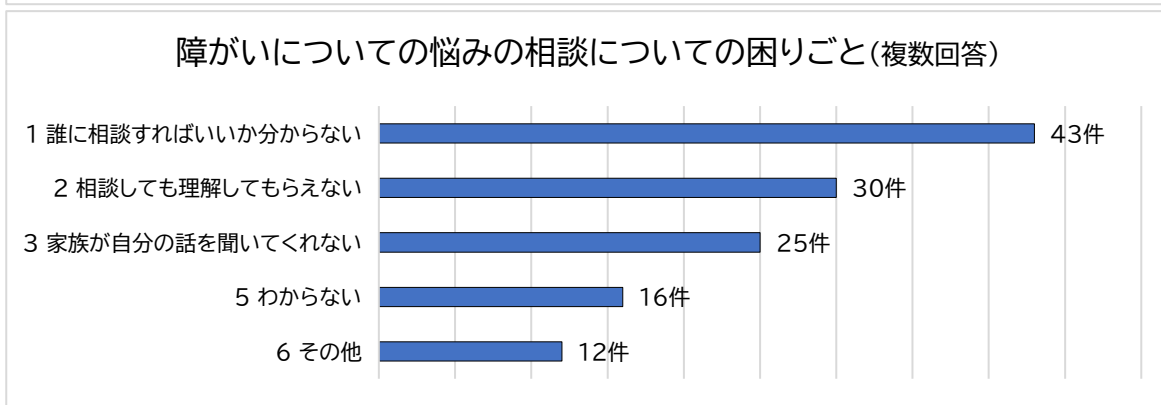
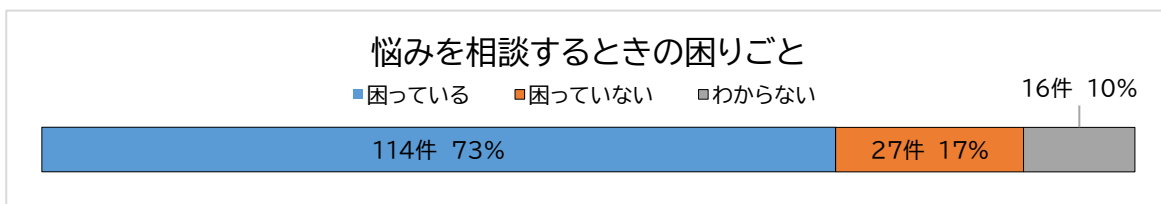
参加の困りごとでは、「移動が困難」「介助をしてくれる人がいない」との回答が多く、特に、肢体不自由、難病、視覚障がいの回答が多い。

障がい者の社会参加を促進していくために、当事者自身が意欲的に参加できるよう、移動手段・支援者の確保、活動内容、活動場所の確保について考えていく必要がある。

【相談に関すること】

問7(1) 対象者は、障がいについての悩みを相談したいとき、どのようなことに困っていると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

73%が困っていると回答している。「誰に相談すればいいかわからない」が43件と最も多い。次いで、「相談しても理解してもらえない」が30件となっている。「誰に相談すればいいかわからない」は、肢体不自由、内部障がい、音声・言語障がい、視覚障がい、聴覚障がい



※その他

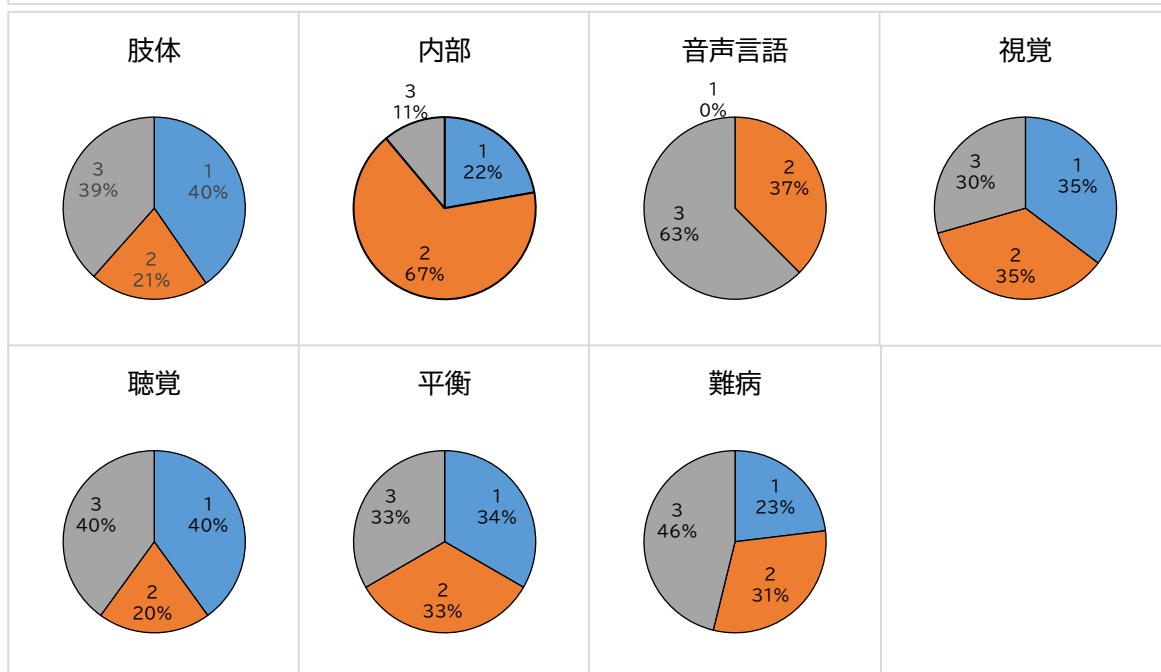
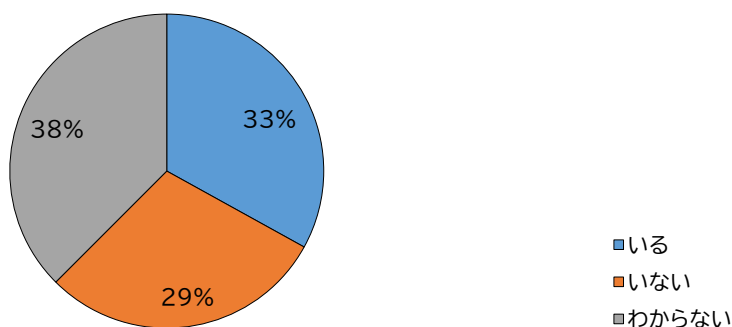
- 困りごとがあっても自分からは相談しようと思われない。自分ですべてを処理しようと思われ他人に頼ることが苦手。傍で何でも話せる人が必要（肢体不自由）
- 意思疎通が困難（肢体不自由）

- 意思表示がうまくできない（音声言語障がい）
- 相談できる相手がいない。ケアマネ、施設職員は時間制約がある（視覚障がい）
- 自分で相談できず、ひきこもっている人々(存在の把握)に目をやってほしい（聴覚障がい）
- 相談できる事業所はあるが難病のため事例が少なく情報が少ない（難病） など

問 7 (2) 対象者の中に、障がい者同士で悩みを相談する場が必要だと思われる方はいますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

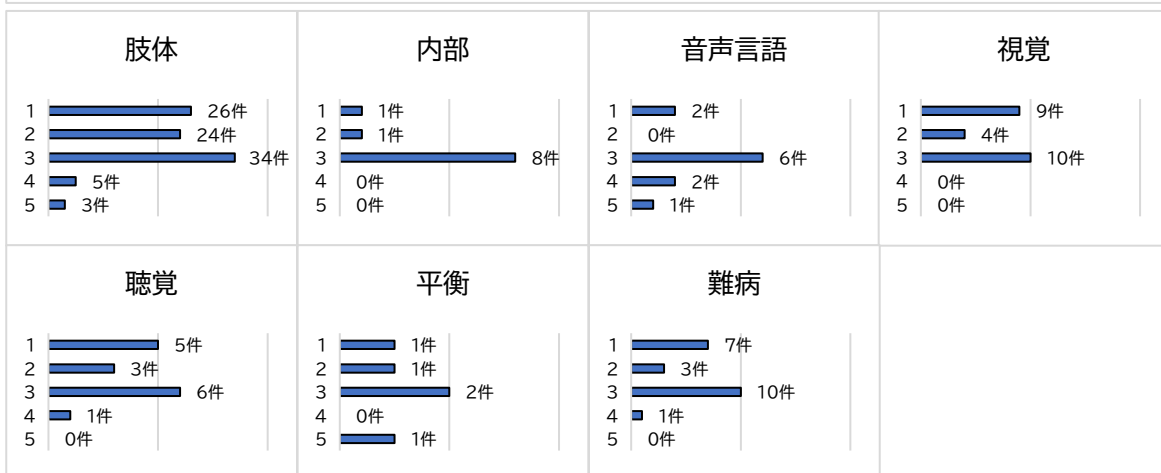
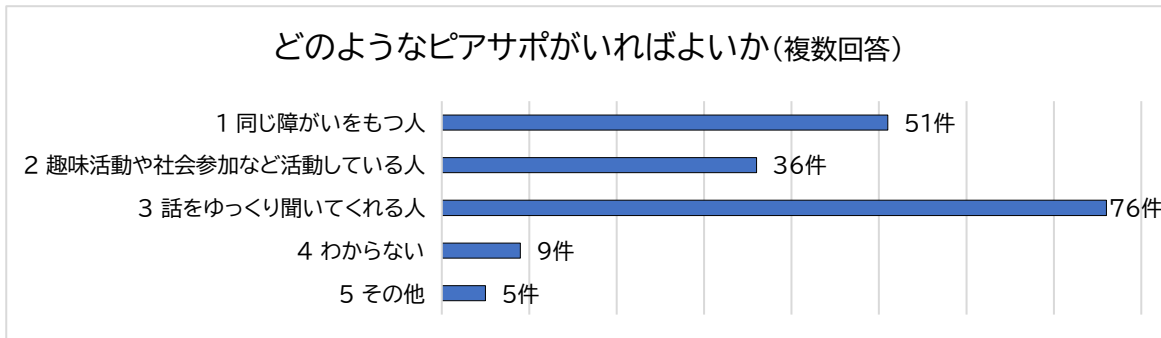
「わからない」が38%と最も多く、次いで「いる」が33%、「いない」が29%だった。「いる」は、肢体不自由、視覚障がい、聴覚障害、平衡機能障がい以最も多い。

障がい者同士で悩みを相談する場が必要な方がいるかどうか



問7(3) どのようなピアサポーター（障がいのある当事者相談員）がいれば相談しやすいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「話をゆっくり聞いてくれる人」が76件と最も多い。次いで「同じ障がいをもつ人」が51件となっている。障がい別にみても同様の傾向がある。



※その他

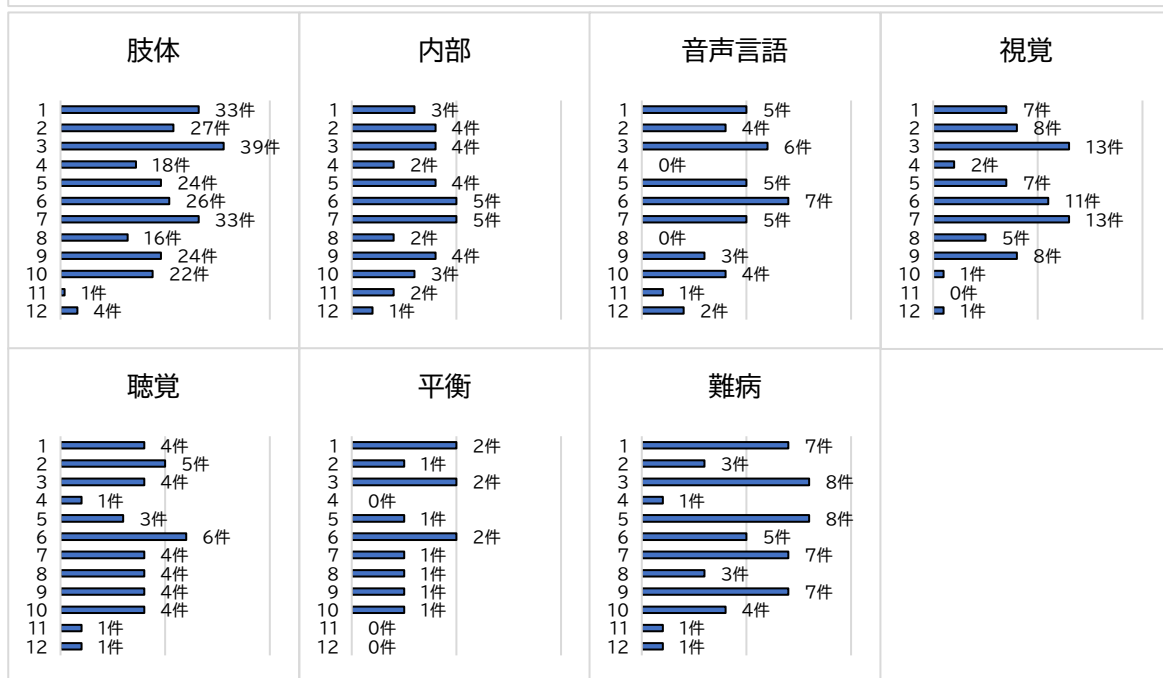
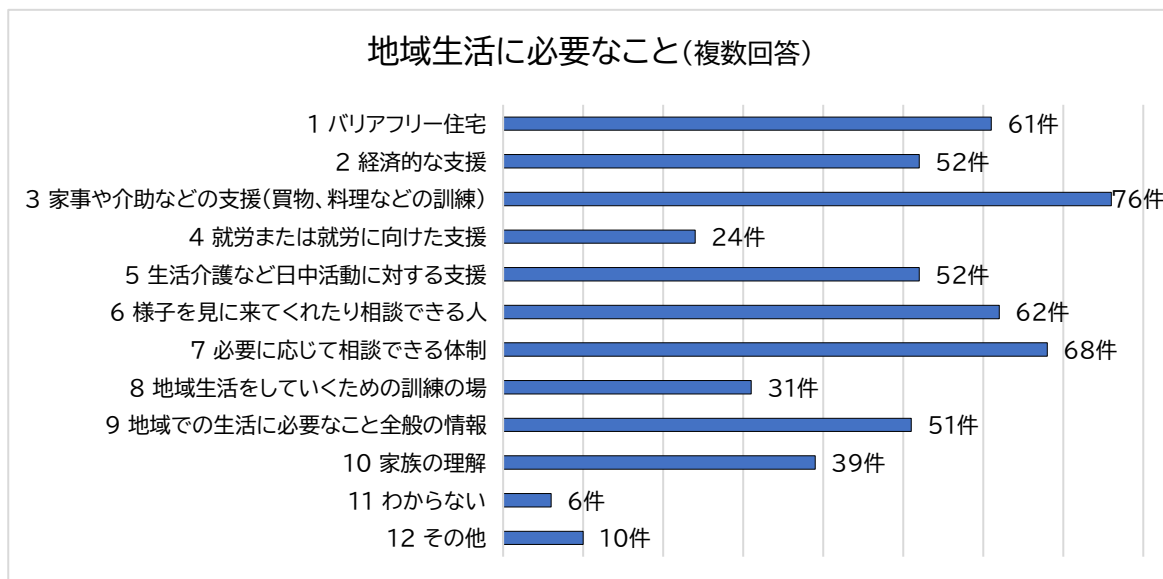
- ・当事者の個性や希望していることによって、ピアサポーターにも多様性があったほうが良い（肢体不自由）
- ・その方を受容し非審判的態度がとれる人（肢体不自由）
- ・同じ障がいの会がある。定期的にサポートしていただいているため不満はない（肢体不自由）
- ・特性や困りごとを理解し、わかりやすく説明したり、気持ちを汲み取ってほしい（音声言語障がい）
など

「誰に相談すればいいかわからない」「相談しても理解してもらえない」といった回答が多く、障がいについての悩みはそれぞれにあり、内容も多様である。
幅広い相談内容に対応するために、当事者団体や身体障がい者の情報提供施設などとのネットワークの構築、ピアサポーターの周知や活動の充実を図り、「話をゆっくり聞いてくれる人」や「同じ障がいをもつ人」など当事者が希望していることに合った相談相手に繋げる体制を整える必要がある

【地域生活に関すること】

問8（1）対象者が地域で生活するために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけて、具体的にご記入ください。

「家事や介助などの支援」が76件と最も多い。次いで「必要に応じて相談できる体制」が68件、「様子を見に来てくれたり相談できる人」が62件となっている。「家事や介助などの支援」は、肢体不自由、視覚障がい、平衡機能障害、難病で最も多い。



※具体的な内容

- ・親亡きあとの体制づくり（肢体不自由）

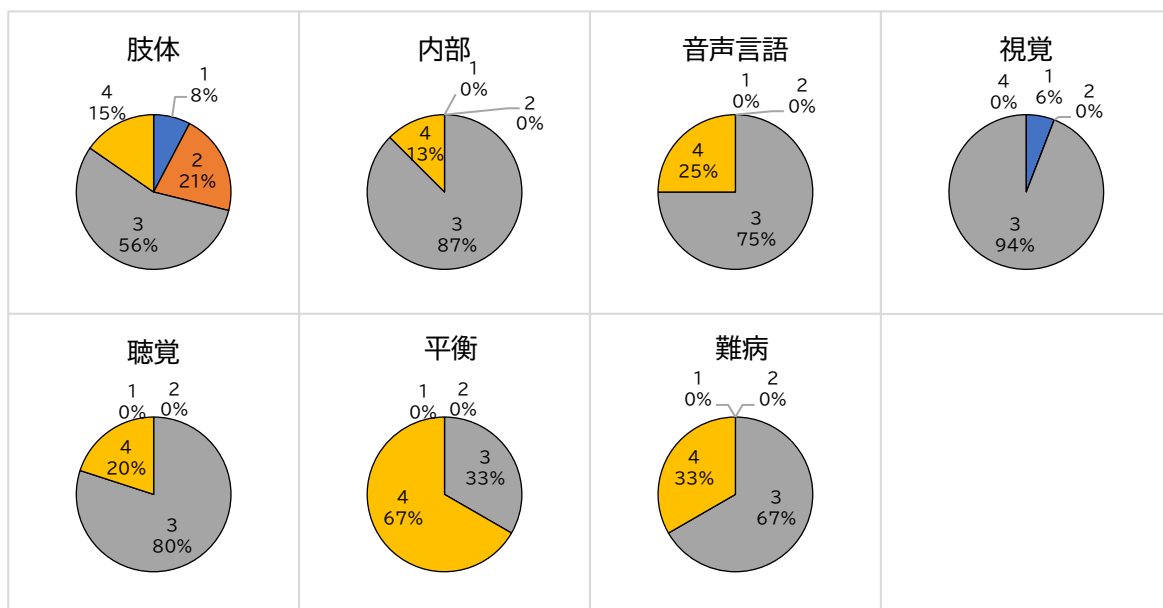
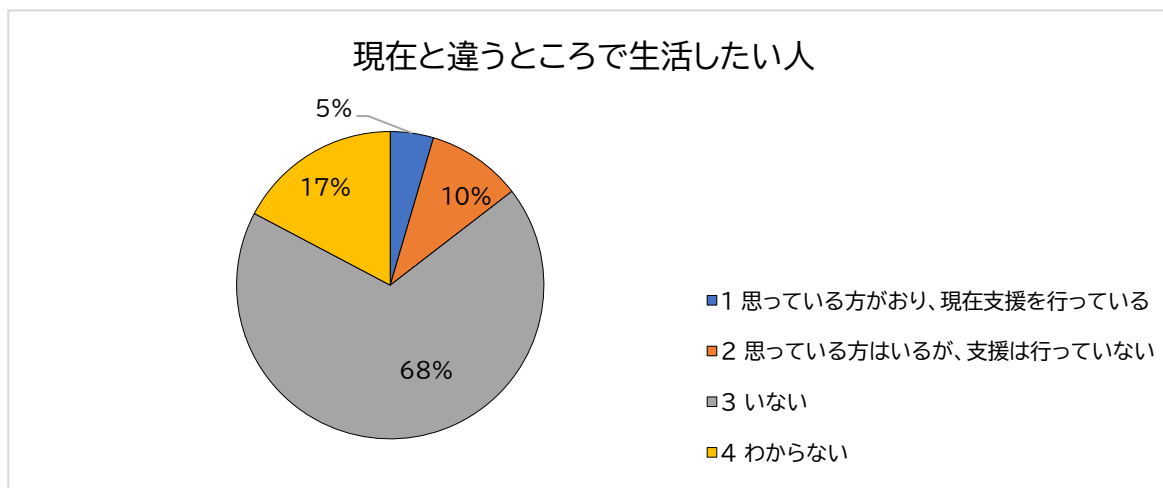
- 高齢の母に何かあった時や災害時の対応・連絡など（視覚障がい）
- 家族以外の良き相談者が長時間関わることが必要。家族は全員疲れ果てている。見るに堪えないほど（難病）
- 何時でも何でも相談できる人が傍に必要（肢体不自由）
- 自治会に加入する。隣近所等の住人同士、顔を見知った関係性を作る（肢体不自由）
- 自分で身の回りの事や自己判断することが難しいため、生活全般での支援が必要（肢体不自由）
- 地域で生活することは、24時間の付き添いが必要（平衡機能障がい）
- 地域で生活するときに、まず住宅の確保に困る。住宅が確保できても住宅改修などの出費・ヘルパー分の駐車場の確保など金銭的な問題もある（肢体不自由・難病）
- 段差のない安全な生活環境。退院後将来への経済的不安。一人では外出困難なため必要に応じて相談できる体制づくりなど（視覚障がい）

※その他

- 地域で暮らすには本人たちが不安なのではないか（肢体不自由）
- 本人に家族から自立する意思がない（内部障がい）
- 地域で孤立しない（肢体不自由）
- 地域の人々の理解（肢体不自由）
- 対象者自身も隣近所の住人との付き合いを持つこと（肢体不自由）
- 生活全般の支援（肢体不自由）
- 常に支援者がいる環境（音声言語障がい）
- 24時間の支援体制（音声言語障がい）
- 手話通訳できる人の確保（聴覚障がい）
- 家族が援助出来なくなった場合に本人が気に入る施設見学など（視覚障がい）
- 今は満足して生活されています（肢体不自由）

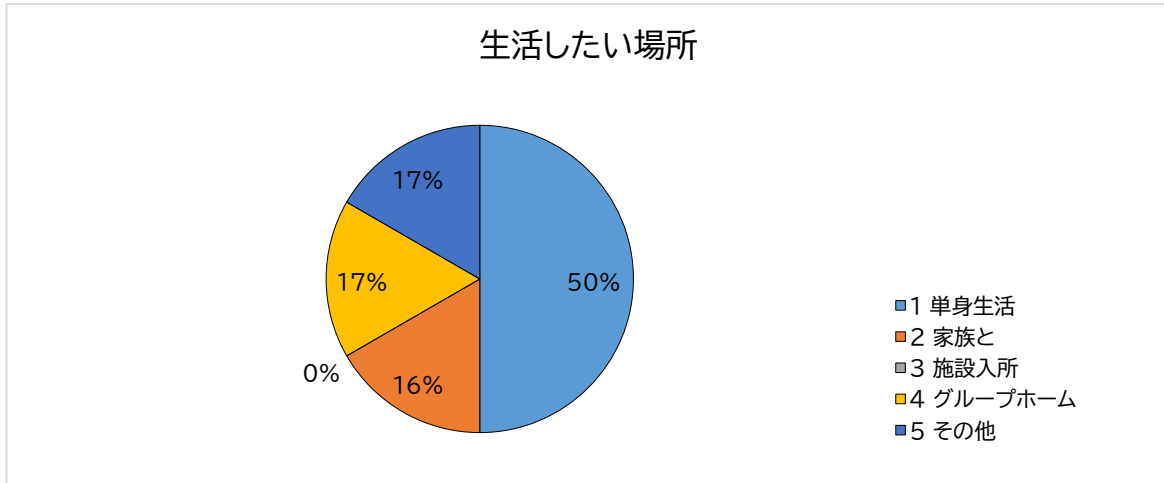
問8 (2) 対象者の中に、現在と違うところで生活を始めたいと思っている方はいますか。あてはまるものに○をつけてください。

「いない」が68%と現在の生活から変化を望まない人が半数以上占めている。次いで「わからない」が17%となっている。肢体不自由、視覚障がいでは「思っている方がおり、現在支援を行っている」との回答がある。



問8（3） 問8（2）で1「思っている方がおり、現在支援を行っている」と答えた方にお聞きします。対象者が生活したい場所にあてはまるもの1つに○をつけ、行っている支援内容をご記入ください。

回答は肢体不自由のみであった。「単身生活」が50%と半数を占めており、残りは「家族と」「グループホーム」「その他」と回答している。「施設入所」の回答はなかった。



<p>肢体</p>	<p>内部</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>音声言語</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>視覚</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>
<p>聴覚</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>平衡</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>難病</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	

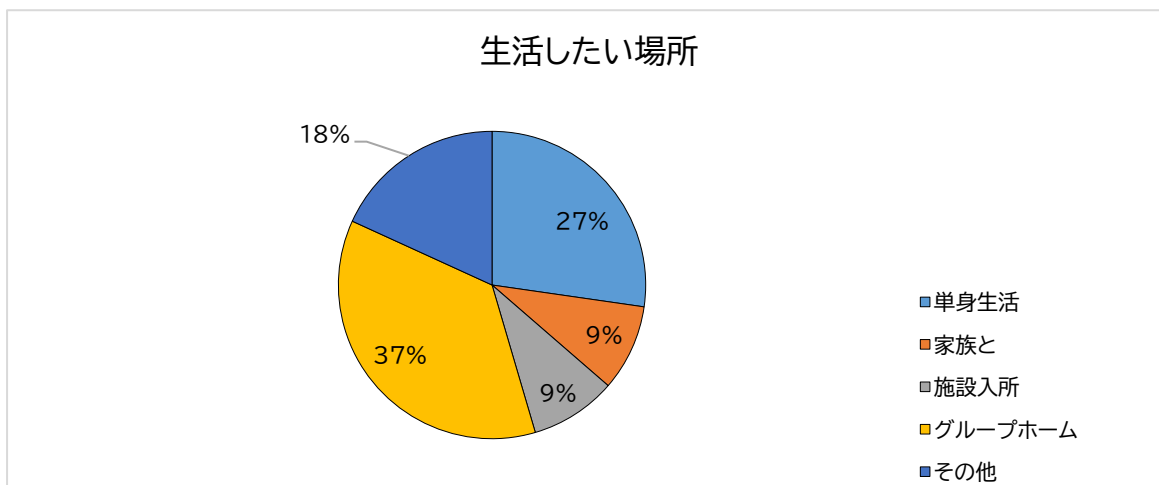
※支援の内容

- ・生活場所の確保、住宅改修、福祉用具や必需品の準備、ヘルパー等福祉資源の手続き、調理・買い物など（肢体不自由）
- ・今後の生活を考え、戻るではなく慣れるか、別の住環境を考えている（肢体不自由）
- ・グループホームより介護が受けられる環境の入所施設（肢体不自由）
- ・生活する場所が見つからない、制度が十分ではない（肢体不自由）

- ・ピアカウンセリング等を行っている（肢体不自由）

問8（4） 問8（2）で2「思っている方はいるが、支援は行ってない」と答えた方にお聞きします。対象者が生活したい場所にあてはまるもの1つに○をつけ、支援を行っていない理由をご記入ください。

回答は肢体不自由のみであった。「グループホーム」が37%と最も多い。次いで「単身生活」が27%となっている。



<p>肢体</p>	<p>内部</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>音声言語</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>視覚</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>
<p>聴覚</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>平衡</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	<p>難病</p> <p>—</p> <p>回答なし</p>	

※支援を行っていない理由

- ・田舎より町に住みたいと思っているが、ご家族がまだしっかりしておりいろいろと協力してくれ非常に恵まれた環境であること。また一人暮らしは今の状態では難しいので進めていない（肢体不自由）
- ・家族の反対と基本的には就労支援を主としているため（肢体不自由）

- 家族と本人の意見の相違（肢体不自由）
- 出来る事業所が少ない（肢体不自由）
- 金銭がない（肢体不自由）

地域で生活するためには、最低限必要な福祉サービスの確保、本人に合った住宅など生活環境の整備、困りごとを相談できる体制が必要である。加えて、社会生活に必要な技術の習得にむけて、自立訓練や自立生活援助を活用することも考えられる。

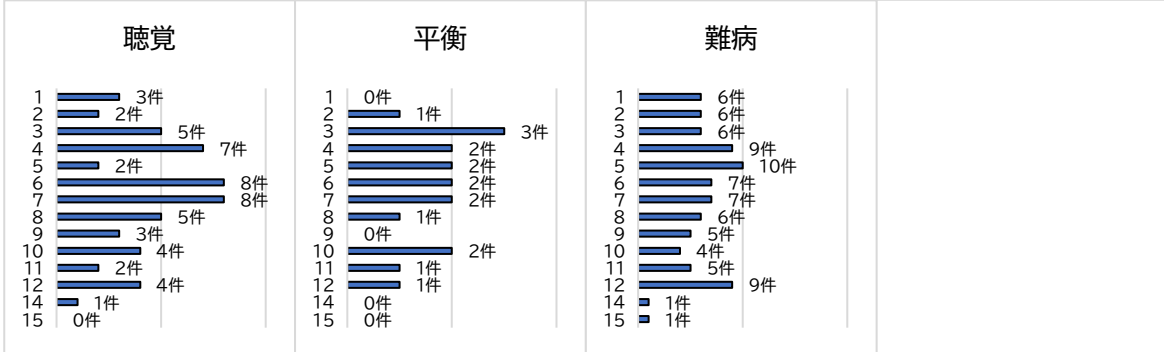
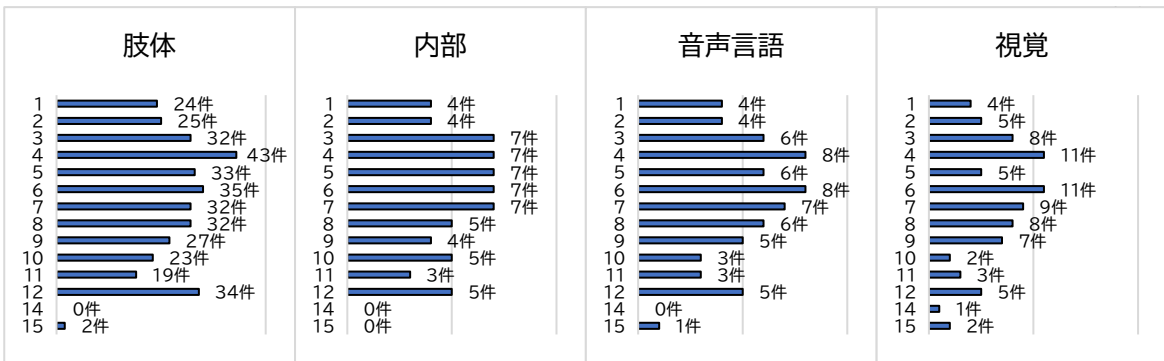
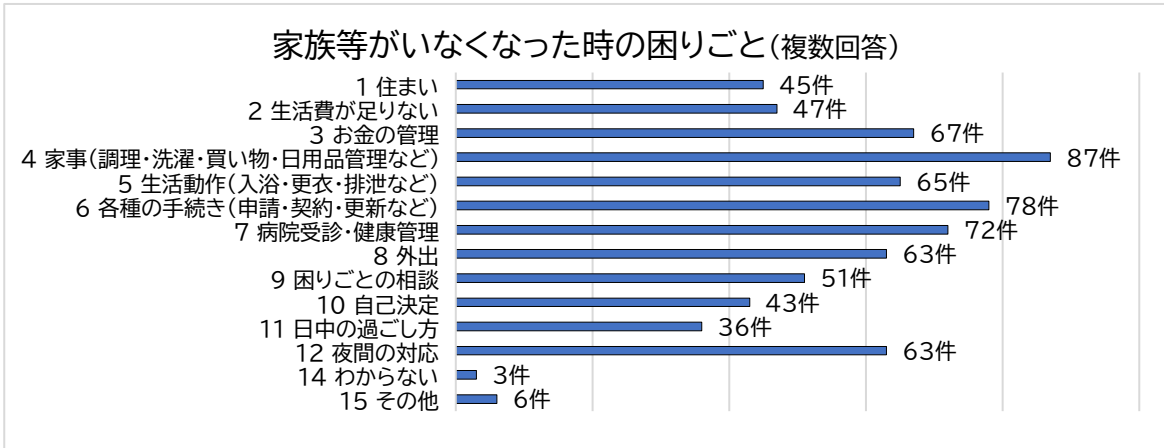
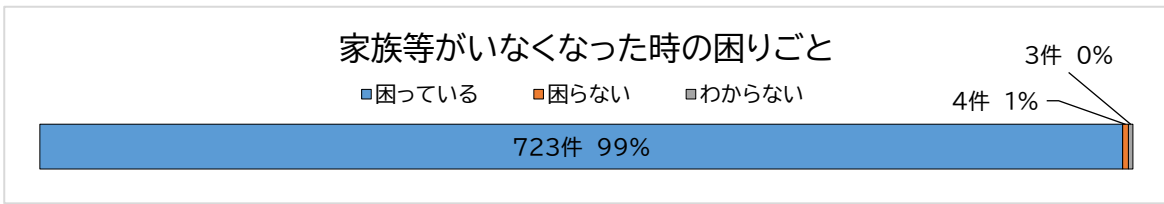
また、地域住民の障がいに対する理解の醸成とともに、障がい者が積極的に地域住民と交流をもつことで、より豊かなものになると考える。

生活の場を変えたい人のうち、67%にはその支援が行われていない。理由としては、家族と本人の意見が分かれているなど、介入が難しい事情もうかがえる。このような場合、サービス担当者会議などで本人の思いを共有し、本人・家族が具体的にイメージを持てるよう、関係機関が協力して支援の充実を図る体制が必要であると考え。また、その中で社会資源の不足などの課題があれば、自立支援協議会に提言するなどして、改善に向けた動きを行うことも必要である。

【将来の生活に関すること】

問9（1）対象者がサービス以外で、身のまわりのことをしてくれる家族等がいなくなった時、具体的にどのようなことに困ると思いますか。

ほとんどが困りごとがあると回答している。「家事（調理・生活・買い物・日用品管理など）」が87件と最も多い。次いで「各種の手続き（申請・契約・更新など）」が78件となっている。「家事（調理・生活・買い物・日用品管理など）」は、肢体不自由、内部障がい、音声・言語障がい、視覚障がいでも多い。また、「夜間の対応」は、肢体不自由や難病で多い。

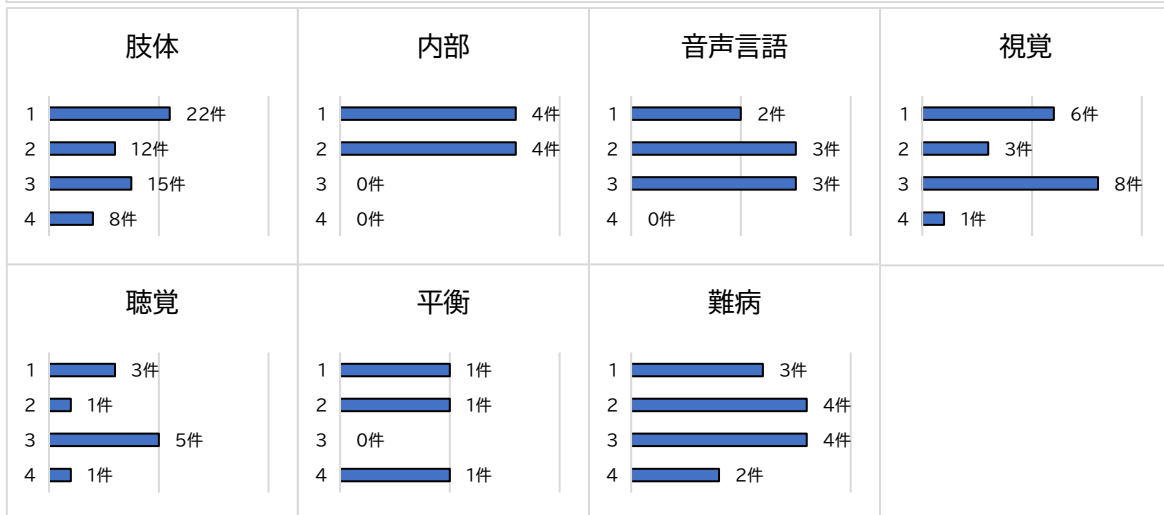
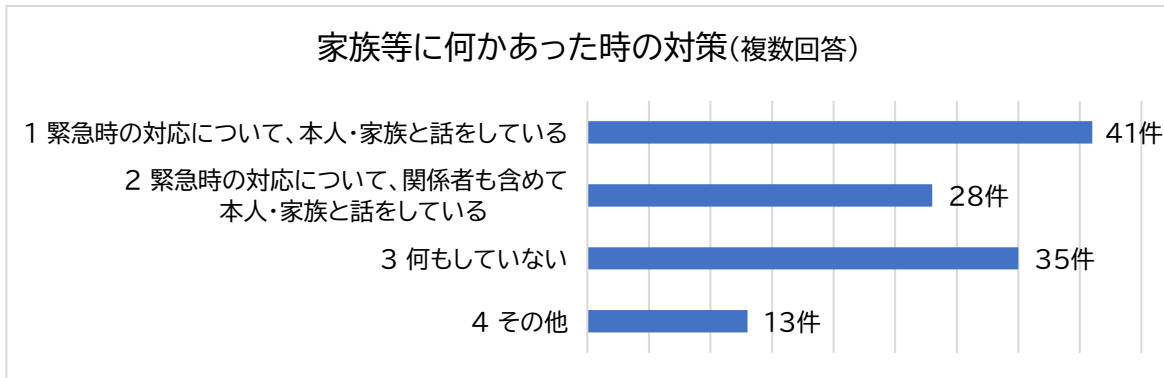


※その他

- 県営住宅で一人暮らしで自立しているが、現在 64 歳でさらに年をとった時に生活動作や健康管理、各種手続きなどに懸念あり（肢体不自由）
- 現在、諸サービスや後見を利用しながら自立されている。状態が安定している現在は良いが、58 歳という年齢もあり将来に不安が残る。急な往診の対応をしてくださる方がいない（視覚障がい）
- 両親は他界し兄妹も施設入所のため現在はグループホームを利用しながら自立されている（難病）
- 安心できる人・キーパーソンが必要（音声言語障がい） など

問9（2）対象者の身のまわりのことをしてくれている家族等に何かあった時（緊急時）のことについて、どのような対策をとっていますか。

「緊急時の対応について、本人・家族と話をしている」が 41 件と最も多い。次いで「何もしていない」が 35 件、「緊急時の対応について、関係者も含めて話をしている」は 28 件となっている。「何もしていない」は、音声・言語障がい、視覚障がい、聴覚障がい、平衡機能障がい、難病で最も多い。



※その他

- 在宅利用の方については生活介護等と利用してもらい、事前に施設環境に慣れておいてもらうよう要請している。過去に疾病情報、生活日課、食事、排泄等まったくもって情報がない中、手探りでの対応となることがあった（肢体不自由）
- 短期入所の登録はしている（肢体不自由・聴覚障がい・平衡感覚障がい）
- 亡くなる前に関係者で話し合い福祉ホームへ入居となった（視覚障がい）
- 将来の入居も視野に、事業所でグループホームの新設を計画中（肢体不自由・視覚障がい・難病）
- 相談支援専門員との連携（肢体不自由）
- 緊急時の対応についての話はしているが、受け入れてくれる病院、施設がほとんどなく、特に夜間泊りの対応が困難（肢体不自由）
- 家族の介護が受けられなくなった時のことを考えて、支援に入れるヘルパーを増やすことの重要性について説明している（難病）
- もう少し密に対策をとりたい（肢体不自由）
- 今後話しあう必要性を感じた（肢体不自由）
- 緊急時について関係者、本人、家族とこれから詰めていこうという話になっている（肢体不自由）
- 本人に緊急時も想定するよう促している（肢体不自由）
- 本人が肢体不自由なのでどうしても家族を頼ってしまう（肢体不自由）

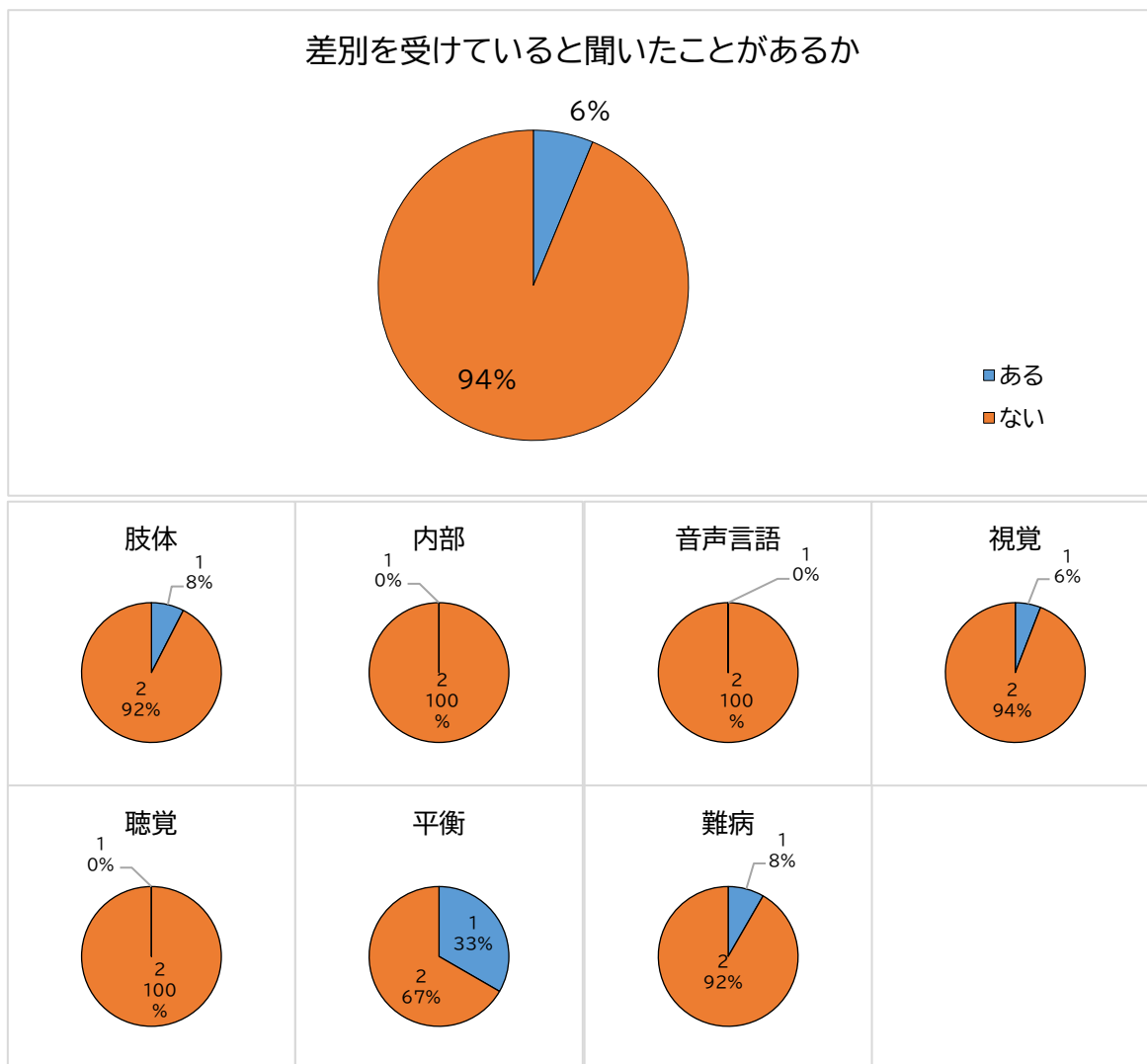
身の回りのことをしてくれる家族等がいなくなった時、家事や各種手続きについて困るとの回答もあるが、これらはサービスや相談支援専門員が対応することで、ある程度解決できると考える。しかし、夜間の対応についてはサービスが十分でないことから、その人が望む生活の継続を考えたときに課題であると考え。

また、身の回りのことをしてくれる家族等に何かあった場合の対策がないというケースが35件あった。高松圏域では、緊急時の対応について検討を行い、サービス等利用計画にその内容を盛り込むことを推進している。しかし、今回の結果からは、まだこれが十分に浸透しているとはいえない状況がうかがえた。相談支援事業所にも結果を共有し、緊急時に適切な対応がとれるよう備えを進めていく必要がある。

【差別に関すること】

問 10 (1) 対象者から、差別を受けていると聞いたことがありますか。

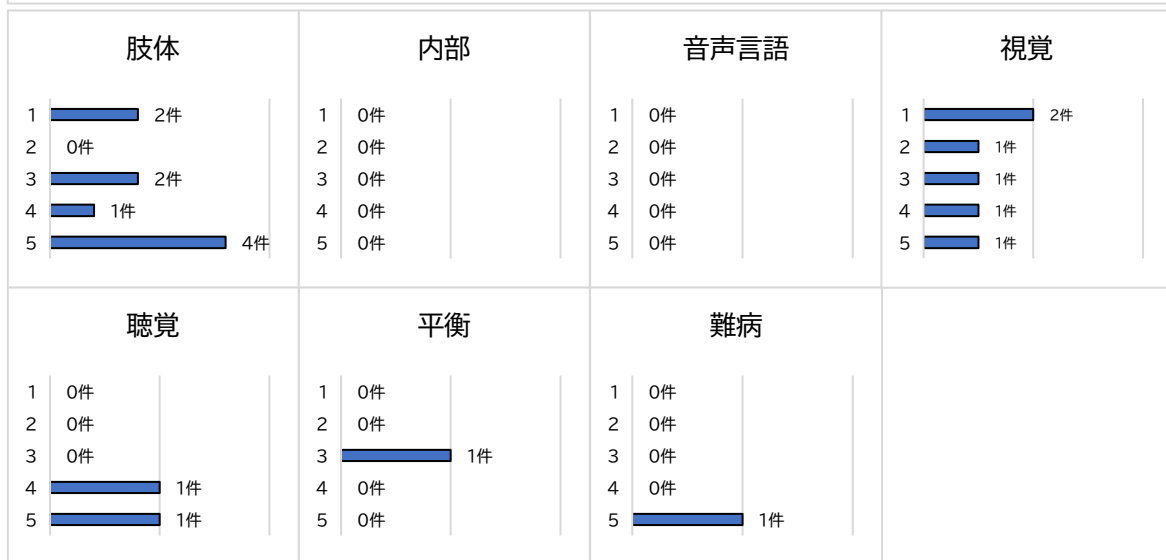
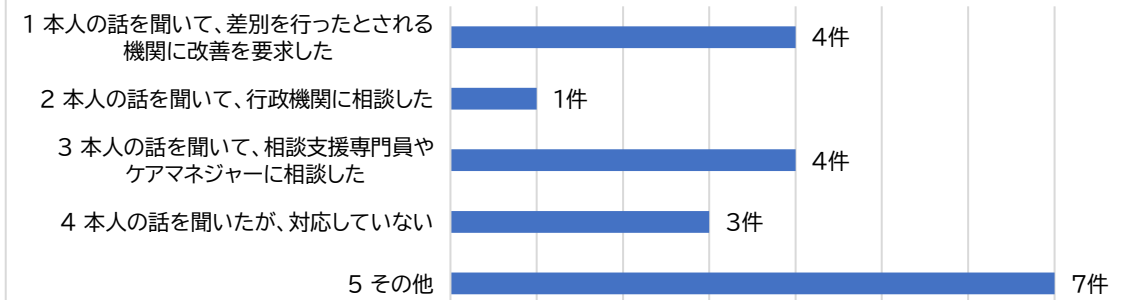
94%が差別を受けていると聞いたことが「ない」と回答しており、6%が「ある」と回答している。肢体不自由、視覚障がい、平衡機能障がい、難病で「ある」との回答があった。



問 10 (2) 差別を受けたと聞いたとき、貴事業所ではどのような対応をしましたか。

「本人の話を聞いて差別を行ったとされる機関に改善を要求した」「本人の話を聞いて相談支援専門員やケアマネジャーに相談した」がそれぞれ 4 件となっている。一方で「対応していない」との回答も 3 件あった。

差別を受けたと聞いた時の対応(複数回答)



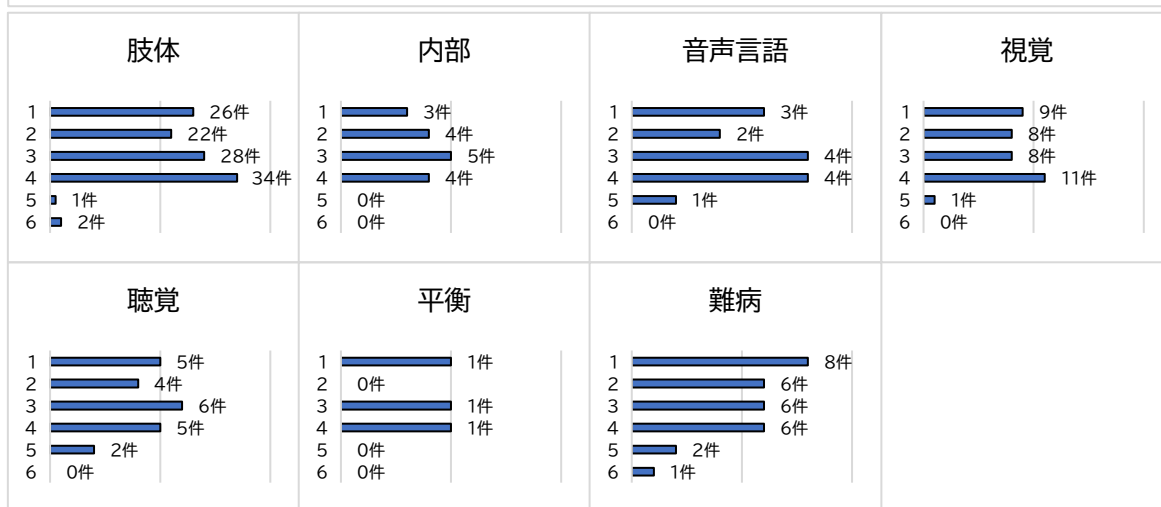
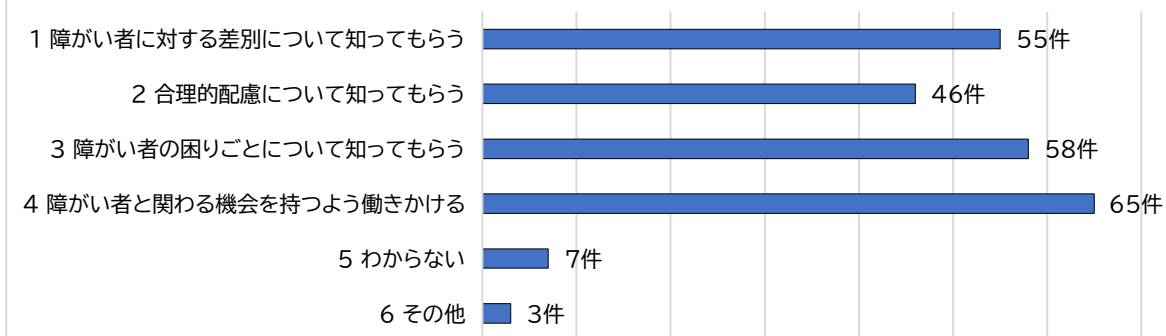
※その他

- ・差別を受けたとの相談を今のところ聞いていない(肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい)
- ・相談されたことがない(肢体不自由)
- ・本人もしくは当事者団体から改善要求するよう促した(肢体不自由・難病) など

問 10 (3) 対象者への差別を無くすためには、地域住民(支援者を含む)に対してどのような働きかけが必要だと思いますか。

「障がい者と関わる機会を持つよう働きかける」が65件と最も多い。次いで「障がい者の困りごとについて知ってもらう」が58件「障がい者に対する差別について知ってもらう」が55件となっている。「障がい者と関わる機会を持つよう働きかける」は、肢体不自由、音声・言語障がい、視覚障がい、平衡機能障がいでもっとも多い。「障がい者に対する差別について知ってもらう」は、平衡機能障がいと難病でもっとも多い。

差別をなくすための働きかけ(複数回答)



※その他

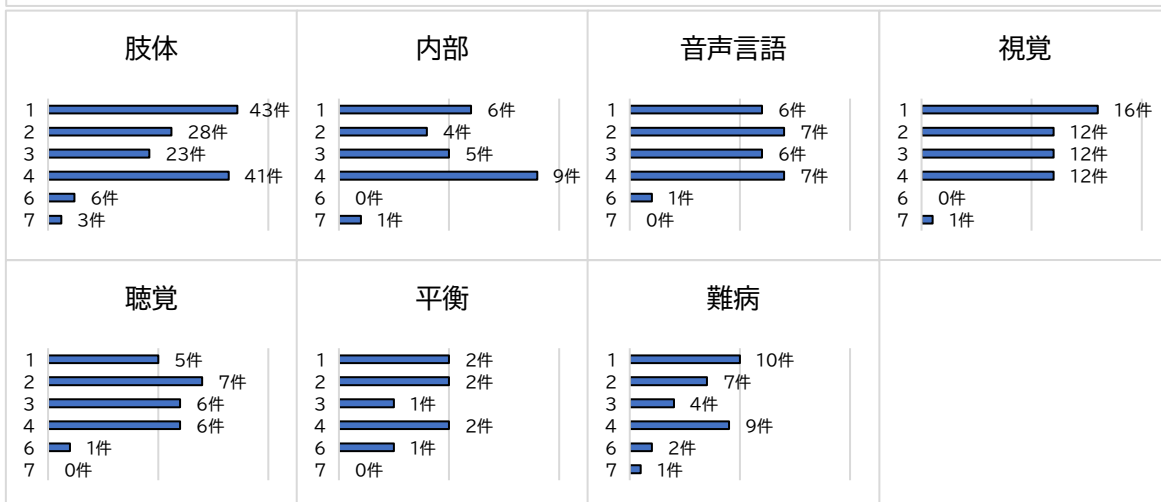
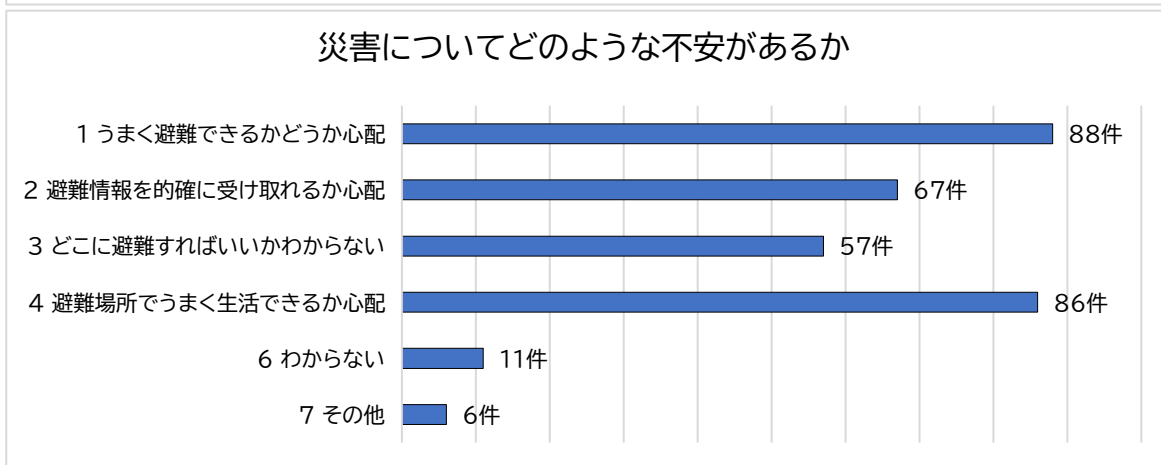
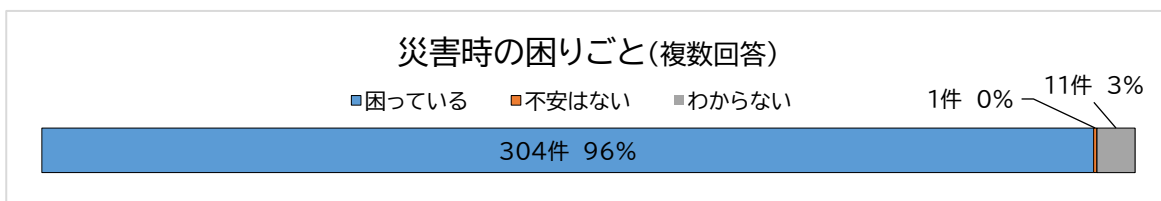
- ・まずは住人同士、互いの顔（存在）を知る関係になること。スーパーマーケット等を活用する（肢体不自由）
- ・家族と地域のかかわり（難病）
- ・学校教育（小・中・高まで）が最重要と考える（肢体不自由）

差別を受けていると聞いたことがないとの回答が全体の94%となっているが、この中には受けているのに相談しなかった人や差別かどうか分からず受け入れた人もいないかと思われる。また、相談を受けた後の対応としては、「行政機関に相談した」が少ない。高松圏域には、障がい者差別にかかわる行政機関の相談先として、香川県障害福祉相談所、高松市障がい福祉課、三木町福祉介護課、直島町住民福祉課がある。支援者には、本人からの相談をまずはしっかりと受け止め、必要に応じて行政機関に通報するなどの対応が求められる。行政とも連携して差別解消法や相談窓口の周知を図るとともに、地域住民と障がい者が知り合う機会を増やしていくことが、障がい者差別をなくすためには大切であると考えられる。

【災害に関すること】

問 11 (1) 対象者は、災害についてどのような不安を持っていると思いますか。

96%が災害時の困りごとがあると回答している。「うまく避難できるかどうか心配」が88件と最も多い。次いで「避難場所ですぐ生活できるか心配」が86件となっている。「うまく避難できるかどうか心配」は、肢体不自由、視覚障がい、平衡機能障がい、難病で最も多い。「避難場所ですぐ生活できるか心配」は、内部障がい、音声・言語障がい、平衡機能障がいでもっとも多い。音声・言語障がい、聴覚障がいの中では「避難情報を的確に受け取れるか心配」との回答が最も多い。

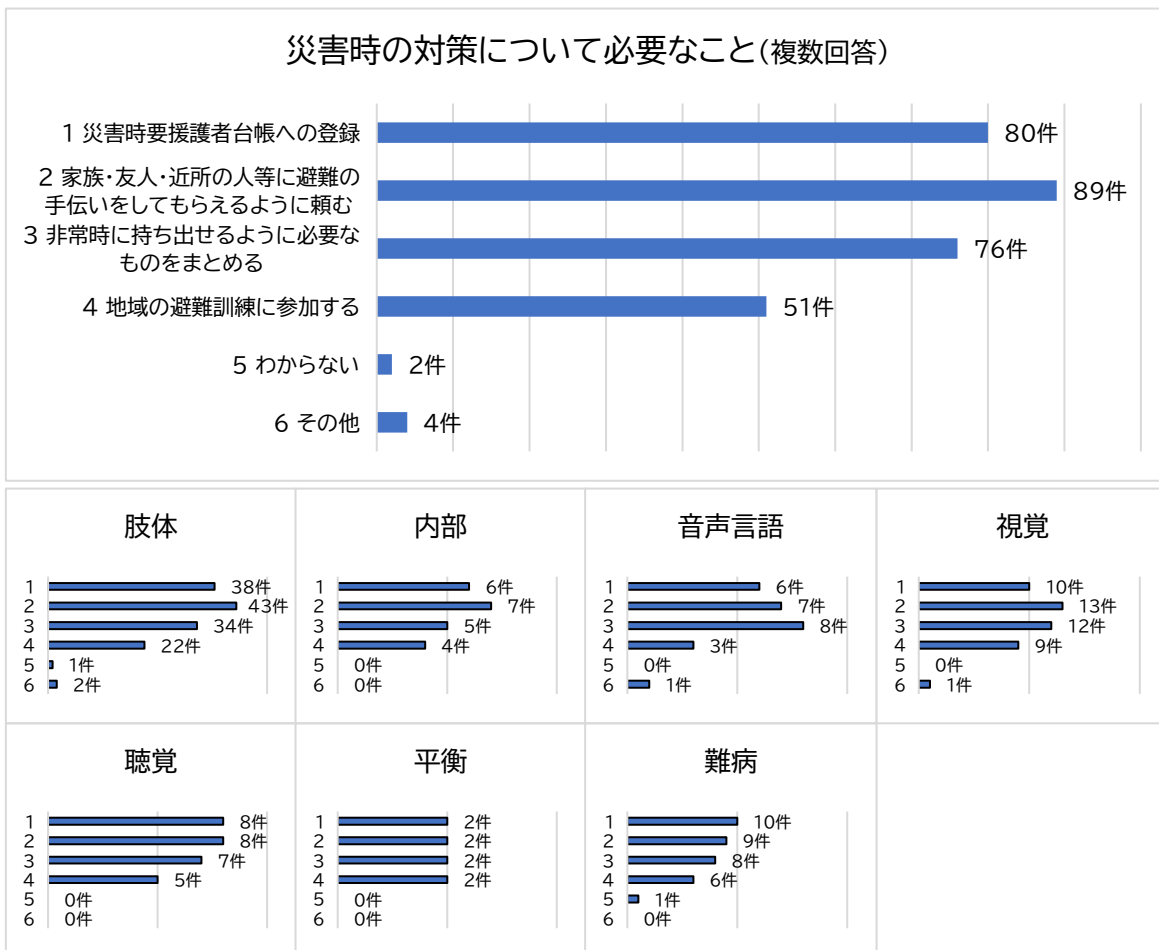


※その他

- ・非常時のことは考えていない方が多い（肢体不自由）
- ・避難所に行くことをあきらめている（内部障がい）
- ・もしもの時にどこに連絡すればよいかわからない（肢体不自由）
- ・迅速に避難するためには介助者が必要（肢体不自由）
- ・誰かの助けがないと本人だけでは避難できない。災害発生時に迅速に対応していただけるか不安（視覚障がい）
- ・言語障がいの方は複数障がいがあり、言語のみの支援では対応できない（音声言語障がい）
- ・グループホームで毎年避難訓練は実施されているが、実際に災害が起こった際に訓練通り迅速に対応できるか不安がある（難病）

問 11 (2) 対象者の災害時の対策について、どのようなことが必要だと思いますか。

「家族・友人・近所の人等に避難の手伝いをしてもらえるように頼む」が 89 件と最も多い。次いで「災害時要援護者台帳への登録」が 80 件となっている。「家族・友人・近所の人等に避難の手伝いをしてもらえるように頼む」は、肢体不自由、内部障がい、視覚障がい、聴覚障がい、平衡機能障がいでも多い。



※その他

- 事業所支援者の避難方法の知識と共通理解（肢体不自由）
- 様々なことを想定して、避難訓練を積み重ね、気持ちも備えていきたい（音声言語障がい）
- 入所している福祉ホームとの連携（平衡感覚障がい）
- 今は福祉ホームに入所しており、避難訓練に参加しているが夜間は不安がある（視覚障がい）
- 事業所では準備しているが、家庭ではまだまだらしい（肢体不自由）
- 災害時要援護台帳に登録したいが、登録すると普段民生委員の方が訪ねてくるので嫌な人もおり複雑である（肢体不自由）

災害時の困りごとでは、避難時の不安と避難後の生活不安に分けることができる。

身体障がいの者の避難は、自宅から脱出できない、避難所までの道が通れない、情報が行き届かないなどの様々なバリアが存在し、支援者に介助してもらわなければ避難できないといった回答も多い。

トイレやベッド、介助に必要なプライベートゾーンなど避難所の設備や介助者の確保、必要な情報の提供方法の検討、必要な介護用品や医療物資の確保など避難後の生活も様々な課題がある。

これらの課題に留意しつつ、災害時に支援が必要なケースに対して、個別の避難計画の策定や発災後も安心して生活ができる仕組みづくりを行政や地域住民と一緒に進めていく必要がある。また、当事者や家族に対しても、地域の防災訓練などへの参加を促すなど、地域住民とのつながりを日頃から持てるような働きかけを行っていく必要があると考える。

地域課題

①福祉サービスについて

(当事者)

— 課題 —

- ・短期入所や移動支援、医ケアが必要な方が利用可能な事業所の不足

(事業所)

— 課題 —

- ・短期入所や移動支援、日中一時支援事業所の不足
- ・医療的ケアが必要な人が利用できる事業所の不足
- ・介護保険サービスへの移行に伴う環境変化と適応

②住宅に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・住宅環境にまつわる制度についての情報の不足

(事業所)

— 課題 —

- ・身体状況に応じた住環境の確保の困難さ
- ・住宅改修や福祉用具の導入について相談先の周知不足

③医療に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・入院、通院時の医療関係者との意思疎通
- ・緊急に医療が必要になった場合の初期対応

(事業所)

— 課題 —

- ・入院、通院時の医療関係者との意思疎通
- ・受診時の交通手段の確保の困難さ

④仕事に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・就労したいが叶わない、状態に応じた訓練が提供できていない

(事業所)

— 課題 —

- ・職場での障がいに対する理解や配慮の不足

⑥情報収集に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・障がい特性により情報の収集が困難であったり、その手段が限定されている

(事業所)

— 課題 —

- ・障がい特性により情報の収集が困難であったり、その手段が限定されている
- ・障がい特性に応じた情報収集についての相談窓口の周知不足

⑦外出・活動に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・建物や道路の環境面、公共交通機関の利便性など、バリアフリー環境

(事業所)

— 課題 —

- ・建物や道路の環境面、公共交通機関の利便性など、バリアフリー環境
- ・マンパワー不足、支援スキルの不足、制度利用の制限など活動に課題がある

⑧相談に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・自分の身体のことや今後の生活など、気軽に相談できる相手の不足

(事業所)

— 課題 —

- ・当事者の希望に沿った相談相手に繋げるための体制

⑨地域生活に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・現状以外の生活に対する具体的なイメージを持つための支援の不足
- ・地域生活に必要な社会生活力習得のための機会の不足

(事業所)

— 課題 —

- ・当事者、家族が現状以外の生活に対する具体的なイメージを持つための支援の不足

⑩将来の生活に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・身のまわりのことをしてくれている家族等に何かあった時の備えが不十分

(事業所)

— 課題 —

- ・身のまわりのことをしてくれている家族等に何かあった時の備えが不十分
- ・緊急時の受け入れ先の不足（病院、施設）
- ・夜間にサービス提供ができる事業所の不足

⑪差別に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・当事者自身と地域住民の障害者差別解消法に対する理解が不十分

(事業所)

— 課題 —

- ・地域住民の障がいに対する理解が不十分
- ・差別を受けた時の相談先の周知が不十分

⑫災害に関すること

(当事者)

— 課題 —

- ・災害に対する日ごろからの備えができていない（備蓄・環境整備等）
- ・災害時の避難体制の構築ができていない

(事業所)

— 課題 —

- ・避難所の環境整備、介護者の確保など必要な体制の構築ができていない
- ・障がい特性に合わせた避難情報の提供

今後の取り組み

高松圏域で生活する身体障がい者（身体障害者手帳の交付を受けた 18 歳から 64 歳までの障害サービス利用者）および、サービスを提供する事業所に対し、日常生活における困りごとの実態調査を実施した。

当事者アンケートの多くの項目では、家族の支援があるため困っていないと回答した人が多い。一方で、家族など介助者の高齢化による体力の衰えなど、将来に漠然とした不安がある。

事業所アンケートでも、家族などがいなくなったときに困るとの回答は多く、将来について不安があるとうかがえる。

まずは、将来の生活イメージを持つことが必要と考える。地域生活をしている障がい当事者の話を聞くことや地域生活の体験をすること、制度や地域の状況を知ること、より具体的な生活のイメージを持つことができる。

また、公共交通機関の利用や金銭管理などできることを増やす、できないことについては福祉サービスを検討するなど、地域生活に必要な訓練や情報を提供することで、生活の場を自分で選択することができるのではないかと考える。

これらのことを、当事者・家族と支援者が一緒に考えていくことが、将来についての不安の解消につながると考える。

今後、社会生活力を身につけるための取り組みやピアサポート活動について推進していく。

当事者アンケートでは、防災に関する情報を知りたいといった回答が多く、関心の高さがうかがえる反面、対策をしていない人が多い。生活必需品や医療品の確保など自分で準備しておくことに加え、家族以外にも支援してもらえる体制を確保する必要がある。地域の避難訓練などを通して近隣住民と顔の見える関係になっておくことが望ましい。

また、避難所の設備や介助者の確保、必要な情報の提供方法の検討など避難後の生活も様々な課題がある。これらのことに留意し、障がい特性に合わせた避難所の調整などを行政と一緒に検討する必要がある。

近年においては大規模地震も予測されていることから、災害前の対策や備えについての周知・啓発について取り組んでいくとともに、地域の防災組織や行政と一緒に障がい者も安心して避難できる体制を整えていくべきだと考える。

アンケートに回答した当事者の半数以上の方が、何らかの活動に参加してみたいと回答しているが、参加できていない現状がある。身体障がい者の社会参加を阻害している要因として、情報不足・移動の困難さ・バリアフリー環境が整備されていない・障がいに対する周囲の理解不足があげられる。障がい特性にあった機器の活用方法の習得や環境調整に向けた支援、公共交通機関の利用など出来ることを増やす・移動するための支援の確保、バリア

フリー環境整備が必要と考える。さらに、地域住民に障がいについて理解してもらい、必要な時に手助けしてもらえる意識を醸成することで、身体障がい者の社会参加を促進していくことができると考えられる。

また、障害者差別解消法については、回答した当事者のほとんどが知らない、よくわからないとの結果であった。そもそもどのようなものが差別に該当するのかわからず、相談していない現状もある。サービス提供事業所で相談を受けた件数は少なく、相談を受けたが対応していないケースもあった。

今後、身体障がい者の社会参加の促進に向けて、障害者差別解消法の周知・啓発や地域における障がいへの理解を深めてもらえるよう取り組んでいく

身体障がい者が豊かな生活を送れる地域を作っていくためにも、これらの課題に対して、身体障害者支援部会をはじめとする高松圏域自立支援協議会において、地域住民とともに取り組みを進めていきたい。